

(様式第10)

京大病サ企第54号
令和2年10月5日

厚生労働大臣 殿

開設者名
国立大学法人京都大学
学長 湊 長 博 (印)

京都大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和元年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

| | |
|-----|-------------------------|
| 住 所 | 〒606-8501 京都府京都市左京区吉田本町 |
| 氏 名 | 国立大学法人 京都大学 |

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

| |
|-------------|
| 京都大学医学部附属病院 |
|-------------|

3 所在の場所

| | |
|-------------------------------|-------------------|
| 〒606-8507 京都府京都市左京区聖護院川原町54番地 | 電話(075) 751-3111 |
|-------------------------------|-------------------|

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

| |
|---|
| ① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 |
| 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜 |

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

| 内科 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 |
|---|--|
| 内科と組み合わせた診療科名等 | |
| 1 呼吸器内科 2 消化器内科 ③ 循環器内科 4 腎臓内科 | |
| 5 神経内科 6 血液内科 7 内分泌内科 8 代謝内科 | |
| 9 感染症内科 10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科 11 リウマチ科 | |
| 診療実績 | |
| 呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、感染症内科、アレルギー疾患内科またはアレルギー科、リウマチ科の内容は内科で診療している。 神経内科の診療内容は脳神経内科にて提供している。 | |

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

| | | | |
|---------------|--|-------------------------------------|--------|
| 外科 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 | | |
| 外科と組み合わせた診療科名 | | | |
| ① 呼吸器外科 | 2 消化器外科 | 3 乳腺外科 | 4 心臓外科 |
| 5 血管外科 | ⑥ 心臓血管外科 | 7 内分泌外科 | 8 小児外科 |
| 診療実績 | | 消化器外科、乳腺外科、内分泌外科、小児外科の内容は外科で診療している。 | |

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

| | | | | | |
|--------|-----------|-----------|---------|-------|---------|
| ① 精神科 | ② 小児科 | ③ 整形外科 | ④ 脳神経外科 | ⑤ 皮膚科 | |
| ⑥ 泌尿器科 | 7 産婦人科 | ⑧ 産科 | ⑨ 婦人科 | ⑩ 眼科 | ⑪ 耳鼻咽喉科 |
| ⑫ 放射線科 | 13 放射線診断科 | 14 放射線治療科 | ⑮ 麻酔科 | ⑯ 救急科 | |

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

| | | |
|---------------|--|--------------------------|
| 歯科 | <input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 | |
| 歯科と組み合わせた診療科名 | | |
| 1 小児歯科 | ② 矯正歯科 | 3 口腔外科 |
| 歯科の診療体制 | | 通常の歯科診療内容は歯科口腔外科で提供している。 |

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

| | | | | |
|----------|---------|--------|--------------|---------|
| 1 歯科口腔外科 | 2 脳神経内科 | 3 形成外科 | 4 リハビリテーション科 | 5 病理診断科 |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

| | | | | | |
|------|-----|------|----|---------|---------|
| 精神 | 感染症 | 結核 | 療養 | 一般 | 合計 |
| 60 床 | 床 | 15 床 | 床 | 1,066 床 | 1,141 床 |

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

| 職 種 | 常 勤 | 非常勤 | 合 計 | 職 種 | 員 数 | 職 種 | 員 数 |
|-------|---------|-------|-----------|---------|------|-------------|-------|
| 医 師 | 522 人 | 517 人 | 664.6 人 | 看護補助者 | 68 人 | 診療エックス線技師 | 0 人 |
| 歯科医師 | 29 人 | 1 人 | 29.7 人 | 理学療法士 | 20 人 | 臨床検査技師 | 96 人 |
| 薬 剤 師 | 94 人 | 9 人 | 100.9 人 | 作業療法士 | 12 人 | 検査衛生検査技師 | 0 人 |
| 保 健 師 | 0 人 | 0 人 | 0.0 人 | 視能訓練士 | 9 人 | その他 | 0 人 |
| 助 産 師 | 44 人 | 0 人 | 44.0 人 | 義肢装具士 | 0 人 | あん摩マッサージ指圧師 | 0 人 |
| 看 護 師 | 1,200 人 | 59 人 | 1,246.2 人 | 臨床工学士 | 33 人 | 医療社会事業従事者 | 12 人 |
| 准看護師 | 0 人 | 0 人 | 0.0 人 | 栄 養 士 | 0 人 | その他の技術員 | 165 人 |
| 歯科衛生士 | 6 人 | 2 人 | 7.5 人 | 歯科技工士 | 3 人 | 事 務 職 員 | 410 人 |
| 管理栄養士 | 16 人 | 5 人 | 19.8 人 | 診療放射線技師 | 68 人 | その他の職員 | 169 人 |

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

| 専門医名 | 人 数 | 専門医名 | 人 数 |
|---------------|------|-------------|-------|
| 総合内科専門医 | 69 人 | 眼 科 専 門 医 | 6 人 |
| 外 科 専 門 医 | 33 人 | 耳鼻咽喉科専門医 | 7 人 |
| 精 神 科 専 門 医 | 10 人 | 放射線科専門医 | 1 人 |
| 小 児 科 専 門 医 | 14 人 | 脳神経外科専門医 | 2 人 |
| 皮 膚 科 専 門 医 | 9 人 | 整形外科専門医 | 12 人 |
| 泌尿器科専門医 | 9 人 | 麻 酔 科 専 門 医 | 11 人 |
| 産 婦 人 科 専 門 医 | 11 人 | 救 急 科 専 門 医 | 7 人 |
| | | 合 計 | 201 人 |

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (宮本 享) 任命年月日 平成 31年 4月 1日

平成27年4月から平成31年3月まで医療安全管理委員会の委員として医療に係る安全管理の業務に従事した。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

| | 歯科等以外 | 歯科等 | 合計 |
|--------------|----------|-------|----------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 821.8人 | 14.0人 | 835.8人 |
| 1日当たり平均外来患者数 | 1,791.0人 | 74.6人 | 1,865.6人 |
| 1日当たり平均調剤数 | 1,216.9剤 | | |
| 必要医師数 | 193.0人 | | |
| 必要歯科医師数 | 6.0人 | | |
| 必要薬剤師数 | 28.0人 | | |
| 必要(准)看護師数 | 481.0人 | | |

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

| 施設名 | 床面積 | 主要構造 | 設備概要 | | | |
|----------|--------------------------|-----------------------|-----------------|---|---------|---|
| | | | 病床数 | | | |
| 集中治療室 | 1,578.13 m ² | 鉄筋コンクリート | 病床数 | 78床 | 心電計 | <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無 |
| | | | 人工呼吸装置 | <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無 | 心細動除去装置 | <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無 |
| | | | その他の救急蘇生装置 | <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無 | ペースメーカー | <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無 |
| 無菌病室等 | [固定式の場合] 床面積 | 772.22 m ² | 病床数 | 54床 | | |
| | [移動式の場合] 台数 | 台 | 病床数 | 床 | | |
| 医薬品情報管理室 | [専用室の場合] 床面積 | 73.12 m ² | [共用室の場合] 共用する室名 | | | |
| 化学検査室 | 591.00 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) | 全自動生化学自動分析装置、全自動血球計数装置 | | |
| 細菌検査室 | 199.00 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) | 全自動微生物培養検出装置、全自動細菌培養感受性装置 | | |
| 病理検査室 | 349.20 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) | 密閉式自動固定包埋装置、全自動H&E染色装置、自動免疫染色装置 | | |
| 病理解剖室 | 57.00 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) | 解剖台、写真撮影装置 | | |
| 研究室 | 40,129.28 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) | 電子顕微鏡、遠心分離機 | | |
| 講義室 | 496.00 m ² | 鉄筋コンクリート | 室数 | 2室 | 収容定員 | 329人 |
| 図書室 | 787.00 m ² | 鉄筋コンクリート | 室数 | 7室 | 蔵書数 | 220,001冊程度 |

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

| | | | |
|------|-----------------------|---------|--------|
| 紹介率 | 83.60% | 逆紹介率 | 81.60% |
| 算出根拠 | A：紹介患者の数 | 15,199人 | |
| | B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数 | 20,174人 | |
| | C：救急用自動車によって搬入された患者の数 | 5,488人 | |
| | D：初診の患者の数 | 24,737人 | |

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 選定理由 | 利害関係 | 委員の要件 該当状況 |
|-------|--------------------------------|---------------|-------------------------|--|---------------|
| 潮見 佳男 | 京都大学副学長 (法務・コンプライアンス担当) | | 総長が指名する副学長 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 | 3 |
| 平野 哲郎 | 立命館大学 法科大学院 教授 | | 法律に関する専門的知識を有する者 | <input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 1 |
| 佐和 貞治 | 京都府立医科大学 医療安全管理部 部長 | | 医療に係る安全管理に関する専門的知識を有する者 | <input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 1 |
| 伊藤 英樹 | 広島大学病院 医療安全管理部 部長 | | 医療に係る安全管理に関する専門的知識を有する者 | <input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 1 |
| 山口 育子 | 認定NPO法人 ささえあい医療人権センターCOMIL 理事長 | ○ | 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 | <input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 2 |
| | | | | <input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 | |
| | | | | <input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 | |

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

| | |
|----------------|--|
| 委員名簿の公表の有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 |
| 委員の選定理由の公表の有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 |
| 公表の方法 | |
| 京都大学ホームページに掲載。 | |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

| | | | |
|---|---------------------------|-------|-----|
| 医療技術名 | キムリア® (CD19キメラ抗原受容体T細胞療法) | 取扱患者数 | 6人 |
| 当該医療技術の概要 B細胞腫瘍(急性リンパ芽球性白血病, びまん性大細胞型B細胞リンパ腫)の患者から採取したT細胞にCD19キメラ抗原受容体遺伝子を遺伝子導入し, 増殖させたものを患者に投与する。本治療は全国で14施設でしか提供されていない。 | | | |
| 医療技術名 | 経皮的動脈弁置換術(TAVI) | 取扱患者数 | 49人 |
| 当該医療技術の概要 以前は開胸手術しか方法がなかった動脈弁狭窄症に対するカテーテルによる経皮的動脈弁形成術。治療はハイブリッド手術室で行なわれる。手術は心臓血管外科とのハートチームで行なう。ハイブリッド手術室で行う必要がある。施設認定が必要。 | | | |
| 医療技術名 | 経皮的僧帽弁形成術 | 取扱患者数 | 8人 |
| 当該医療技術の概要 重症僧帽弁閉鎖不全症患者に対して, カテーテルにより僧帽弁をクリップすることにより経皮的僧帽弁形成術が可能となった。開胸手術に対しハイリスク患者に治療を行うこと出来るようになった。全身麻酔下でハイブリッド手術室で施行され, 施行施設認定が必要。 | | | |
| 医療技術名 | エキシマレーザー使用によるデバイスリード抜去術 | 取扱患者数 | 12人 |
| 当該医療技術の概要 感染などの理由で, 植え込み術後数年が経過したペースメーカーや除細動器をレーザーを用いて, 抜去する。手術は心臓血管外科のバックアップのもとに, ハイブリッド手術室で行う必要がある。 | | | |
| 医療技術名 | リードレスペースメーカー | 取扱患者数 | 27人 |
| 当該医療技術の概要 血管閉塞, 認知症, フレイルなど通常のペースメーカー植え込みが困難あるいはリスクの高い症例, VVI適応の症例について, 当院では心臓血管外科のバックアップのもとに経カテーテル的にリードレスペースメーカー植え込み術を施行している。 | | | |
| 医療技術名 | 経カテーテル的心房中隔閉鎖術 | 取扱患者数 | 8人 |
| 当該医療技術の概要 従来開胸手術で閉鎖していた心房中隔欠損を経カテーテル的に閉鎖デバイスを用いて閉鎖するものである。 | | | |
| 医療技術名 | 経カテーテル的左心耳閉鎖術(WATCHMAN) | 取扱患者数 | 3人 |
| 当該医療技術の概要 心房細動において血栓塞栓症の予防のために抗凝固療法が難しい患者に対して, 血栓形成を予防するため経カテーテル的に左心耳を閉鎖する。 | | | |
| 医療技術名 | 局所進行膵癌に対する超音波内視鏡下金マーカー留置術 | 取扱患者数 | 5人 |
| 当該医療技術の概要 局所進行膵癌と対して動体追尾強度変調放射線治療を施行するため, 超音波内視鏡下に金マーカーを留置するもの。 | | | |
| 医療技術名 | 自家培養表皮を用いた先天性巨大色素性母斑治療 | 取扱患者数 | 10人 |
| 当該医療技術の概要 先天性巨大色素性母斑患者に対して, 自家培養表皮を用いた皮膚再生療法を実施する。 | | | |
| 医療技術名 | 右左反転生体肺移植 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要 ドナーの右下葉を, レシピエントの左肺として移植する方法。世界で京都大学でのみ行われている。患者は順調に経過した。 | | | |
| 医療技術名 | 肺悪性腫瘍に対する自家肺移植 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要 腎がんの肺転移に対して, 左片肺を全摘して, 体外で腫瘍のない下葉を分離し, 体内に戻した。世界でも報告は少ない。生体肺移植の技術を悪性腫瘍に応用したものである。経過良好であった(京大6例目)。 | | | |

| | | | |
|---|-----------------------------------|-------|------|
| 医療技術名 | 小児に対する肺区域生体肺移植 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要 胸腔の小さな小児患者に対して、大人の下葉が大きすぎるために区域を移植する方法である。世界でも報告は少ない。術後経過は良好であった(京大3例目)。 | | | |
| 医療技術名 | 脳磁図 | 取扱患者数 | 14人 |
| 当該医療技術の概要 脳磁図はてんかんの患者に対する手術部位の診断や手術方法の選択を含めた治療方針の決定のために欠かせない非侵襲的な脳機能検査法であり、原発性及び続発性てんかん、中枢神経疾患に伴う感覚障害及び運動障害の鑑別診断としても行われる。脳波に比べ優れた空間解像度と、MRI/PETより優れた時間解像度を併せ持つ。脳機能センター、脳神経内科、脳神経外科、小児科、てんかん運動異常生理学講座が協力して提供している。 | | | |
| 医療技術名 | がんクリニカルシーケンス検査 | 取扱患者数 | 119人 |
| 当該医療技術の概要 当院では、保険診療のがん遺伝子パネル検査に加えて、全エクソンシーケンス検査(33例)、血液検体を用いるGuardant社のリキッドバイオプシー(68例)、224遺伝子を網羅したOncoPrimeパネル(18例)を自費診療として提供している。 | | | |
| 医療技術名 | 透析患者における抗がん薬治療 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要 血液透析中のがん患者に対して、血中濃度を測定し、薬物動態を検討しながら、抗がん薬治療を行っている。 | | | |
| 医療技術名 | RIC (Radial Incision and Cutting) | 取扱患者数 | 2人 |
| 当該医療技術の概要 食道癌や直腸癌に対する内視鏡治療後狭窄、手術後吻合部狭窄などの良性狭窄に対し、内視鏡を用いて切開を加え狭窄を解除する治療を行っている。 | | | |
| 医療技術名 | ロボット支援食道切除再建術 | 取扱患者数 | 30人 |
| 当該医療技術の概要 手術支援ロボットを用いて低侵襲食道切除再建術を行う。 | | | |
| 医療技術名 | 生体肝移植 | 取扱患者数 | 31人 |
| 当該医療技術の概要 生体ドナーから肝臓を提供いただきレシピエントに移植手術を行う。 | | | |
| 医療技術名 | 脳死肝移植 | 取扱患者数 | 6人 |
| 当該医療技術の概要 脳死ドナーから肝臓を提供いただきレシピエントに移植手術を行う。 | | | |
| 医療技術名 | 膵臓移植 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要 ドナーから膵臓を提供いただきレシピエントに移植手術を行う。 | | | |
| 医療技術名 | 小腸移植 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要 ドナーから小腸を提供いただきレシピエントに移植手術を行う。 | | | |
| 医療技術名 | 難治緑内障に対するチューブシャント手術 | 取扱患者数 | 30人 |
| 当該医療技術の概要 従来の緑内障手術や点眼加療では十分な眼圧下降が得られない難治性緑内障にたいして、バルベルト®緑内障インプラントやアーメド緑内障バルブを用いた治療を行い、良好な治療成績が得られている。 | | | |

| | | | |
|---|---|-------|-------|
| 医療技術名 | 難治性視神経炎の診断と治療 | 取扱患者数 | 約10人 |
| 当該医療技術の概要 視神経炎はステロイド点滴治療のみで改善し予後良好と考えられてきたが、ステロイド抵抗性や依存性の視神経炎も存在するため造影MRIや光干渉断層計を用いた評価、および症例に応じて血漿交換・免疫抑制剤を併用した治療を行っている。 | | | |
| 医療技術名 | 増殖糖尿病網膜症に対する小切開硝子体手術 | 取扱患者数 | 約40人 |
| 当該医療技術の概要 難治性の網膜疾患である増殖糖尿病網膜症に対して、低侵襲な小切開硝子体手術を行い、合併症が少なく、良好な治療成績を得ている。 | | | |
| 医療技術名 | 糖尿病黄斑浮腫に対する抗VEGF療法 | 取扱患者数 | 約40人 |
| 当該医療技術の概要 難治性の慢性疾患である糖尿病黄斑浮腫への新規治療である抗VEGF療法を行った。 | | | |
| 医療技術名 | 糖尿病網膜症の新規眼底イメージングによる評価法の確立 | 取扱患者数 | 約110人 |
| 当該医療技術の概要 糖尿病網膜症に対して、光干渉断層計、光干渉断層計血管撮影、超広角眼底撮影などの眼底イメージングを用いて客観的な評価を行った。 | | | |
| 医療技術名 | 滲出型加齢黄斑変性に対する抗VEGF療法 | 取扱患者数 | 約400人 |
| 当該医療技術の概要 滲出型加齢黄斑変性に対して、ブrolシズマブ、アフリバルセプト、ラニビズマブ硝子体注射を行った。 | | | |
| 医療技術名 | 萎縮型加齢黄斑変性及びその前駆病変の眼底イメージングによる評価法の確立 | 取扱患者数 | 約200人 |
| 当該医療技術の概要 萎縮型加齢黄斑変性およびその前駆病変(ドルーゼン)の患者に対して、カラー眼底写真、蛍光眼底造影、光干渉断層計、光干渉断層計血管造影、眼底自発蛍光などの眼底イメージングによる評価を行った。 | | | |
| 医療技術名 | フォン・ヒッペル・リンドウ病における網膜血管腫の眼底イメージングによる評価法の確立 | 取扱患者数 | 約30人 |
| 当該医療技術の概要 フォン・ヒッペル・リンドウ病患者およびその血縁者に対して、広角カラー眼底写真、広角蛍光眼底造影、光干渉断層計、光干渉断層計血管造影などの眼底イメージングによる評価を行った。 | | | |
| 医療技術名 | 次世代シーケンサーを用いた網膜色素変性の遺伝子変異診断 | 取扱患者数 | 32人 |
| 当該医療技術の概要 網膜色素変性を含む遺伝性網膜変性疾患に対し、次世代シーケンサーを用いた網羅的な遺伝子解析を行い、約半数の症例で原因となる遺伝子変異を同定した。 | | | |
| 医療技術名 | 仮面症候群及び急性網膜壊死に対する硝子体手術 | 取扱患者数 | 約20人 |
| 当該医療技術の概要 仮面症候群は悪性腫瘍に伴うブドウ膜炎で、予後不良の疾患である。また、急性網膜壊死はヘルペスウイルスによる視力障害が重篤な疾患である。これらに対して、診断目的もしくは視機能改善を目指した硝子体手術を施行した。 | | | |
| 医療技術名 | 難治性不妊症患者に対する自己末梢血リンパ球を用いた免疫療法 | 取扱患者数 | 31人 |
| 当該医療技術の概要 複数回に渡る形態良好胚を移植しても妊娠にいたらない難治性不妊患者に対して自己末梢血リンパ球を一定期間培養した後、胚移植に先んじて子宮内に投与する方法。 | | | |
| 医療技術名 | 小児・若年女性のがん患者における妊孕能温存のための卵巣組織凍結保存 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要 小児・若年がん患者に対してがん治療開始前に、卵巣組織を腹腔鏡にて摘出し、保存する方法。 | | | |
| 医療技術名 | 若年女性のがん、免疫疾患、および早発卵巣機能不全患者における妊孕能温存のための卵子凍結保存 | 取扱患者数 | 12人 |
| 当該医療技術の概要 小児・若年がん患者に対してがん治療開始前に、体外受精と同様の方法で、未受精卵子を採卵し、凍結保存する方法。 | | | |

| | | | |
|--|---------------------------------------|-------|-----|
| 医療技術名 | 急性骨髄性白血病患者におけるフローサイトメトリーを用いた微小残存病変の検出 | 取扱患者数 | 14人 |
| 当該医療技術の概要 急性骨髄性白血病患者の治療経過中の骨髄サンプルを用いて、微小残存病変を検出し治療反応性を評価する。 | | | |
| 医療技術名 | 完全体腔内尿路変向術 | 取扱患者数 | 8人 |
| 当該医療技術の概要 体腔鏡下膀胱全摘除術に伴う尿路変向術(回腸導管造設術・回腸利用新膀胱造設術など)を体腔鏡下に実施する事でより低侵襲に手術を行う。 | | | |
| 医療技術名 | 膀胱前腔温存 ロボット支援体腔鏡下前立腺全摘除術 | 取扱患者数 | 8人 |
| 当該医療技術の概要 ロボット支援体腔鏡下前立腺全摘除術の際に膀胱前腔温存を温存するアプローチを採用することで術後の尿失禁を予防する。 | | | |
| 医療技術名 | Level 2 以上IVC塞栓を伴う腎癌に対する腎摘除術 | 取扱患者数 | 2人 |
| 当該医療技術の概要 肝内IVCのレベルまで進展した腫瘍塞栓を伴う腎癌に対する腎摘除術を安全・確実に行う。 | | | |
| 医療技術名 | 全身化学療法後の精巣腫瘍に対する後腹膜リンパ節郭清 | 取扱患者数 | 2人 |
| 当該医療技術の概要 全身化学療法後に強固に癒着した後腹膜リンパ節組織を安全・確実に郭清する。 | | | |
| 医療技術名 | T1b以上の腎細胞癌に対するロボット支援下腎部分切除術 | 取扱患者数 | 3人 |
| 当該医療技術の概要 cT1b(4cm以上)の腎細胞癌に対してロボット支援下腎部分切除術を行う(一般的な適応はcT1a(4cm以下)まで)。 | | | |
| 医療技術名 | 早期肺癌および肝癌に対する動体追尾定位放射線治療 | 取扱患者数 | 2人 |
| 当該医療技術の概要 肺がんや肝がんの呼吸性移動に合わせて放射線治療ビームの方向を追従させ、がんに限局した照射を行う放射線治療である。従来法と比較して、がん病巣への線量を損なうことなく、正常肺、肝臓の線量を約20%低減することが可能となった。 | | | |
| 医療技術名 | 局所進行膵癌に対する動体追尾強度変調放射線治療 | 取扱患者数 | 6人 |
| 当該医療技術の概要 動体追尾機能と強度変調放射線治療(IMRT)とを組み合わせた革新的な治療法であり、治療の難しかった局所進行膵癌に対して実施している。従来法と比較して治療強度を大きく高めつつ、周囲臓器への線量は低く抑えることが可能となった。 | | | |
| 医療技術名 | 前立腺癌に対する寡分割定量的強度変調放射線治療 | 取扱患者数 | 24人 |
| 当該医療技術の概要 前立腺癌に対して寡分割定量的強度変調放射線治療を適用することにより治療期間を約3週間と従来の半分以下に短縮することが可能となり、患者負担を軽減する治療である。 | | | |
| 医療技術名 | 食道癌に対する強度変調放射線治療 | 取扱患者数 | 22人 |
| 当該医療技術の概要 食道癌に対して強度変調放射線治療を利用することで、従来は実現不能だった脊髄への線量を抑え、癌病巣に必要な線量を投与することが可能となった。 | | | |
| 医療技術名 | 肛門管癌に対する強度変調放射線治療 | 取扱患者数 | 4人 |
| 当該医療技術の概要 肛門管癌に対して強度変調放射線治療を利用することで、外陰部、膀胱、小腸への不要な高線量被曝を抑え、癌病巣へ必要な線量を投与することが可能となった。 | | | |
| 医療技術名 | 永久脱毛予防のVMAT併用全脳全脊髄照射 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要 頭蓋内腫瘍に対して強度変調放射線治療を併用した全脳照射を用いることで、病巣への必要な線量を投与し、頭皮への不要な高線量被曝を抑え、従来の治療法と比べ頭髪の永久脱毛を予防することが可能となった。 | | | |
| 医療技術名 | Dynamic WaveArc照射法 | 取扱患者数 | 44人 |
| 当該医療技術の概要 Vero4DRTではその構造上の特徴から、患者を動かすことなく非同一平面からの照射を用いた回転式の強度変調放射線治療を行うことが可能となり、病巣の周囲の正常臓器への線量を通常の回転式強度変調放射線治療よりも低減することが可能となった。 | | | |

| | | | |
|---|---|-------|-----|
| 医療技術名 | 下部直腸癌に対する強度変調放射線治療 | 取扱患者数 | 2人 |
| 当該医療技術の概要 下部直腸癌に対して強度変調放射線治療を利用することで、小腸、大腸への不要な高線量被曝を軽減し、原発巣と所属リンパ領域へ適切な線量を投与可能となった。 | | | |
| 医療技術名 | 多発脳転移に対するsingle isocenter volumetric-modulated arc radiosurgery | 取扱患者数 | 28人 |
| 当該医療技術の概要 多発脳転移に対して強度変調放射線治療と定位放射線治療を併用することにより、短い治療時間で病巣に必要な線量を投与することが可能となった。 | | | |
| 医療技術名 | 術中高磁場MRI併用覚醒下頭蓋内腫瘍摘出術 | 取扱患者数 | 40人 |
| 当該医療技術の概要 覚醒下開頭術を行いながら、3T-MRI装置で術中に撮像を行い、腫瘍の残存、合併症の有無等を確認しながら、腫瘍摘出を行う。 | | | |
| 医療技術名 | 内視鏡下頭蓋内腫瘍摘出術 | 取扱患者数 | 5人 |
| 当該医療技術の概要 小開頭を用いた内視鏡単独の頭蓋内腫瘍摘出術。 | | | |
| 医療技術名 | 頭蓋顔面形成術併用広範囲頭蓋底腫瘍摘出術 | 取扱患者数 | 3人 |
| 当該医療技術の概要 頭蓋顔面削除し、広範囲頭蓋底腫瘍摘出を行ったうえで、頭蓋顔面形成術を行う。 | | | |
| 医療技術名 | ロボットスーツHALを用いたリハビリテーション | 取扱患者数 | 3人 |
| 当該医療技術の概要 脳損傷後運動障害に対するロボットスーツHALを用いたリハビリテーションを行うことで機能回復をはかる。 | | | |
| 医療技術名 | 脳磁図(MEG)を用いた脳機能局在の解析 | 取扱患者数 | 6人 |
| 当該医療技術の概要 脳磁図を用いた脳機能局在、てんかん焦点の同定。 | | | |
| 医療技術名 | 慢性硬膜下電極留置 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要 硬膜下電極を留置し、シールド室で脳波を記録しながら観察することで脳機能、てんかん焦点を解析する。 | | | |
| 医療技術名 | propofolを用いたWADA test | 取扱患者数 | 12人 |
| 当該医療技術の概要 頸動脈よりプロポフォールを投与し、優位半球となる言語、記憶機能半球を同定する。 | | | |
| 医療技術名 | functional MRI | 取扱患者数 | 15人 |
| 当該医療技術の概要 MRIを用いて脳機能マッピングを行い、摘出可能領域を決定する。 | | | |
| 医療技術名 | 術中CBCTを併用した定位脳手術 | 取扱患者数 | 15人 |
| 当該医療技術の概要 脳深部刺激装置埋め込みや、iPS細胞移植などの定位脳手術において、術中CBCTを用いて手術精度の向上を図る。 | | | |
| 医療技術名 | 自家培養表皮を用いた先天性巨大色素性母斑治療 | 取扱患者数 | 10人 |
| 当該医療技術の概要 先天性巨大色素性母斑患者に対して、自家培養表皮を用いた皮膚再生療法を実施する。 | | | |

| | | | |
|---|----------------|-------|------|
| 医療技術名 | 保険算定外の薬物血中濃度測定 | 取扱患者数 | 77検体 |
| 当該医療技術の概要 シロリムス、イトラコナゾールなど、治療上必要であるが保険算定外の薬物について、血中濃度測定および解析を行う。 | | | |
| 医療技術名 | 広帯域脳波解析 | 取扱患者数 | 45人 |
| 当該医療技術の概要 てんかん・運動異常生理学講座と日本光電工業株式会社とで共同開発した高周波帯域脳波解析ツールを用い、従来の脳波検査で主対象とされていなかった0.1ヘルツ以下、並びに40ヘルツ以上の活動を解析する。ビデオ脳波モニタリング・頭蓋内脳波モニタリング患者の発作時・発作間欠期の脳波にててんかん焦点を同定するために極めて有用である。2019年度は頭蓋内脳波モニタリング1件、ビデオ脳波モニタリング44件を行った。 | | | |

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾患名 | 患者数 | | 疾患名 | 患者数 |
|----|----------------------------|-----|-----|----------------------|-----|
| 1 | 球脊髄性筋萎縮症 | 6 | 56 | ベーチェット病 | 113 |
| 2 | 筋萎縮性側索硬化症 | 50 | 57 | 特発性拡張型心筋症 | 66 |
| 3 | 脊髄性筋萎縮症 | 10 | 58 | 肥大型心筋症 | 11 |
| 4 | 原発性側索硬化症 | 0 | 59 | 拘束型心筋症 | 0 |
| 5 | 進行性核上性麻痺 | 25 | 60 | 再生不良性貧血 | 42 |
| 6 | パーキンソン病 | 348 | 61 | 自己免疫性溶血性貧血 | 1 |
| 7 | 大脳皮質基底核変性症 | 7 | 62 | 発作性夜間ヘモグロビン尿症 | 3 |
| 8 | ハンチントン病 | 3 | 63 | 特発性血小板減少性紫斑病 | 36 |
| 9 | 神経有棘赤血球症 | 0 | 64 | 血栓性血小板減少性紫斑病 | 0 |
| 10 | シャルコー・マリー・トゥース病 | 2 | 65 | 原発性免疫不全症候群 | 32 |
| 11 | 重症筋無力症 | 120 | 66 | IgA腎症 | 49 |
| 12 | 先天性筋無力症候群 | 0 | 67 | 多発性嚢胞腎 | 31 |
| 13 | 多発性硬化症／視神経脊髄炎 | 65 | 68 | 黄色靭帯骨化症 | 5 |
| 14 | 慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー | 20 | 69 | 後縦靭帯骨化症 | 48 |
| 15 | 封入体筋炎 | 2 | 70 | 広範脊柱管狭窄症 | 6 |
| 16 | クロー・深瀬症候群 | 0 | 71 | 特発性大腿骨頭壊死症 | 86 |
| 17 | 多系統萎縮症 | 50 | 72 | 下垂体性ADH分泌異常症 | 0 |
| 18 | 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。) | 51 | 73 | 下垂体性TSH分泌亢進症 | 0 |
| 19 | ライソゾーム病 | 5 | 74 | 下垂体性PRL分泌亢進症 | 0 |
| 20 | 副腎白質ジストロフィー | 2 | 75 | クッシング病 | 10 |
| 21 | ミトコンドリア病 | 15 | 76 | 下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症 | 0 |
| 22 | もやもや病 | 147 | 77 | 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症 | 32 |
| 23 | プリオン病 | 0 | 78 | 下垂体前葉機能低下症 | 117 |
| 24 | 亜急性硬化性全脳炎 | 0 | 79 | 家族性高コレステロール血症(ホモ接合体) | 0 |
| 25 | 進行性多巣性白質脳症 | 0 | 80 | 甲状腺ホルモン不応症 | 0 |
| 26 | HTLV-1関連脊髄症 | 3 | 81 | 先天性副腎皮質酵素欠損症 | 0 |
| 27 | 特発性基底核石灰化症 | 0 | 82 | 先天性副腎低形成症 | 0 |
| 28 | 全身性アミロイドーシス | 20 | 83 | アジソン病 | 2 |
| 29 | ウルリッヒ病 | 0 | 84 | サルコイドーシス | 96 |
| 30 | 遠位型ミオパチー | 0 | 85 | 特発性間質性肺炎 | 191 |
| 31 | ベスレムミオパチー | 0 | 86 | 肺動脈性肺高血圧症 | 70 |
| 32 | 自己食食空腔性ミオパチー | 0 | 87 | 肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症 | 0 |
| 33 | シュワルツ・ヤンペル症候群 | 0 | 88 | 慢性血栓性肺高血圧症 | 27 |
| 34 | 神経線維腫症 | 34 | 89 | リンパ管筋腫症 | 26 |
| 35 | 天疱瘡 | 19 | 90 | 網膜色素変性症 | 153 |
| 36 | 表皮水疱症 | 5 | 91 | バッド・キアリ症候群 | 12 |
| 37 | 膿疱性乾癬(汎発型) | 9 | 92 | 特発性門脈圧亢進症 | 3 |
| 38 | スティーヴンス・ジョンソン症候群 | 2 | 93 | 原発性胆汁性肝硬変 | 85 |
| 39 | 中毒性表皮壊死症 | 0 | 94 | 原発性硬化性胆管炎 | 19 |
| 40 | 高安動脈炎 | 92 | 95 | 自己免疫性肝炎 | 10 |
| 41 | 巨細胞性動脈炎 | 9 | 96 | クローン病 | 181 |
| 42 | 結節性多発動脈炎 | 33 | 97 | 潰瘍性大腸炎 | 290 |
| 43 | 顕微鏡的多発血管炎 | 41 | 98 | 好酸球性消化管疾患 | 3 |
| 44 | 多発血管炎性肉芽腫症 | 17 | 99 | 慢性特発性偽性腸閉塞症 | 2 |
| 45 | 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 | 28 | 100 | 巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症 | 0 |
| 46 | 悪性関節リウマチ | 45 | 101 | 腸管神経節細胞減少症 | 1 |
| 47 | バージャー病 | 9 | 102 | ルビンシュタイン・テイビ症候群 | 0 |
| 48 | 原発性抗リン脂質抗体症候群 | 6 | 103 | CFC症候群 | 0 |
| 49 | 全身性エリテマトーデス | 579 | 104 | コストロ症候群 | 0 |
| 50 | 皮膚筋炎／多発性筋炎 | 248 | 105 | チャージ症候群 | 0 |
| 51 | 全身性強皮症 | 227 | 106 | クリオピリン関連周期熱症候群 | 7 |
| 52 | 混合性結合組織病 | 71 | 107 | 全身型若年性特発性関節炎 | 2 |
| 53 | シェーグレン症候群 | 79 | 108 | TNF受容体関連周期性症候群 | 2 |
| 54 | 成人スチル病 | 27 | 109 | 非典型性溶血性尿毒症症候群 | 0 |
| 55 | 再発性多発軟骨炎 | 24 | 110 | ブラウ症候群 | 0 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾患名 | 患者数 | | 疾患名 | 患者数 |
|-----|----------------------------|-----|-----|--------------------|-----|
| 111 | 先天性ミオパチー | 0 | 161 | 家族性良性慢性天疱瘡 | 0 |
| 112 | マリネスコ・シェーグレン症候群 | 0 | 162 | 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。) | 8 |
| 113 | 筋ジストロフィー | 12 | 163 | 特発性後天性全身性無汗症 | 1 |
| 114 | 非ジストロフィー性ミオトニー症候群 | 0 | 164 | 眼皮膚白皮症 | 0 |
| 115 | 遺伝性周期性四肢麻痺 | 0 | 165 | 肥厚性皮膚骨膜炎 | 2 |
| 116 | アトピー性脊髄炎 | 0 | 166 | 弾性線維性仮性黄色腫 | 5 |
| 117 | 脊髄空洞症 | 0 | 167 | マルファン症候群 | 10 |
| 118 | 脊髄髄膜瘤 | 0 | 168 | エーラス・ダンロス症候群 | 0 |
| 119 | アイザックス症候群 | 0 | 169 | メンケス病 | 0 |
| 120 | 遺伝性ジストニア | 0 | 170 | オクシピタル・ホーン症候群 | 0 |
| 121 | 神経フェリチン症 | 0 | 171 | ウィルソン病 | 2 |
| 122 | 脳表ヘモジデリン沈着症 | 0 | 172 | 低ホスファターゼ症 | 0 |
| 123 | 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症 | 0 | 173 | VATER症候群 | 0 |
| 124 | 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症 | 0 | 174 | 那須・ハコラ病 | 1 |
| 125 | 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症 | 0 | 175 | ウィーバー症候群 | 0 |
| 126 | ペリー症候群 | 0 | 176 | コフィン・ローリー症候群 | 0 |
| 127 | 前頭側頭葉変性症 | 1 | 177 | 有馬症候群 | 0 |
| 128 | ピッカースタッフ脳幹脳炎 | 0 | 178 | モワット・ウィルソン症候群 | 0 |
| 129 | 痙攣重積型(二相性)急性脳症 | 0 | 179 | ウィリアムズ症候群 | 0 |
| 130 | 先天性無痛無汗症 | 0 | 180 | ATR-X症候群 | 0 |
| 131 | アレキサンダー病 | 0 | 181 | クルーゾン症候群 | 0 |
| 132 | 先天性核上性球麻痺 | 0 | 182 | アペール症候群 | 0 |
| 133 | メビウス症候群 | 0 | 183 | ファイファー症候群 | 0 |
| 134 | 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群 | 0 | 184 | アントレー・ピクスラー症候群 | 0 |
| 135 | アイカルディ症候群 | 0 | 185 | コフィン・シリズ症候群 | 0 |
| 136 | 片側巨脳症 | 0 | 186 | ロスムンド・トムソン症候群 | 0 |
| 137 | 限局性皮質異形成 | 1 | 187 | 歌舞伎症候群 | 0 |
| 138 | 神経細胞移動異常症 | 0 | 188 | 多脾症候群 | 0 |
| 139 | 先天性大脳白質形成不全症 | 0 | 189 | 無脾症候群 | 0 |
| 140 | ドラベ症候群 | 0 | 190 | 鰓耳腎症候群 | 0 |
| 141 | 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん | 3 | 191 | ウェルナー症候群 | 0 |
| 142 | ミオクロニー欠神てんかん | 0 | 192 | コケイン症候群 | 0 |
| 143 | ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん | 0 | 193 | プラダー・ウィリ症候群 | 1 |
| 144 | レノックス・ガストー症候群 | 2 | 194 | ソトス症候群 | 0 |
| 145 | ウエスト症候群 | 1 | 195 | ヌーナン症候群 | 0 |
| 146 | 大田原症候群 | 0 | 196 | ヤング・シンブソン症候群 | 0 |
| 147 | 早期ミオクロニー脳症 | 0 | 197 | 1p36欠失症候群 | 0 |
| 148 | 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん | 0 | 198 | 4p欠失症候群 | 0 |
| 149 | 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群 | 0 | 199 | 5p欠失症候群 | 0 |
| 150 | 環状20番染色体症候群 | 0 | 200 | 第14番染色体父親性ダイソミー症候群 | 0 |
| 151 | ラスマッセン脳炎 | 0 | 201 | アンジェルマン症候群 | 0 |
| 152 | PCDH19関連症候群 | 0 | 202 | スミス・マジニス症候群 | 0 |
| 153 | 難治頻回部分発作重積型急性脳炎 | 2 | 203 | 22q11.2欠失症候群 | 0 |
| 154 | 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症 | 0 | 204 | エマヌエル症候群 | 0 |
| 155 | ランドウ・クレフナー症候群 | 0 | 205 | 脆弱X症候群関連疾患 | 0 |
| 156 | レット症候群 | 0 | 206 | 脆弱X症候群 | 0 |
| 157 | スタージ・ウェーバー症候群 | 0 | 207 | 総動脈幹遺残症 | 0 |
| 158 | 結節性硬化症 | 5 | 208 | 修正大血管転位症 | 1 |
| 159 | 色素性乾皮症 | 0 | 209 | 完全大血管転位症 | 0 |
| 160 | 先天性魚鱗癬 | 1 | 210 | 単心室症 | 1 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾患名 | 患者数 | | 疾患名 | 患者数 |
|-----|------------------------------|-----|-----|----------------------------|-----|
| 211 | 左心低形成症候群 | 0 | 259 | レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症 | 0 |
| 212 | 三尖弁閉鎖症 | 1 | 260 | シトステロール血症 | 0 |
| 213 | 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症 | 0 | 261 | タンジール病 | 0 |
| 214 | 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症 | 1 | 262 | 原発性高カイロミクロン血症 | 0 |
| 215 | ファロー四徴症 | 1 | 263 | 脳腫黄色腫症 | 0 |
| 216 | 両大血管右室起始症 | 1 | 264 | 無βリポタンパク血症 | 0 |
| 217 | エプスタイン病 | 0 | 265 | 脂肪萎縮症 | 0 |
| 218 | アルポート症候群 | 1 | 266 | 家族性地中海熱 | 6 |
| 219 | ギャロウェイ・モフト症候群 | 0 | 267 | 高IgD症候群 | 0 |
| 220 | 急速進行性糸球体腎炎 | 2 | 268 | 中條・西村症候群 | 0 |
| 221 | 抗糸球体基底膜腎炎 | 1 | 269 | 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群 | 0 |
| 222 | 一次性ネフローゼ症候群 | 18 | 270 | 慢性再発性多発性骨髄炎 | 2 |
| 223 | 一次性膜性増殖性糸球体腎炎 | 0 | 271 | 強直性脊椎炎 | 27 |
| 224 | 紫斑病性腎炎 | 4 | 272 | 進行性骨化性線維異形成症 | 2 |
| 225 | 先天性腎性尿崩症 | 0 | 273 | 肋骨異常を伴う先天性側弯症 | 0 |
| 226 | 間質性膀胱炎(ハンナ型) | 4 | 274 | 骨形成不全症 | 0 |
| 227 | オスラー病 | 1 | 275 | タナトフォリック骨異形成症 | 0 |
| 228 | 閉塞性細気管支炎 | 1 | 276 | 軟骨無形成症 | 0 |
| 229 | 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性) | 6 | 277 | リンパ管腫症/ゴーハム病 | 2 |
| 230 | 肺胞低換気症候群 | 1 | 278 | 巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変) | 0 |
| 231 | α1-アンチトリプシン欠乏症 | 0 | 279 | 巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変) | 1 |
| 232 | カーニー複合 | 0 | 280 | 巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変) | 0 |
| 233 | ウォルフラム症候群 | 0 | 281 | クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群 | 1 |
| 234 | ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。) | 0 | 282 | 先天性赤血球形成異常性貧血 | 1 |
| 235 | 副甲状腺機能低下症 | 1 | 283 | 後天性赤芽球癆 | 0 |
| 236 | 偽性副甲状腺機能低下症 | 0 | 284 | ダイヤモンド・ブラックファン貧血 | 0 |
| 237 | 副腎皮質刺激ホルモン不応症 | 0 | 285 | ファンコニ貧血 | 1 |
| 238 | ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症 | 1 | 286 | 遺伝性鉄芽球性貧血 | 1 |
| 239 | ビタミンD依存性くる病/骨軟化症 | 0 | 287 | エプスタイン症候群 | 0 |
| 240 | フェニルケトン尿症 | 0 | 288 | 自己免疫性出血病XIII | 1 |
| 241 | 高チロシン血症1型 | 0 | 289 | クローンカイト・カナダ症候群 | 4 |
| 242 | 高チロシン血症2型 | 0 | 290 | 非特異性多発性小腸潰瘍症 | 0 |
| 243 | 高チロシン血症3型 | 0 | 291 | ヒルシユスブルグ病(全結腸型又は小腸) | 0 |
| 244 | メープルシロップ尿症 | 0 | 292 | 総排泄腔外反症 | 0 |
| 245 | プロピオン酸血症 | 1 | 293 | 総排泄腔遺残 | 0 |
| 246 | メチルマロン酸血症 | 0 | 294 | 先天性横隔膜ヘルニア | 0 |
| 247 | イソ吉草酸血症 | 0 | 295 | 乳幼児肝巨大血管腫 | 0 |
| 248 | グルコーストランスポーター1欠損症 | 0 | 296 | 胆道閉鎖症 | 40 |
| 249 | グルタル酸血症1型 | 0 | 297 | アラジール症候群 | 1 |
| 250 | グルタル酸血症2型 | 0 | 298 | 遺伝性腭炎 | 0 |
| 251 | 尿素サイクル異常症 | 1 | 299 | 嚢胞性線維症 | 0 |
| 252 | リジン尿性蛋白不耐症 | 0 | 300 | IgG4関連疾患 | 23 |
| 253 | 先天性葉酸吸収不全 | 0 | 301 | 黄斑ジストロフィー | 1 |
| 254 | ポルフィリン症 | 1 | 302 | レーベル遺伝性視神経症 | 1 |
| 255 | 複合カルボキシラーゼ欠損症 | 0 | 303 | アッシャー症候群 | 0 |
| 256 | 筋型糖原病 | 0 | 304 | 若年発症型両側性感音難聴 | 0 |
| 257 | 肝型糖原病 | 1 | 305 | 遅発性内リンパ水腫 | 1 |
| 258 | ガラクトースー1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症 | 0 | 306 | 好酸球性副鼻腔炎 | 9 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾患名 | 患者数 | | 疾患名 | 患者数 |
|-----|----------------------------------|-----|-----|-------------------------------|-----|
| 307 | カナバン病 | 0 | 319 | セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症 | 0 |
| 308 | 進行性白質脳症 | 0 | 320 | 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症 | 0 |
| 309 | 進行性ミオクローヌスてんかん | 0 | 321 | 非ケトーシス型高グリシン血症 | 0 |
| 310 | 先天異常症候群 | 0 | 322 | β -ケトチオラーゼ欠損症 | 0 |
| 311 | 先天性三尖弁狭窄症 | 0 | 323 | 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症 | 0 |
| 312 | 先天性僧帽弁狭窄症 | 1 | 324 | メチルグルタコン酸尿症 | 0 |
| 313 | 先天性肺静脈狭窄症 | 0 | 325 | 遺伝性自己炎症疾患 | 0 |
| 314 | 左肺動脈右肺動脈起始症 | 0 | 326 | 大理石骨病 | 0 |
| 315 | ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症 | 0 | 327 | 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。) | 1 |
| 316 | カルニチン回路異常症 | 0 | 328 | 前眼部形成異常 | 0 |
| 317 | 三頭酵素欠損症 | 0 | 329 | 無虹彩症 | 0 |
| 318 | シトリン欠損症 | 1 | 330 | 先天性気管狭窄症 | 0 |
| | | | 331 | 特発性多中心性キャスルマン病 | 10 |
| | | | 332 | 膠様滴状角膜ジストロフィー | 0 |
| | | | 333 | ハッチンソン・ギルフォード症候群 | 0 |

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|-----------------------------|---------------------|
| ・ 特定機能病院入院基本料(一般病棟)7対1入院基本料 | ・ ハイリスク分娩管理加算 |
| ・ 特定機能病院入院基本料(結核病棟)7対1入院基本料 | ・ 精神科救急搬送患者地域連携紹介加算 |
| ・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料 | ・ 後発医薬品使用体制加算1 |
| ・ 歯科外来診療環境体制加算2 | ・ 病棟薬剤業務実施加算1 |
| ・ オンライン診療料 | ・ 病棟薬剤業務実施加算2 |
| ・ 救急医療管理加算 | ・ データ提出加算 |
| ・ 超急性期脳卒中加算 | ・ 入退院支援加算 |
| ・ 診療録管理体制加算1 | ・ 精神疾患診療体制加算 |
| ・ 医師事務作業補助体制加算1 | ・ 精神科急性期医師配置加算 |
| ・ 急性期看護補助体制加算 | ・ 地域医療体制確保加算 |
| ・ 看護職員夜間配置加算 | ・ 特定集中治療室管理料2 |
| ・ 看護補助加算 | ・ ハイケアユニット入院医療管理料1 |
| ・ 療養環境加算 | ・ 新生児特定集中治療室管理料1 |
| ・ 重症者等療養環境特別加算 | ・ 総合周産期特定集中治療室管理料 |
| ・ 無菌治療室管理加算1 | ・ 新生児治療回復室入院医療管理料 |
| ・ 無菌治療室管理加算2 | ・ 小児入院医療管理料2 |
| ・ 緩和ケア診療加算 | ・ 精神科急性期治療病棟入院料1 |
| ・ 精神科応急入院施設管理加算 | ・ 短期滞在手術等基本料1 |
| ・ 精神科身体合併症管理加算 | |
| ・ 精神科リエゾンチーム加算 | |
| ・ 栄養サポートチーム加算 | |
| ・ 医療安全対策加算1 | |
| ・ 感染防止対策加算1 | |
| ・ 患者サポート体制充実加算 | |
| ・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算 | |
| ・ ハイリスク妊娠管理加算 | |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|---------------------------------------|--|
| ・ 歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料 | ・ 医療機器安全管理料1 |
| ・ ウイルス疾患指導料 | ・ 医療機器安全管理料2 |
| ・ 外来栄養食事指導料の注2 | ・ 精神科退院時共同指導料1及び2 |
| ・ 糖尿病合併症管理料 | ・ 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算 |
| ・ がん性疼痛緩和指導管理料 | ・ 在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料 |
| ・ がん患者指導管理料イ | ・ 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料 |
| ・ がん患者指導管理料ロ | ・ 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定 |
| ・ がん患者指導管理料ハ | ・ 遺伝学的検査 |
| ・ がん患者指導管理料ニ | ・ 精密触覚機能検査 |
| ・ 外来緩和ケア管理料 | ・ 骨髄微小残存病変量測定 |
| ・ 移植後患者指導管理料(臓器移植後) | ・ BRCA1/2遺伝子検査 |
| ・ 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後) | ・ がんゲノムプロファイリング検査 |
| ・ 糖尿病透析予防指導管理料 | ・ 先天性代謝異常症検査 |
| ・ 小児運動器疾患指導管理料 | ・ 抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査) |
| ・ 乳腺炎重症化予防ケア・指導料 | ・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) |
| ・ 婦人科特定疾患治療管理料 | ・ ウイルス・細菌核酸多項目同時検出 |
| ・ 院内トリアージ実施料 | ・ 検体検査管理加算(I) |
| ・ 夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算 | ・ 検体検査管理加算(IV) |
| ・ 外来放射線照射診療料 | ・ 国際標準検査管理加算 |
| ・ ニコチン依存症管理料 | ・ 遺伝カウンセリング加算 |
| ・ 療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算 | ・ 遺伝性腫瘍カウンセリング加算 |
| ・ がん治療連携計画策定料 | ・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算 |
| ・ 肝炎インターフェロン治療計画料 | ・ 胎児心エコー法 |
| ・ ハイリスク妊産婦連携指導料1 | ・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト |
| ・ ハイリスク妊産婦連携指導料2 | ・ ヘッドアップティルト試験 |
| ・ 薬剤管理指導料 | ・ 長期継続頭蓋内脳波検査 |

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|----------------------------|--|
| ・長期脳波ビデオ同時記録検査1 | ・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ) |
| ・脳波検査判断料1 | ・運動器リハビリテーション料(Ⅰ) |
| ・脳磁図(自発活動を測定するもの) | ・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) |
| ・脳磁図(その他のもの) | ・摂食機能療法の注3に掲げる摂食嚥下支援加算 |
| ・終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの) | ・がん患者リハビリテーション料 |
| ・神経学的検査 | ・歯科口腔リハビリテーション料2 |
| ・補聴器適合検査 | ・精神科作業療法 |
| ・ロービジョン検査判断料 | ・認知療法・認知行動療法1 |
| ・コンタクトレンズ検査料1 | ・精神科ショート・ケア「大規模なもの」 |
| ・小児食物アレルギー負荷検査 | ・精神科ショート・ケア「小規模なもの」 |
| ・内服・点滴誘発試験 | ・精神科デイ・ケア「大規模なもの」 |
| ・経気管支凍結生検法 | ・精神科デイ・ケア「小規模なもの」 |
| ・画像診断管理加算3 | ・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。) |
| ・遠隔画像診断 | ・医療保護入院等診療料 |
| ・ポジトロン断層撮影 | ・人工腎臓 |
| ・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影 | ・導入期加算2及び腎代替療法実績加算 |
| ・ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影 | ・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算 |
| ・乳房用ポジトロン断層撮影 | ・CAD/CAM冠 |
| ・CT撮影及びMRI撮影 | ・歯科技工加算1及び2 |
| ・冠動脈CT撮影加算 | ・センチネルリンパ節加算 |
| ・血流予備量比コンピューター断層撮影 | ・皮膚移植術(死体) |
| ・心臓MRI撮影加算 | ・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算 |
| ・乳房MRI撮影加算 | ・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。) |
| ・小児鎮静下MRI撮影加算 | ・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。))) |
| ・頭部MRI撮影加算 | ・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。) |
| ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算 | ・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの) |
| ・外来化学療法加算1 | ・椎間板内酵素注入療法 |
| ・連携充実加算 | ・腫瘍脊椎骨全摘術 |
| ・無菌製剤処理料 | ・脳腫瘍覚醒下マッピング加算 |
| ・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ) | ・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算 |

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|--|--|
| ・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術 | ・同種死体肺移植術 |
| ・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 | ・生体部分肺移植術 |
| ・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)) | ・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等 |
| ・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術) | ・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) |
| ・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの) | ・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) |
| ・人工中耳植込術 | ・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) |
| ・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術 | ・胸腔鏡下弁形成術 |
| ・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術) | ・経カテーテル大動脈弁置換術 |
| ・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。) | ・胸腔鏡下弁置換術 |
| ・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術 | ・経皮的僧帽弁クリップ術 |
| ・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの) | ・不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的の手術によるもの) |
| ・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科) | ・経皮的中心筋焼灼術 |
| ・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術 | ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 |
| ・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術 | ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー) |
| ・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用) | ・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合) |
| ・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独) | ・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの) |
| ・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの)) | ・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術 |
| ・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後) | ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合) |
| ・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合) |
| ・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | ・大動脈バルーンポンピング法(IABP法) |
| ・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | ・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの) |
| ・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合) | ・補助人工心臓 |
| ・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。) | ・植込型補助人工心臓(非拍動流型) |
| ・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | ・経皮的下肢動脈形成術 |

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|--|--|
| ・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜) | ・人工尿道括約筋植込・置換術 |
| ・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈) | ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 |
| ・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) |
| ・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | ・腹腔鏡下仙骨腫固定術 |
| ・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの) | ・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) |
| ・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合) |
| ・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術 | ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。) |
| ・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。) | ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。) |
| ・腹腔鏡下肝切除術 | ・胎児胸腔・羊水腔シャント術 |
| ・生体部分肝移植術 | ・胎児輸血術 |
| ・同種死体肝移植術 | ・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術 |
| ・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術 | ・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。) |
| ・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術 | ・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術) |
| ・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術 | ・輸血管理料 I |
| ・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術 | ・コーディネート体制充実加算 |
| ・同種死体膵島移植術 | ・同種クリオプレシピテート作製術 |
| ・生体部分小腸移植術 | ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 |
| ・同種死体小腸移植術 | ・胃瘻造設時嚥下機能評価加算 |
| ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 | ・広範囲顎骨支持型装置埋入手術 |
| ・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | ・麻酔管理料 (I) |
| ・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | ・麻酔管理料 (II) |
| ・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの) | ・放射線治療専任加算 |
| ・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) | ・外来放射線治療加算 |
| ・同種死体腎移植術 | ・高エネルギー放射線治療 |
| ・生体腎移植術 | ・1回線量増加加算 |
| ・膀胱水圧拡張術 | ・強度変調放射線治療 (IMRT) |
| ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | ・画像誘導放射線治療 (IGRT) |
| ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 | ・体外照射呼吸性移動対策加算 |

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|---|---------|
| ・ 定位放射線治療 | |
| ・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算 | |
| ・ 画像誘導密封小線源治療加算 | |
| ・ 保険医療機関間の連携による病理診断 | |
| ・ 保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製 | |
| ・ 保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診 | |
| ・ 病理診断管理加算2 | |
| ・ 悪性腫瘍病理組織標本加算 | |
| ・ クラウン・ブリッジ維持管理料 | |
| ・ 歯科矯正診断料 | |
| ・ 顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの) | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|--|--------|--------------|------------|----------------------------------|
| APOBEC3によるゲノム変異導入と癌のクローン進化の病態解明 | 高折 晃史 | 血液内科 | 8,840,000 | 補委 文部科学省 |
| (HIV感染者等保健福祉相談事業) HIV感染者等保健福祉相談事業 | 高折 晃史 | 血液内科 | 750,000 | 補 公益財団法人エイズ予防財団 理事長 |
| 【臨】HTLV-1感染によるDNA修復障害と発癌過程の解明と新規治療開発 | 高折 晃史 | 血液内科 | 20,000,000 | 補 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 中分子アゴニスト創薬のロジカルデザイン～OX40アゴニスト開発を実施例として～ | 高折 晃史 | 血液内科 | 12,000,000 | 補 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 機能的抗体誘導HIVワクチン開発に関する研究 | 高折 晃史 | 血液内科 | 1,560,000 | 補 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 慢性移植片対宿主病の病態における好中球細胞外トラップの役割の解明 | 山下 浩平 | 血液内科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| マウスB細胞腫瘍モデルを用いたNotchシグナル活性化の意義の解明 | 錦織 桃子 | 血液内科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 成人T細胞白血病におけるFOXP3発現機序の解明 | 菱澤 方勝 | 血液内科 | 1,300,000 | 補委 文部科学省 |
| 臨床データ解析による臍帯血移植成績向上のための国際標準アルゴリズム確立 | 諫田 淳也 | 血液内科 | 1,560,000 | 補委 文部科学省 |
| HIV-1Vif/HDAC3複合体によるHIV-1潜伏感染転写ネットワークの制御 | 白川 康太郎 | 血液内科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| リン酸化プロテオーム解析による形質細胞様樹状細胞のIFN産生メカニズムの解明 | 北脇 年雄 | 血液内科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| KIRアレル多型に着目した造血幹細胞移植における免疫の最適化 | 進藤 岳郎 | 血液内科 | 1,690,000 | 補委 文部科学省 |
| TKI製剤による免疫細胞への影響とTreg減少感受性の検証 | 北脇 年雄 | 血液内科 | 1,950,000 | 補 国立大学法人大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 拠点長 |
| (公財)糖尿病財団からの受託研究【8%】 2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験(J-D OIT3)【8%】 | 稲垣 暢也 | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | 300,000 | 補 公益財団法人 日本糖尿病財団 理事長 |
| 食によるヘルスケア産業創出コンソーシアム「食を通じた健康システムの確立による健康寿命の延伸への貢献」 | 稲垣 暢也 | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | 4,000,000 | 補 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 理事長 |
| 日米医学協力計画を基軸にしたアジアの栄養・代謝に関する疫学・介入研究と人材育成 | 稲垣 暢也 | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | 4,000,000 | 補 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| ヒトサンプルおよび食品成分のメタボロームデータの統合的解析によるマクロ栄養素摂取量に関するバイオマーカーの開発 | 稲垣 暢也 | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | 9,997,000 | 補 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 高齢者糖尿病患者の登録・介入・評価 | 稲垣 暢也 | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | 800,000 | 補 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 理事長 荒井 秀典 |
| 難治性副腎疾患の診療に直結するエビデンス創出 | 稲垣 暢也 | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | 1,040,000 | 補 独立行政法人国立病院機構京都医療センター 院長 |
| GIP分泌を抑制する栄養素の探索と作用機序の解明 | 原田 範雄 | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | 1,690,000 | 補委 文部科学省 |
| テトラヒドロピオプテリンの褐色脂肪分化・増殖への関与因子の解明と移植医療への応用 | 藤田 義人 | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | 1,560,000 | 補委 文部科学省 |

小計
21

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|---|--------|--------------|-----------|---------------------------------|
| 次世代シーケンス技術を用いた、若年発症糖尿病の新規原因遺伝子解明 | 田中 大祐 | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | 1,560,000 | 補委 文部科学省 |
| 炭酸脱水酵素5 (Car8)によるGLP-1分泌制御機構の解明 | 山根 俊介 | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 小胞体内カルシウム・センサーSTIMによるインスリン分泌制御基盤の研究 | 小倉 雅仁 | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 免疫チェックポイント阻害薬による内分泌障害：臨床像から発症機序に迫る | 山内 一郎 | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 肥満症及び糖尿病の治療に向けた新規標的分子の探索 | 藤田 義人 | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | 2,488,200 | 補 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| ヒトiPS細胞由来血管細胞分化誘導法の血管病態解明への応用 | 田浦 大輔 | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | 1,690,000 | 補委 文部科学省 |
| 甲状腺ホルモン脱ヨード酵素を軸とした新たな疾患概念と治療法の探索 | 坂根 依利子 | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | 2,470,000 | 補委 文部科学省 |
| 膵β細胞における小胞体膜タンパクSTIMの意義の解明 | 臼井 亮太 | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| ゆるやかなつながりにより心身の健康に複合的効果を及ぼす農の社会的価値の検証 | 池田 香織 | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 周囲の者との関係性が動機や幸福感に関与する日本人に適した療養支援方法の確立 | 池田 香織 | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | 2,080,000 | 補委 文部科学省 |
| 慢性炎症を転写誘導する代謝基盤の解明 | 三河 拓己 | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | 1,950,000 | 補委 文部科学省 |
| (国立循環器病研究センターからの受託研究) 生体弁置換術後心房細動患者の抗血栓療法に関するレジストリー | 木村 剛 | 循環器内科 | 1,134,000 | 補 国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 理事長 |
| 心不全発症経過における成人マウス心筋からの転写コアクチベータp300複合体精製 (8%) | 木村 剛 | 循環器内科 | 450,000 | 補 独立行政法人国立病院機構京都医療センター 院長 |
| 拡張相肥大型心筋症を対象とした多施設登録観察研究 | 木村 剛 | 循環器内科 | 260,000 | 補 国立大学法人九州大学 学長 |
| 高ずり応力を伴う循環器難病に随伴する出血性合併症予知法の開発 | 木村 剛 | 循環器内科 | 260,000 | 補 国立大学法人東北大学 加齢医学研究所 所長 |
| microRNA-33a/bによる包括的代謝調節機構の解明と特異的人工核酸の開発 | 尾野 亘 | 循環器内科 | 4,030,000 | 補委 文部科学省 |
| マイクロRNAと心血管疾患に関する基礎的・臨床的研究 (8%) | 尾野 亘 | 循環器内科 | 520,000 | 補 独立行政法人国立病院機構京都医療センター 院長 |
| コレステロール代謝に関わるマイクロRNA-33a/bの制御によるNAFLD、NASH治療法の開発 | 尾野 亘 | 循環器内科 | 8,800,000 | 補 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 新規血管石灰化マウスを用いた大動脈弁狭窄症のメカニズム解析 | 芦田 昇 | 循環器内科 | 1,560,000 | 補委 文部科学省 |
| 心筋細胞リプログラミング・線維化抑制を機序とする慢性心不全治療薬創薬標的の検証 | 芦田 昇 | 循環器内科 | 3,749,999 | 補 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| プラーク進展、破綻を予測するオンサイト冠動脈流体解析アルゴリズム開発 | 齋藤 成達 | 循環器内科 | 910,000 | 補 文部科学省 |
| マイクロRNAによる新たな肝臓の線維化機構の解明～新規NASH治療法の開発へ～ | 堀江 貴裕 | 循環器内科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 心臓および全身の飢餓応答としての心不全 | 加藤 貴雄 | 循環器内科 | 910,000 | 補委 文部科学省 |
| iPS細胞を用いた致死性遺伝性不整脈疾患の病態解明、治療法開発 | 牧山 武 | 循環器内科 | 1,170,000 | 補委 文部科学省 |

小計
24

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|---|---------|-------|------------|----------------------------------|
| proBNPの糖鎖修飾制御機構の解明に基づく心疾患の新規診断法・治療法の開発 | 中川 靖章 | 循環器内科 | 1,690,000 | 補委 文部科学省 |
| 高齢心不全患者の多剤併用および薬剤性有害事象に関する診療実態調査 | 加藤 貴雄 | 循環器内科 | 3,250,000 | 補委 信州大学 |
| LQT-iPS細胞モデルを用いた薬効評価 | 牧山 武 | 循環器内科 | 8,450,000 | 補委 国立大学法人 滋賀医科大学 学長 |
| 先天性QT延長症候群スプライシング変異を標的とした創薬開発 | 牧山 武 | 循環器内科 | 22,230,000 | 補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| RYR2遺伝子異常に起因するカテコラミン誘発性多型性心室頻拍等の遺伝性不整脈の原因解明 | 牧山 武 | 循環器内科 | 780,000 | 補委 国立研究開発法人国立循環器病研究センター 理事長 |
| 洞不全症候群の臨床情報・遺伝学的解析に基づくリスク層別化アルゴリズムの開発 | 牧山 武 | 循環器内科 | 130,000 | 補委 国立研究開発法人 国立循環器病研究センター |
| 小胞体ストレス軽減作用を有した新規化合物による心筋梗塞治療法の開発 | 井手 裕也 | 循環器内科 | 1,820,000 | 補委 文部科学省 |
| 心血管疾患関連遺伝子CSRのヒト遺伝子変異による分子機能異常の解明 | 中島 康弘 | 循環器内科 | 1,690,000 | 補委 文部科学省 |
| 大動脈弁周囲石灰化の定量評価と経カテーテル的大動脈弁留置術後の予後との関連性 | 渡部 宏俊 | 循環器内科 | 780,000 | 補委 文部科学省 |
| KUS剤の心不全に対する治療応用に関する研究 | 渡邊 真 | 循環器内科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| iPS細胞を用いたカルモジュリン遺伝子関連不整脈疾患の病態解析と新規治療法開発 | 山本 雄大 | 循環器内科 | 2,080,000 | 補委 文部科学省 |
| 致死性家族性不整脈疾患における最新ゲノム編集技術を用いた疾患特異的iPS細胞研究 | 烏日揚海 伊敏 | 循環器内科 | 2,210,000 | 補委 文部科学省 |
| プラークびらんを伴う急性冠動脈症候群における血栓形成の機序の解明 | 山本 絵里香 | 循環器内科 | 2,730,000 | 補委 文部科学省 |
| ヒトiPS細胞由来分化心筋の数理モデル構築による創薬、疾患モデル解析への応用 | 糺谷 泰彦 | 循環器内科 | 3,250,000 | 補委 文部科学省 |
| Gαoの新規心不全治療標的としての意義の研究 | 稲住 英明 | 循環器内科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 変動するヒエラルキーに着目した消化器癌治療法～マウスからヒト可視化モデルへ～ | 妹尾 浩 | 消化器内科 | 5,070,000 | 補委 文部科学省 |
| ヒト膵がん幹細胞動態の生体「内外」ライブイメージング | 妹尾 浩 | 消化器内科 | 2,340,000 | 補委 文部科学省 |
| 階層性を標的とした新規膵がん治療法の開発 | 妹尾 浩 | 消化器内科 | 21,060,000 | 補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 大腸腫瘍幹細胞性維持におけるインスリン様増殖因子シグナルの治療標的としての可能性 | 宮本 心一 | 消化器内科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 浸潤性膵癌形成後の維持・進行におけるクロマチン制御因子の機能とその分子機構の解明 | 福田 晃久 | 消化器内科 | 4,680,000 | 補委 文部科学省 |
| 微生物叢と宿主の相互作用に基づく膵がん発症メカニズムの解明 | 福田 晃久 | 消化器内科 | 22,778,600 | 補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| クロマチンリモデリング因子BRG1を標的とした新規膵がん治療法の開発 | 福田 晃久 | 消化器内科 | 6,500,000 | 補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| TLR9とRIG-Iを標的とした肝がんに対するin situワクチン療法の開発 | 高橋 健 | 消化器内科 | 1,300,000 | 補委 文部科学省 |
| 慢性胃炎粘膜のゲノム解析による胃癌の起源の同定 | 清水 孝洋 | 消化器内科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |

小計
24

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|--|--------|----------|------------|--------------------------------------|
| 全ゲノム解析とオルガノイド培養を用いた多段階肝発癌分子メカニズムの解明 | 高井 淳 | 消化器内科 | 1,300,000 | 補 委 文部科学省 |
| 潰瘍性大腸炎の自己抗原および自己抗体同定と特異的診断法の樹立 | 宇座 徳光 | 消化器内科 | 1,430,000 | 補 委 文部科学省 |
| C型肝炎のウイルス排除後に起こる病態に関する研究 | 高井 淳 | 消化器内科 | 3,000,000 | 補 委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 癌幹細胞の腫瘍抗原性調節による大腸癌免疫療法の検討 | 中西 祐貴 | 消化器内科 | 1,950,000 | 補 委 文部科学省 |
| サイトメガロウイルス感染合併炎症性腸疾患における重症化、難治化機構の解明 | 山本 修司 | 消化器内科 | 1,430,000 | 補 委 文部科学省 |
| クローン病腸管狭窄治療におけるHSP47の役割とその臨床応用について | 本澤 有介 | 消化器内科 | 1,170,000 | 補 委 文部科学省 |
| IgG4関連疾患の抗原同定 | 塩川 雅広 | 消化器内科 | 2,080,000 | 補 委 文部科学省 |
| 潰瘍性大腸炎の特異的自己抗原の同定による新規体外診断薬の開発 | 塩川 雅広 | 消化器内科 | 29,900,000 | 補 委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 原発性硬化性胆管炎の病因自己抗原の同定 | 塩川 雅広 | 消化器内科 | 10,400,000 | 補 委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 成体臓の恒常性の維持および臓癌形成におけるELF3の機能解析 | 西川 義浩 | 消化器内科 | 1,300,000 | 補 委 文部科学省 |
| Epstein-Barr virus再活性化による潰瘍性大腸炎難治化の機序の解明 | 山田 聡 | 消化器内科 | 2,080,000 | 補 委 文部科学省 |
| 消化器発癌過程におけるRegnase-1による炎症制御メカニズムの関与 | 恵莊 裕嗣 | 消化器内科 | 1,820,000 | 補 委 文部科学省 |
| ヒトiPS細胞を用いた呼吸器難病の病態機序の解明と新規創薬基盤の確立 | 平井 豊博 | 呼吸器内科 | 86,400,000 | 補 委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 下気道での細菌定着と重症喘息病態との関連性の解明：縦走的・包括的検討 | 松本 久子 | 呼吸器内科 | 2,210,000 | 補 委 文部科学省 |
| ヒトiPS細胞から誘導した機能的気道線毛上皮細胞シートの作製 | 伊藤 功朗 | 呼吸器内科 | 3,250,000 | 補 委 文部科学省 |
| 肺上皮細胞における転写因子の加齢性機能低下とCOPDの発症様式との検討 | 佐藤 篤靖 | 呼吸器内科 | 1,300,000 | 補 委 文部科学省 |
| 鉄代謝異常に起因する末梢気道上皮幹細胞群の機能低下とCOPDの末梢気道病変の関連 | 田辺 直也 | 呼吸器内科 | 1,170,000 | 補 委 文部科学省 |
| ドライバー遺伝子陽性肺癌における新規治療戦略の開発 | 小笹 裕晃 | 呼吸器内科 | 1,820,000 | 補 委 文部科学省 |
| 上葉優位型肺線維症の病態解明に基づく新規バイオマーカーと治療標的の探索 | 谷澤 公伸 | 呼吸器内科 | 1,040,000 | 補 委 文部科学省 |
| ヒト成人肺からの肺胞幹細胞の長期培養法の確立 | 興梠 陽平 | 呼吸器内科 | 2,470,000 | 補 委 文部科学省 |
| 患者由来肺癌細胞の培養技術を用いた、チロシンキナーゼ阻害薬からの逃避機構の解明 | 辻 貴宏 | 呼吸器内科 | 1,430,000 | 補 委 文部科学省 |
| 多能性幹細胞を用いたヒト由来肺組織シミュレーターの創出 | 後藤 慎平 | 呼吸器内科 | 26,130,000 | 補 委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 疾患ゲノム情報を活用した自己免疫疾患における核酸ゲノム創薬の推進—RA・SLE大規模ゲノムデータへのMIGWAS適用とバイオマーカー同定 | 大村 浩一郎 | 免疫・膠原病内科 | 7,150,000 | 補 委 国立大学法人大阪大学 大学院医学系研究科 研究科長 |

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|---|--------|----------|-------------|--|
| 各種自己免疫疾患における検体および臨床データの回収 | 大村 浩一郎 | 免疫・膠原病内科 | 403,000 | 補 ⑤ 国立大学法人東京大学 総長 代理人 医学部 附属病院 事務部長 |
| 蛋白質・HLAクラスII複合体の病原性の解明 | 大村 浩一郎 | 免疫・膠原病内科 | 2,925,000 | 補 ⑤ 国立大学法人大阪大学 微生物病研究所長 |
| 高安動脈炎の病因解明と治療法改良への遺伝子研究成果からのアプローチ | 吉藤 元 | 免疫・膠原病内科 | 1,820,000 | 補 委 文部科学省 |
| 関節リウマチの治療応用を目標とした炎症収束性脂質因子及び受容体の機能解析 | 村上 孝作 | 免疫・膠原病内科 | 1,430,000 | 補 委 文部科学省 |
| 抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎の病態におけるCX3CL1-CX3CR1の重要性の検討 | 笹井 蘭 | 免疫・膠原病内科 | 1,430,000 | 補 委 文部科学省 |
| 医師主導治験実施体制の確立、二重盲検比較試験の実施 | 吉藤 元 | 免疫・膠原病内科 | 1,000,000 | 補 ⑤ 国立大学法人 長崎大学 |
| 振動工学の概念に基づき血清の動的性質(モード)をNMRでとらえる新規検査法の開発 | 小池 薫 | 初期診療・救急科 | 2,600,000 | 補 委 文部科学省 |
| 敗血症における脂肪組織の病態生理学意義の検討 | 趙 晃済 | 初期診療・救急科 | 1,820,000 | 補 委 文部科学省 |
| AARS2変異によるミトコンドリア機能異常を介した白質ジストロフィーの病態解明 | 陣上 直人 | 初期診療・救急科 | 1,040,000 | 補 委 文部科学省 |
| αシヌクレイノパチーの分子病態解明と治療法の開発 | 高橋 良輔 | 脳神経内科 | 10,660,000 | 補 委 文部科学省 |
| パーキンソン病の代謝産物バイオマーカー創出およびその分子標的機構に基づく創薬シーズ同定：候補代謝産物BMの動物モデル・iPS細胞モデルを用いた検証 | 高橋 良輔 | 脳神経内科 | 3,250,000 | 補 ⑤ 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| DAT-SPECT、神経学的診察、認知機能等の心理評価、MRIデータの収集、解析 | 高橋 良輔 | 脳神経内科 | 313,300 | 補 ⑤ 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 理事長 |
| パーキンソン病発症前から発症後に連続する神経回路病態の解明とトランスレータブル指標の開発 | 高橋 良輔 | 脳神経内科 | 167,934,000 | 補 ⑤ 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| DAT-SPECT、神経学的診察、認知機能等の心理評価、MRIデータの収集、解析 | 高橋 良輔 | 脳神経内科 | 438,620 | 補 ⑤ 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 理事長 |
| 【症例タイプ】パーキンソン病発症予防のための運動症状発症前 biomarker の特定のための研究 (The Japan Parkinson's Progression Markers Initiative (通称: J-PPMI)) | 高橋 良輔 | 脳神経内科 | 528,000 | 補 ⑤ 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 理事長 |
| 【臨】第I相試験の実施 | 高橋 良輔 | 脳神経内科 | 500,000 | 補 ⑤ 国立大学法人東京大学 総長 代理人 医学部 附属病院 事務部長 |
| 実用化に向けた新規作用機序に基づくハンチントン病治療薬の開発(高橋良輔先生分) | 高橋 良輔 | 脳神経内科 | 29,640,000 | 補 ⑤ 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 適切な医療を目指した軽度認知障害等の患者の情報登録及び連携に関する研究 | 葛谷 聡 | 脳神経内科 | 1,000,000 | 補 ⑤ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 理事長 荒井 秀典 |
| Targeting age associated white matter lesions (加齢性大脳白質病変の決定因子の解明) | 眞木 崇州 | 脳神経内科 | 2,288,000 | 補 ⑤ 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 急性期脳梗塞に対するアドレノメデュリンの特許申請に向けた非臨床研究の実施及び特許申請 | 眞木 崇州 | 脳神経内科 | 900,000 | 補 ⑤ 国立研究開発法人 国立循環器病研究センター |

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|--|-------|-------|------------|--------------------------------------|
| 多系統萎縮症におけるオリゴデンドロサイト前駆細胞の役割解明と新規治療法開発 | 眞木 崇州 | 脳神経内科 | 9,360,000 | 補 ⊕ 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| REM睡眠障害が及ぼす認知症関連タンパク質の蓄積についての検討 | 江川 斉宏 | 脳神経内科 | 1,430,000 | 補 委 文部科学省 |
| パーキンソン病と多系統萎縮症におけるインフラマソームを介した神経免疫制御の探索 | 綾木 孝 | 脳神経内科 | 1,040,000 | 補 委 文部科学省 |
| アルファシヌクレイン伝播メカニズムの解析 | 樽野 陽亮 | 脳神経内科 | 1,560,000 | 補 委 文部科学省 |
| シヌクレイン変異によるパーキンソン病の病態解明 | 綾木 孝 | 脳神経内科 | 4,680,000 | 補 ⊕ 公立大学法人大阪市立大学 理事長 |
| 成人SMA患者レジストリの整備、成人期SMAの臨床的検討、SMA予後マーカー・因子の探索 | 綾木 孝 | 脳神経内科 | 520,000 | 補 ⊕ 国立大学法人 名古屋大学 契約担当役 財務担当理事 |
| アルツハイマー病リスク遺伝子SV2BによるシナプスAβの産生調節機構の解明 | 宮本 将和 | 脳神経内科 | 1,040,000 | 補 委 文部科学省 |
| パーキンソン病における投射路特異的シナプス再編機構の生体内蛍光イメージング | 畑中 悠佑 | 脳神経内科 | 2,600,000 | 補 委 文部科学省 |
| 新規パーキンソン病モデルマウスを用いたドパミン神経細胞死メカニズムの解明 | 生野 真嗣 | 脳神経内科 | 1,820,000 | 補 委 文部科学省 |
| 非ヒト霊長類の嗅球へのαシヌクレイン凝集体の接種によるパーキンソン病モデル | 澤村 正典 | 脳神経内科 | 1,430,000 | 補 委 文部科学省 |
| 神経救急患者の広域周波数帯域脳波を用いた治療予後の高精度新規バイオマーカーの確立 | 十河 正弥 | 脳神経内科 | 1,040,000 | 補 委 文部科学省 |
| 加齢に伴う障害応答性低下をもたらす三次リンパ組織形成の分子基盤の解析 | 柳田 素子 | 腎臓内科 | 4,680,000 | 補 委 文部科学省 |
| 脂質メディエーターがつくる加齢微小環境の解析と治療への展開 | 柳田 素子 | 腎臓内科 | 4,290,000 | 補 委 文部科学省 |
| 成熟に伴う臓器の機能獲得と疾患感受性獲得の分子メカニズムの解明 | 柳田 素子 | 腎臓内科 | 4,420,000 | 補 委 文部科学省 |
| 細胞間相互作用と臓器代謝ネットワークの破綻による組織線維化の制御機構の解明と医学応用 | 柳田 素子 | 腎臓内科 | 5,200,000 | 補 ⊕ 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 腎臓内微小環境の加齢性変容の分子的定義付けと可視化にもとづく老化制御メカニズムの解明 | 柳田 素子 | 腎臓内科 | 25,740,000 | 補 ⊕ 国立大学法人東北大学 病院長 |
| 腎臓病において組織障害と修復を制御する微小環境の解明と医学応用 | 柳田 素子 | 腎臓内科 | 24,700,000 | 補 ⊕ 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 連関する全臓器の恒常性変化を可視化する技術を利用した認知症の超早期診断法開発 | 山本 正道 | 腎臓内科 | 3,120,000 | 補 委 文部科学省 |
| マウス生体内のミトコンドリア内ATP産生速度の定量的計測法開発 | 山本 正道 | 腎臓内科 | 2,730,000 | 補 委 文部科学省 |
| 脊髄損傷後疼痛の発症にかかわる中枢神経系の機能的・構造的変化の探索 | 山本 正道 | 腎臓内科 | 2,106,000 | 補 ⊕ 国立大学法人大阪大学 大学院医学系研究科長 |
| ポドサイトに発現するナトリウム利尿ペプチドの下流創薬標的の慢性腎臓病における意義 | 横井 秀基 | 腎臓内科 | 1,170,000 | 補 委 文部科学省 |
| 高脂肪、高蛋白食及び高食塩食による糖尿病性腎症進展への影響に対するCTGFの意義 | 石井 輝 | 腎臓内科 | 1,690,000 | 補 委 文部科学省 |

小計
22

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|---|--------|-------|------------|----------|----------------------------------|
| 糖尿病性腎症におけるmicroRNAの意義 | 大野 祥子 | 腎臓内科 | 2,470,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 近位尿細管再生を担う細胞群の探索 | 北井 悠一郎 | 腎臓内科 | 1,300,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| がんクリニカルシーケンスにおけるVUS変異の生物学的・臨床的意義の解明 | 武藤 学 | 腫瘍内科 | 5,590,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| がんと診断された時からの緩和ケアの推進に関する研究 | 武藤 学 | 腫瘍内科 | 4,870,000 | 補 委 | 厚生労働省 |
| 消化管内視鏡を用いた治療における標準治療確立のための多施設共同研究(29-A-3) | 武藤 学 | 腫瘍内科 | 5,470,000 | 補 委 | 国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長 |
| 診療機関併設バイオバンクのネットワーク参画 | 武藤 学 | 腫瘍内科 | 26,000,000 | 補 委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 希少がんに対する遺伝子プロファイリングと標的治療に関する前向きレジストリ臨床研究(MASTERKEY Project) | 武藤 学 | 腫瘍内科 | 11,000,000 | 補 委 | 国立研究開発法人国立がん研究センター 理事長 |
| 大腸管状腺腫の遺伝子変異プロファイルおよび生物学的多様性についての研究 | 山田 敦 | 腫瘍内科 | 1,430,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 医療・介護ビッグデータの有益な利活用を可能とするデータ解析法の開発研究 | 森 由希子 | 腫瘍内科 | 1,300,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| FTDとCHK1阻害の二重標的による食道扁平上皮癌に対する新たな治療戦略の確立 | 大橋 真也 | 腫瘍内科 | 1,430,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 弾性圧迫グローブ・ストッキングによる圧迫療法の化学療法起因性末梢神経障害予防効果を検討する探索的な多施設共同ランダム化比較試験 | 川口 展子 | 腫瘍内科 | 10,010,000 | 補 委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 抗PD-1抗体の効果予測バイオマーカーの確立 | 野村 基雄 | 腫瘍内科 | 2,080,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 大腸癌の遺伝子異常の解析～新しい分類を目指して～ | 坂井 義治 | 消化管外科 | 650,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 【臨】StageⅢ結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX6療法またはXELOX療法における5-FU系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験(JFM) | 坂井 義治 | 消化管外科 | 43,200 | 補 委 | 公益財団法人 がん集学的治療研究財団 理事長 |
| 【臨】再発危険因子を有するStageⅠ大腸癌に対するUFT/LV療法の臨床的有用性に関する研究(JFMC46-1201) | 坂井 義治 | 消化管外科 | 43,200 | 補 委 | 公益財団法人 がん集学的治療研究財団 理事長 |
| 京都大学病院のサンプルを用いた大腸がん診断モデルの検証 | 坂井 義治 | 消化管外科 | 1,300,000 | 補 委 | 国立大学法人大阪大学 微生物病研究所長 |

小計
16

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|--|--------|----------|------------|---------------------------------------|
| ロボット支援手術における熟練技術追体験型学習システム | 坂井 義治 | 消化管外科 | 2,600,000 | 補 ⊕ 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 内視鏡外科手術のデータベース構築に資する横断的基盤整備/臨床データ収集とデータセット作成 | 坂井 義治 | 消化管外科 | 13,000,000 | 補 ⊕ 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 理事長 |
| 感覚融合法を用いた追体験没入型内視鏡外科手術教育システムの開発と有効性の評価 | 小濱 和貴 | 消化管外科 | 2,080,000 | 補 委 文部科学省 |
| 上部消化管癌患者に対する周術期栄養運動プログラムの開発 | 角田 茂 | 消化管外科 | 1,430,000 | 補 委 文部科学省 |
| 大腸癌微小環境におけるケモカイン・シグナルを標的とした治療戦略 | 河田 健二 | 消化管外科 | 1,560,000 | 補 委 文部科学省 |
| (119742 先端医療&角田(10%)) ハイリスク消化管間質腫瘍(GIST)に対する完全切除後の治療に関する研究(研究略称:STARReGISTry) 10% | 角田 茂 | 消化管外科 | 154,000 | 補 ⊕ 公益財団法人 先端医療振興財団 理事長 |
| 切除不能または再発食道癌に対するCF(シスプラチン+5-FU)療法とbDCF(biweeklyドセタキセル+CF)療法のランダム化第III相比較試験—局所進行がん及び進行・再発がんに対する予後の改善を目指した治療法確立のための臨床試験— | 角田 茂 | 消化管外科 | 975,000 | 補 ⊕ 静岡県立静岡がんセンター 局長 |
| インターネットを用いた胃癌術後補助化学療法中の症状報告システムの開発 | 錦織 達人 | 消化管外科 | 910,000 | 補 委 文部科学省 |
| 腫瘍微小環境における好中球をターゲットとした新規大腸がん治療戦略の構築 | 板谷 喜朗 | 消化管外科 | 1,560,000 | 補 委 文部科学省 |
| 大腸癌肝転移の生体内イメージング | 水野 礼 | 消化管外科 | 1,690,000 | 補 委 文部科学省 |
| 新規概念によるNMR測定を用いた乳がん血清診断法の開発 | 戸井 雅和 | 乳腺外科 | 5,070,000 | 補 委 文部科学省 |
| 乳癌微小環境におけるマクロファージの脳転移特異的な役割の解明 | 鈴木 栄治 | 乳腺外科 | 1,690,000 | 補 委 文部科学省 |
| 乳がんの免疫チェックポイント活性化に関わる脂肪酸の同定とその分子機構の解明 | 川島 雅央 | 乳腺外科 | 1,170,000 | 補 委 文部科学省 |
| 誘導型一酸化窒素合成酵素制御による乳癌肝転移微小環境のリプログラミング | 河口 浩介 | 乳腺外科 | 1,820,000 | 補 委 文部科学省 |
| ブタをin vivo bioreactorとした移植可能なヒト肝臓再生戦略 | 上本 伸二 | 肝胆膵・移植外科 | 14,690,000 | 補 委 文部科学省 |
| 肝移植におけるiTreg細胞療法を用いた慢性拒絶防止の検証 | 上本 伸二 | 肝胆膵・移植外科 | 13,000,000 | 補 ⊕ 国立大学法人大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 拠点長 |
| 水素による移植肝包括的保存戦略の構築—いつ、どこに、いかに作用させるか?— | 秦 浩一郎 | 肝胆膵・移植外科 | 4,550,000 | 補 委 文部科学省 |
| 移植用臓器の体外治療を可能にする灌流保存装置開発と、メタボロミクスを用いた臓器潜在機能の客観的評価基軸の構築 | 秦 浩一郎 | 肝胆膵・移植外科 | 64,870,000 | 補 ⊕ 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 内外分泌連関に着目した膵島細胞増殖因子の解明とその治療的応用 | 増井 俊彦 | 肝胆膵・移植外科 | 1,430,000 | 補 委 文部科学省 |
| スーパーマイクロサージャリーを用いた胆道癌PDOXマウスモデルの確立 | 八木 真太郎 | 肝胆膵・移植外科 | 1,950,000 | 補 委 文部科学省 |
| 生体肝移植術中脾臓摘出術併施の短期及び長期成績に関する検証 | 八木 真太郎 | 肝胆膵・移植外科 | 50,000 | 補 ⊕ 国立大学法人九州大学 学長 |

小社

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|---|-------|----------|------------|---------------------------------|
| ブタモデルを用いた化学療法誘導性肝障害の薬物による克服～大腸癌予後改善に向けて～ | 瀬尾 智 | 肝胆膵・移植外科 | 1,820,000 | 補委 文部科学省 |
| 新規高分子ミセル溶液による虚血再灌流障害抑制法の開発 | 岡本 竜弥 | 肝胆膵・移植外科 | 1,040,000 | 補委 文部科学省 |
| 数値流体力学による門脈血流解析を通じた肝切除・肝移植後肝不全の克服 | 小木曾 聡 | 肝胆膵・移植外科 | 2,080,000 | 補委 文部科学省 |
| 不飽和脂肪酸分解に着目した膵液瘦重症化因子解明と治療的応用 | 長井 和之 | 肝胆膵・移植外科 | 1,300,000 | 補委 文部科学省 |
| 振動解析の手法を取り入れた新規NMR解析法による膵がん、胆管がん血清診断法の開発 | 伊藤 孝司 | 肝胆膵・移植外科 | 1,560,000 | 補委 文部科学省 |
| 癌幹細胞の観点から見た肝癌におけるゲノム不均一性の解明 | 石井 隆道 | 肝胆膵・移植外科 | 1,560,000 | 補委 文部科学省 |
| 肝移植後のbacterial translocationのメカニズム解明 | 小川 絵里 | 小児外科 | 1,300,000 | 補委 文部科学省 |
| 高リスク前立腺がんに対する寡分割立体回転強度変調放射線治療法の開発 | 溝脇 尚志 | 放射線治療科 | 1,040,000 | 補委 文部科学省 |
| IMPT (スキミング照射法を含む)のガイドライン作成 (31-A-17) | 溝脇 尚志 | 放射線治療科 | 200,000 | 補 国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長 |
| 超低侵襲リアルタイムアダプティブ (RA) 放射線治療の実現/超低侵襲リアルタイムアダプティブ対応腫瘍動体予測システム開発 | 溝脇 尚志 | 放射線治療科 | 52,000,000 | 補 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 難治がんに対する動体追尾放射線治療の臨床評価に関する研究 | 溝脇 尚志 | 放射線治療科 | 40,000,997 | 補 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 【臨】次世代Dynamic Wave Arc照射法の開発と長期有効性・安全性の評価 | 溝脇 尚志 | 放射線治療科 | 19,175,000 | 補 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 早期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療線量増加ランダム化比較試験 | 松尾 幸憲 | 放射線治療科 | 520,000 | 補 国立大学法人広島大学 学長 |
| 難治癌に対する放射線治療における腫瘍内低酸素の動態解析と高精度放射線治療の融合 | 吉村 通央 | 放射線治療科 | 1,560,000 | 補委 文部科学省 |
| 非剛体レジストレーションの不確かさが積算線量に及ぼす影響の評価と判定基準の確立 | 宮部 結城 | 放射線治療科 | 2,080,000 | 補委 文部科学省 |
| 強度変調放射線治療を利用した胸部食道癌の新規治療開発 | 坂中 克行 | 放射線治療科 | 1,300,000 | 補委 文部科学省 |
| 放射性ヨウ素内用療法におけるヨウ素集積の定量化と吸収線量の推定法の確立 | 飯塚 裕介 | 放射線治療科 | 1,170,000 | 補委 文部科学省 |
| 血清アルブミンの酸化度に基づくがんの放射線感受性予測法の開発 | 井上 実 | 放射線治療科 | 2,080,000 | 補委 文部科学省 |
| 頭頸部癌に対する強度変調放射線治療における味覚障害予測因子の解析 | 中嶋 綾 | 放射線治療科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 転移性脳腫瘍に対する多段階連続照射と最適な線量投与方法の開発 | 宇藤 恵 | 放射線治療科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 強度変調放射線治療プランのQA結果予測システムの開発 | 小野 智博 | 放射線治療科 | 1,690,000 | 補委 文部科学省 |
| 腫瘍動体に頑強な四次元放射線治療システムの開発 | 棕本 宜学 | 放射線治療科 | 1,690,000 | 補委 文部科学省 |
| 難治がんの放射線治療成績向上に向けた新規画像撮像法の開発 | 伊良皆 拓 | 放射線治療科 | 1,690,000 | 補委 文部科学省 |
| 妊娠高血圧症候群患者における妊娠転帰の予測に関するMRI有用性の検討 | 木戸 晶 | 放射線診断科 | 650,000 | 補委 文部科学省 |

小計
24

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|---|--------|--------|-----------|---------------------|
| 圧縮センシングの脳・頸部MRIへの応用 | 伏見 育崇 | 放射線診断科 | 1,040,000 | 補委 文部科学省 |
| 腫瘍随伴マクロファージの性状鑑別を可能とする核医学診断剤の開発 | 志水 陽一 | 放射線診断科 | 2,210,000 | 補委 文部科学省 |
| 経皮的エタノール注入療法による腫瘍免疫反応の賦活化：マウスがんモデルを用いた解析 | 大野 豪 | 放射線診断科 | 1,300,000 | 補委 文部科学省 |
| 急性期脳梗塞および脳血管異常のリアルタイム検出 | 中島 諭 | 放射線診断科 | 3,120,000 | 補委 文部科学省 |
| 膠芽腫の代謝変化に着目した個別化医療に向けた核医学的画像診断手法の開発 | 子安 翔 | 放射線診断科 | 1,560,000 | 補委 文部科学省 |
| 網脈絡膜血管疾患において液性免疫が組織学的変化を惹起する分子機構 | 辻川 明孝 | 眼科 | 3,120,000 | 補委 文部科学省 |
| 臨床的・ゲノム学的アプローチの融合による強度近視関連失明の総合的病態解明 | 辻川 明孝 | 眼科 | 6,370,000 | 補委 文部科学省 |
| 次世代眼科医療を目指す、ICT／人工知能を活用した画像等データベースの基盤構築 | 辻川 明孝 | 眼科 | 195,000 | 補委 筑波大学 |
| 持続可能なビッグデータ運用体制の構築と眼科AIシステムの社会実装 | 辻川 明孝 | 眼科 | 1,363,700 | 補委 国立大学法人筑波大学学長 |
| 培養角膜内皮細胞を用いた水疱性角膜症に対する革新的再生医療の社会還元／京都大学における京都府立医科大学と連携した薬事承認申請に向けた水疱性角膜症に対する培養角膜内皮細胞を用いた革新的再生医療 | 辻川 明孝 | 眼科 | 715,000 | 補委 京都府公立大学法人 |
| 光干渉断層血管造影を用いた房水流出主経路機能評価と緑内障治療効果予測 | 赤木 忠道 | 眼科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 網膜色素上皮細胞の脂質プロファイルとドルーゼン形成メカニズムの解明 | 池田 華子 | 眼科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 糖尿病網膜症における眼底イメージングを用いた新規病変の探索とその分子機構の解明 | 村上 智昭 | 眼科 | 1,170,000 | 補委 文部科学省 |
| 補償光学適用光干渉断層計による萎縮型加齢黄斑変性の病態・治療研究 | 大音 壮太郎 | 眼科 | 1,560,000 | 補委 文部科学省 |
| 多角的アプローチによる加齢黄斑変性の病態解明と新規治療の検討 | 宮田 学 | 眼科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 高比重リポタンパクを利用した後眼部疾患に対する点眼治療の開発 | 須田 謙史 | 眼科 | 2,080,000 | 補委 文部科学省 |
| 網膜血管の4層網の再構築と単一血球動態に基づく網膜無灌流の機序解明 | 村岡 勇貴 | 眼科 | 2,470,000 | 補委 文部科学省 |
| 加齢黄斑変性におけるrefractile drusenの臨床的特徴・遺伝学的背景 | 高橋 綾子 | 眼科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 点眼用HDL変異体の眼疾患動物モデルにおける評価 | 須田 謙史 | 眼科 | 440,000 | 補委 公立大学法人富山県立大学 理事長 |
| 加齢黄斑変性とpachychoroid neovascularopathyの病態解明 | 三宅 正裕 | 眼科 | 2,080,000 | 補委 文部科学省 |
| 網羅的遺伝子解析を軸にした網膜色素変性の病態解明と新規治療法開発 | 大石 明生 | 眼科 | 1,690,000 | 補委 文部科学省 |
| 新規遺伝子異常を有する疾患特異的iPS細胞を用いた網膜色素変性症の病態解明 | 岩井 祥子 | 眼科 | 2,080,000 | 補委 文部科学省 |

小計
22

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|---|-------|-------|------------|--------------------------------------|
| 婦人科癌の包括的サポートプログラム開発を目指した患者モニタリング法の探索 | 万代 昌紀 | 産科婦人科 | 1,300,000 | 補 Ⓔ 文部科学省 |
| ヒトiPS細胞を用いた人工胎盤の創成と胎盤機能再生医療の開発 | 近藤 英治 | 産科婦人科 | 5,070,000 | 補 委 Ⓔ 文部科学省 |
| 円錐切除後妊娠の腔分泌物プロテオーム解析を用いた子宮頸部が担う妊娠維持機構の解明 | 近藤 英治 | 産科婦人科 | 4,290,000 | 補 委 Ⓔ 文部科学省 |
| ヒト胚着床に関わるversicanの機能解析 | 堀江 昭史 | 産科婦人科 | 1,950,000 | 補 委 Ⓔ 文部科学省 |
| リキッドバイオプシーを用いた卵巣癌の術前組織診断法と卵巣癌予測診断法の開発 | 山口 建 | 産科婦人科 | 1,820,000 | 補 委 Ⓔ 文部科学省 |
| 婦人科腫瘍における免疫制御機構のダイナミズムの解明と新規治療開発の基礎的検討 | 濱西 潤三 | 産科婦人科 | 5,460,000 | 補 委 Ⓔ 文部科学省 |
| 着床不全患者の診断法の開発 | 堀江 昭史 | 産科婦人科 | 356,200 | 補 Ⓔ 国立大学法人 金沢大学 学長 山崎 光悦 |
| 産後うつ病の発症と自律神経機能の関連に関する妊娠期からの前方視的研究 | 江川 美保 | 産科婦人科 | 650,000 | 補 委 Ⓔ 文部科学省 |
| 前期破水の治癒機構の解明と新規治療法の開発 | 最上 晴太 | 産科婦人科 | 1,300,000 | 補 委 Ⓔ 文部科学省 |
| 早産治療を目指した変異EDAの作成 | 千草 義継 | 産科婦人科 | 1,690,000 | 補 委 Ⓔ 文部科学省 |
| 妊孕能低下予防・妊合併症リスクの低減を目指したプレコンセプション女性に対する包括的支援プログラムの開発 | 江川 美保 | 産科婦人科 | 1,040,000 | 補 Ⓔ 国立大学法人 東京大学 |
| 胎児心電図データ収集、症例検討会 | 最上 晴太 | 産科婦人科 | 260,000 | 補 Ⓔ 国立大学法人 東北大学 |
| iPS細胞より作成した人工胎盤の生体内機能解析 | 佐藤 麻衣 | 産科婦人科 | 650,000 | 補 委 Ⓔ 文部科学省 |
| 小児がんと神経発達のクロストークの解明と新規治療法の開発 | 滝田 順子 | 小児科 | 2,470,000 | 補 委 Ⓔ 文部科学省 |
| マルチオミックス情報を基盤とした難治性小児がんに対する新規克服法の開発 | 滝田 順子 | 小児科 | 4,810,000 | 補 委 Ⓔ 文部科学省 |
| 分子プロファイリングを基盤とした小児期からAYA世代に発症する難治がんの新規治療法の開発 | 滝田 順子 | 小児科 | 20,000,000 | 補 Ⓔ 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| アレクチニブの小児難治悪性固形腫瘍に対する安全性および有効性についてのエビデンスの創出をめざした研究 | 滝田 順子 | 小児科 | 130,000 | 補 Ⓔ 国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長 |
| 進行小児固形腫瘍に対するオラパリブを用いた治療法開発 | 滝田 順子 | 小児科 | 390,000 | 補 Ⓔ 国立大学法人 東京医科歯科大学 学長 |
| T-A-L-Lにおける転写因子高発見機序の解明 | 滝田 順子 | 小児科 | 3,000,000 | 補 Ⓔ 独立行政法人 国立病院機構 名古屋医療センター 院長 |
| 難治性小児固形腫瘍における生物学的特性の理解に基づいた新規克服法の開発 | 滝田 順子 | 小児科 | 25,506,000 | 補 Ⓔ 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| ゲノム編集によるアレラベリングを利用した重症先天性好中球減少症の病態解明／PID患者の診断率向上と、それに基づく変異アレラ破壊が有用な患者・疾患の同定 | 八角 高裕 | 小児科 | 650,000 | 補 Ⓔ 国立大学法人 広島大学 学長 |

小計

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|--|--------|------|------------|----------|----------------------------------|
| シーズ探索研究から発展する家族性地中海熱（FMM）に対するトシリズマブの医師主導治験／医師主導治験実施体制の確立・実施 | 八角 高裕 | 小児科 | 1,300,000 | 補 ㊦ | 国立大学法人 長崎大学 |
| シーズ探索研究から発展する家族性地中海熱（FMM）に対するトシリズマブの医師主導治験／医師主導治験実施体制の確立・実施 | 八角 高裕 | 小児科 | 1,040,000 | 補 ㊦ | 国立大学法人東京医科歯科大学 |
| 白血病細胞のマイクロRNA発現を利用した新規治療法開発のための探索的研究 | 平松 英文 | 小児科 | 1,300,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 【臨】小児およびAYA世代の横紋筋肉腫およびユーイング肉腫患者に対するリスク層別化臨床試験実施による標準的治療法の開発—限局性ユーイング肉腫ファミリー—腫瘍に対するG-CSF併用治療期間短縮VDC-IE療法を用いた集学的治療の第I相臨床試験 | 梅田 雄嗣 | 小児科 | 520,000 | 補 ㊦ | 京都府公立大学法人 理事長 |
| 乳児型Pompe病患者iPS細胞を用いた多系統組織モデルの確立ならびに病態解析 | 吉田 健司 | 小児科 | 1,170,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| NLRP3、NLRC4疾患関連変異によるカスパーゼ1非依存性細胞死の機序解明 | 井澤 和司 | 小児科 | 2,080,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| SGA児の膵β細胞におけるオートファジー抑制は一過性高インスリン血症の原因か？ | 丹羽 房子 | 小児科 | 2,340,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| どこからでも学べる遠隔新生児蘇生法講習シミュレータの研究開発 | 岩永 甲午郎 | 小児科 | 4,581,294 | 補 ㊦ | 官署支出官 近畿総合通信局 総務部長 |
| Adenosine Deaminase 2 (ADA2) 欠損症の病態解明と治療薬開発の基盤構築 | 井澤 和司 | 小児科 | 11,865,100 | 補 ㊦ | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 慢性肉芽腫症腸炎に対する小児用サリドマイド製剤の実用化に関する研究 | 井澤 和司 | 小児科 | 390,000 | 補 ㊦ | 国立研究開発法人国立成育医療研究センター 理事長 |
| 難治性小児AYA世代白血病患者に対するがん免疫療法最適医療実現のための多角的オミックス解析を用いた新規バイオマーカー探索 | 加藤 格 | 小児科 | 10,010,000 | 補 ㊦ | 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 理事長 |
| 患者特異的iPS細胞を用いた福山型先天性筋ジストロフィーの病態解析と新規治療法開発／患者特異的iPS細胞からの筋分化誘導法確立・ゲノム編集技術を用いたコントロールiPS細胞株の樹立 | 吉田 健司 | 小児科 | 47,489,000 | 補 ㊦ | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| メタボリックシンドロームの予防を目指した、胎児インクレチン分泌機構の解明 | 友滝 清一 | 小児科 | 2,600,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 患者検体・iPS細胞を用いた様々なMEFV変異による自己炎症発症機序の解明 | 田中 孝之 | 小児科 | 1,690,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 遠隔支援可能な新生児蘇生シミュレーション教育支ツールの開発と有効性検証 | 花岡 信太郎 | 小児科 | 1,560,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 皮膚を場とする外的刺激に対する生体応答機構の包括的解明 | 梶島 健治 | 皮膚科 | 29,250,000 | 補 委 | 文部科学省 |

小計
16

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|--|--------|------|------------|-------------------------------------|
| 皮内の制御性T細胞による皮膚免疫応答制御機構の解明 | 梶島 健治 | 皮膚科 | 1,100,000 | 補委 文部科学省 |
| 多細胞間相互作用による皮膚バリアの適応・修復機序の解明 | 梶島 健治 | 皮膚科 | 25,870,000 | 補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| イマチニブをツールとした自己免疫性水疱症における創薬基盤研究 | 梶島 健治 | 皮膚科 | 98,000,000 | 補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 皮膚疾患画像ナショナルデータベースの拡充とAI活用診療支援システムの開発／皮膚画像収集から皮膚疾患画像ナショナルデータベースへの集積 | 梶島 健治 | 皮膚科 | 1,300,000 | 補委 公益社団法人 日本皮膚科学会 理事長 |
| 新規に同定したバリア関連遺伝子による表皮ストレス応答機構の解明 | 大日 輝記 | 皮膚科 | 1,300,000 | 補委 文部科学省 |
| 自然産生IgEの産生メカニズムの解明 | 鬼頭 昭彦 | 皮膚科 | 650,000 | 補委 文部科学省 |
| 脂質メディエーターをターゲットとしたアトピー性皮膚炎の病態解明と創薬 | 本田 哲也 | 皮膚科 | 1,690,000 | 補委 文部科学省 |
| 高機能性脂質代謝物を用いたアレルギー性皮膚炎制御法の開発／機能性脂質の臨床妥当性評価 | 本田 哲也 | 皮膚科 | 3,900,000 | 補委 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 契約担当職 理事長 |
| 国民医療費の最適配分を目指した皮膚がん手術の費用効果分析 | 遠藤 雄一郎 | 皮膚科 | 780,000 | 補委 文部科学省 |
| 末梢組織におけるT細胞サーベイランスメカニズムの解明 | 江川 形平 | 皮膚科 | 1,300,000 | 補委 文部科学省 |
| 外的刺激に対する皮膚免疫応答における補体系の機能解析 | 渋谷 倫太郎 | 皮膚科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 皮膚常在微生物による宿主皮膚炎症反応制御メカニズムの解明 | 中島 沙恵子 | 皮膚科 | 15,598,960 | 補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 皮膚メモリーT細胞の駐在機構解明に基づく犬アトピー性皮膚炎治療への応用 | 朝比奈 良太 | 皮膚科 | 1,040,000 | 補委 文部科学省 |
| 異種移植モデルの由来組織別エクソソームに着目した革新的癌診断治療シーズの開発 | 小川 修 | 泌尿器科 | 10,270,000 | 補委 文部科学省 |
| 遺伝子多型を用いた前立腺癌リスク診断方法の開発 | 小川 修 | 泌尿器科 | 2,321,839 | 補委 国立研究開発法人 理化学研究所 産業連携本部 連携推進部長 |
| レトロトランスポゾン遺伝子PEG10を標的とした神経内分泌前立腺癌の新規治療開発 | 赤松 秀輔 | 泌尿器科 | 650,000 | 補委 文部科学省 |
| 進行泌尿器癌における血中ゲノムマーカーの縦断的解析に基づくプレジジョン医療の実現 | 山崎 俊成 | 泌尿器科 | 3,640,000 | 補委 文部科学省 |
| 浸潤性膀胱癌の病態を再現可能なマウスモデルの確立とその応用 | 小林 恭 | 泌尿器科 | 9,230,000 | 補委 文部科学省 |
| 腎がん検体収集・検証試験結果評価 | 赤松 秀輔 | 泌尿器科 | 1,300,000 | 補委 公益財団法人がん研究会 理事長 |
| ロボット支援下腎部分切除術における3Dナビゲーションシステムの開発 | 澤田 篤郎 | 泌尿器科 | 780,000 | 補委 文部科学省 |
| 去勢抵抗性前立腺癌患者由来ゼノグラフィ・オルガノイド群を用いた創薬スクリーニング | 後藤 崇之 | 泌尿器科 | 1,950,000 | 補委 文部科学省 |

小計
21

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|---|-------|-----------------|------------|----------|----------------------------------|
| iPS細胞技術を用いた固形がんに対する他家移植用CAR-T細胞療法の開発 | 嘉島 相輝 | 泌尿器科 | 1,430,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 高感度生体内トラッキング技術とiPS細胞技術を融合した前立腺がんに対する次世代型汎用性CAR-T細胞療法の開発／患者由来前立腺癌ゼノグラフトモデルを用いたCAR-再生T細胞療法の効果検証のための基盤開発 | 嘉島 相輝 | 泌尿器科 | 1,300,000 | 補 委 | 国立大学法人岡山大学 学長 |
| バイオ3Dプリンターを用いた声帯組織の再生 | 大森 孝一 | 耳鼻咽喉科・頭頸部 外科 | 3,510,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| エビデンスに基づいた病態特化型嚥下訓練プログラムの開発 | 大森 孝一 | 耳鼻咽喉科・頭頸部 外科 | 3,805,100 | 補 委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| Hippoシグナル経路の調整による気道上皮分化異常治療薬の探索 | 大森 孝一 | 耳鼻咽喉科・頭頸部 外科 | 2,600,000 | 補 委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 咽頭・喉頭・気管狭窄症診療ガイドライン作成を目指したエビデンス創出研究 | 大森 孝一 | 耳鼻咽喉科・頭頸部 外科 | 16,820,000 | 補 委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 嚥下障害の治療施設で行われている咽喉頭感覚の検査に関する全国調査 | 大森 孝一 | 耳鼻咽喉科・頭頸部 外科 | 520,000 | 補 委 | 東北大学病院長 |
| long non-coding RNAの内耳発生・再生における機能 | 山本 典生 | 耳鼻咽喉科・頭頸部 外科 | 2,470,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 蝸牛感覚上皮発生メカニズムの解明－単一細胞レベルでの感覚上皮マーカーの探索 | 山本 典生 | 耳鼻咽喉科・頭頸部 外科 | 5,720,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 傷害声帯の修復過程における上皮間葉移行の役割 | 北村 守正 | 耳鼻咽喉科・頭頸部 外科 | 1,560,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| (CSPORからの受託研究) 分化型甲状腺癌を対象としたレンパチニブの治療効果探索のためのコホート研究 | 北村 守正 | 耳鼻咽喉科・頭頸部 外科 | 21,600 | 補 委 | 公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター 理事長 |
| 喉頭気管領域での組織線維化過程におけるマクロファージの役割の解明 | 岸本 曜 | 耳鼻咽喉科・頭頸部 外科 | 1,430,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 頭頸部癌微小環境における糖代謝と免疫マーカー発現の関連性の検討 | 菊地 正弘 | 耳鼻咽喉科・頭頸部 外科 | 1,950,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 蝸牛組織マクロファージの加齢性難聴における役割 | 岡野 高之 | 耳鼻咽喉科・頭頸部 外科 | 1,560,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| In Vivoリプログラミングによる蝸牛神経の機能的再生 | 西村 幸司 | 耳鼻咽喉科・頭頸部 外科 | 1,300,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| ヒトiPS細胞を用いた気管軟骨再生のための基盤技術開発 | 樋渡 直 | 耳鼻咽喉科・頭頸部 外科 | 2,860,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 蝸牛におけるIGF1-Netrin axisの役割解明と応用創薬研究 | 中川 隆之 | 耳鼻咽喉科・頭頸部 外科 | 780,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 蝸牛・前庭感覚上皮発生機序の解析とヒトiPS細胞を用いた難聴モデル作製への応用 | 大西 弘恵 | 耳鼻咽喉科・頭頸部 外科 | 1,300,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 恒常性破綻による蝸牛有毛細胞障害メカニズムの解明 | 勝野 達也 | 耳鼻咽喉科・頭頸部 外科 | 1,300,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 軟骨下骨脆弱性の関節軟骨変性へ与える影響および骨形成薬の軟骨変性抑制効果の解析 | 松田 秀一 | 整形外科 | 5,850,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 特発性大腿骨頭壊死症におけるbFGF含有ゼラチン製剤による壊死骨再生治療の開発 | 松田 秀一 | 整形外科 | 1,044,940 | 補 委 | 国立大学法人岐阜大学 理事 |

小計
21

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|--|-------|--------|------------|----------------------------------|
| 抗菌性と骨形成促進作用を併せ持つ生体活性インプラントの開発 | 藤林 俊介 | 整形外科 | 1,300,000 | 補委 文部科学省 |
| 【臨】インフリキシマブ投与下で寛解又は低疾患活動性にある関節リウマチ患者を対象としたインフリキシマブ休薬療法における、関節超音波を用いた再発予測精度並びにインフリキシマブ再投与の有効性・安全性を検証する、多施設共同前向き試験 | 伊藤 宣 | 整形外科 | 385,776 | 補委 国立大学法人千葉大学 契約担当役 事務局長 |
| 早期関節リウマチ患者における初期治療効果反応性による治療強化の予後予測に関する研究 | 伊藤 宣 | 整形外科 | 200,000 | 補委 国立大学法人 名古屋大学 契約担当役 財務担当理事 |
| 悪性骨腫瘍切除後処理骨ラットモデルを用いた付加処置による処理骨単独再建の確立 | 坂本 昭夫 | 整形外科 | 1,170,000 | 補委 文部科学省 |
| 高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究 | 坂本 昭夫 | 整形外科 | 299,000 | 補委 国立大学法人 岡山大学 学長 |
| 骨粗鬆症と人工関節周囲感染治療に対応した生体活性骨セメントの開発 | 後藤 公志 | 整形外科 | 1,300,000 | 補委 文部科学省 |
| 人工膝関節の三次元動的術前計画が可能な新しい筋骨格シミュレータの開発 | 栗山 新一 | 整形外科 | 1,170,000 | 補委 文部科学省 |
| 難治性インプラント感染に対して炎症再生と抗菌の治療戦略で局所投与を行う基礎研究 | 黒田 隆 | 整形外科 | 1,820,000 | 補委 文部科学省 |
| 3次元積層造形で作製し表面処理を施した次世代チタン合金インプラントの開発と応用 | 清水 孝彬 | 整形外科 | 2,340,000 | 補委 文部科学省 |
| micro-engineeringを用いた血管ネットワーク付き人工骨の開発 | 河井 利之 | 整形外科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 社会・生活における主体価値の動態解明 | 村井 俊哉 | 精神科神経科 | 35,490,000 | 補委 文部科学省 |
| 統合失調症の結合性障害の包括的解明：超高磁場MRIによる次世代結合性解析 | 村井 俊哉 | 精神科神経科 | 5,460,000 | 補委 文部科学省 |
| MRI画像を基点とした発達障害・統合失調症関連バイオマーカーの同定 | 村井 俊哉 | 精神科神経科 | 15,700,000 | 補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 脳機能補完による高齢者・障がい者の機能回復支援技術の研究開発 | 村井 俊哉 | 精神科神経科 | 1,500,000 | 補委 国立研究開発法人 情報通信研究機構 契約担当理事 |
| 先進的MRI技術に基づく統合データベースと大規模コホートデータの連結による高齢者神経変性疾患の責任神経回路の解明 | 村井 俊哉 | 精神科神経科 | 80,960,100 | 補委 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 理事長 |
| 伝統芸能・武道の精神的健康増進作用に関する脳画像研究 | 藤原 広臨 | 精神科神経科 | 1,170,000 | 補委 文部科学省 |
| 外傷性脳損傷後遺症の包括的理解ー4つの症候群としての検討ー | 上田 敬太 | 精神科神経科 | 1,040,000 | 補委 文部科学省 |
| 妄想の神経基盤の疾患横断的検討：高傾斜磁場・超高磁場MRIによる次世代結合性解析 | 宮田 淳 | 精神科神経科 | 3,900,000 | 補委 文部科学省 |
| 統合salienceモデルに基づく統合失調症の脳領域間ネットワーク病態の解明 | 宮田 淳 | 精神科神経科 | 2,860,000 | 補委 文部科学省 |

小計

19

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|---|--------|--------|------------|----------------------------------|
| 精神科における血栓塞栓症の解明：人工流路による画像解析 | 杉田 尚子 | 精神科神経科 | 2,340,000 | 補委 文部科学省 |
| ギャンブル障害のコネクトームについて | 鶴身 孝介 | 精神科神経科 | 910,000 | 補委 文部科学省 |
| 核磁気共鳴計測を用いた治療抵抗性統合失調症におけるクロザピン忍容性指標の探索 | 諏訪 太郎 | 精神科神経科 | 910,000 | 補委 文部科学省 |
| 神経性やせ症患者における反社会的行動とその神経基盤 | 磯部 昌憲 | 精神科神経科 | 1,690,000 | 補委 文部科学省 |
| 摂食障害に対する認知行動療法の有効性の神経科学的エビデンスの創出 | 磯部 昌憲 | 精神科神経科 | 2,600,000 | 補委 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 理事長 |
| 統合失調症および自閉スペクトラム症への社会認知スキルトレーニング日本版の開発 | 大塚 貞男 | 精神科神経科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 摂食障害と窃盗累犯 -心理社会的要因に関する質的・量的調査研究- | 梁瀬 まや | 精神科神経科 | 1,300,000 | 補委 文部科学省 |
| 次世代拡散MRIおよび機械学習を用いた統合失調症新規診断基準の検討 | 孫 樹洛 | 精神科神経科 | 2,210,000 | 補委 文部科学省 |
| CEBP/ β を標的分子とした分子標的治療による歯の再生 | 高橋 克 | 歯科口腔外科 | 1,820,000 | 補委 文部科学省 |
| 希少疾患先天性無歯症治療薬の開発研究—Wntシグナル&BMPシグナルに関連する難治性疾患治療への展開— | 高橋 克 | 歯科口腔外科 | 34,700,000 | 補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 骨系統疾患に起因する顎変形症への新規治療法の開発（疾患特異的iPSを用いた検討） | 中尾 一祐 | 歯科口腔外科 | 1,560,000 | 補委 文部科学省 |
| 社会経済因子により口腔および全身の健康格差が生じるメカニズムの探索 | 浅井 啓太 | 歯科口腔外科 | 1,820,000 | 補委 文部科学省 |
| 歯科ユニット給水系における微生物汚染の評価と細菌増殖抑制効果に関する研究 | 三島 清香 | 歯科口腔外科 | 520,000 | 補委 文部科学省 |
| 内軟骨性骨化に着目した顎変形症の病態解明および新規治療法の開発 | 山中 茂樹 | 歯科口腔外科 | 1,040,000 | 補委 文部科学省 |
| 敗血症時に亢進する血管透過性における個人差の原因となる遺伝子を同定する。 | 瀬尾 英哉 | 麻酔科 | 1,950,000 | 補委 文部科学省 |
| 乳癌細胞のエストロゲン受容体転写活性に及ぼす全身麻酔薬の影響 | 宮井 善三 | 麻酔科 | 1,690,000 | 補委 文部科学省 |
| 遺伝子多型による化学療法後末梢神経障害の感受性の相違 | 加藤 果林 | 麻酔科 | 1,040,000 | 補委 文部科学省 |
| 術前のストレスは術後SIRSの危険因子となる | 辰巳 健一郎 | 麻酔科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 血小板機能温存を重視した新たな希釈式自己血輸血法の確立 | 川本 修司 | 麻酔科 | 2,340,000 | 補委 文部科学省 |
| RNF213関連閉塞性血管障害の分子機序解明と新規治療開発 | 宮本 享 | 脳神経外科 | 6,890,000 | 補委 文部科学省 |
| グリオーマのステムネス維持転写ネットワークを標的とした核酸類似化合物開発の挑戦 | 宮本 享 | 脳神経外科 | 3,120,000 | 補委 文部科学省 |
| もやもや病（ウイルス動脈輪閉塞症）の診断、治療に関する研究 | 宮本 享 | 脳神経外科 | 10,769,000 | 補委 厚生労働省 |
| 【臨】上肢に対する単関節型 Hybrid Assistive Limb (HAL)の医師主導治験 | 宮本 享 | 脳神経外科 | 40,989,000 | 補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| アクチベータブル酸化鉄ナノ粒子蛍光プローベを用いた脳動脈瘤壁の炎症巣の可視化 | 石井 暁 | 脳神経外科 | 1,300,000 | 補委 文部科学省 |

小計

24

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|--|-------|-------|------------|--------------------------------------|
| (テルモからの受託研究) テルモインスリンポンプ安全性調査 | 石井 暁 | 脳神経外科 | 270,000 | 補 ⊕ 公益財団法人神戸医療産業都市推進機構 |
| (神戸市民病院機構との医師主導治験) VS01 (Versi Retriever) (以下「本治験機器」という。) を用いた急性虚血性脳卒中に対する血栓回収療法の安全性及び有効性を評価する多施設共同単一群試験 | 石井 暁 | 脳神経外科 | 1,700,000 | 補 ⊕ 地方独立行政法人 神戸市民病院機構 理事長 |
| (神戸市民病院機構との医師主導治験) 脳動静脈奇形に対するPHIL液体塞栓システム (PH-112) を用いた摘出前塞栓術に関する安全性及び有効性を評価する多施設共同単一群試験 | 石井 暁 | 脳神経外科 | 1,100,000 | 補 ⊕ 地方独立行政法人 神戸市民病院機構 理事長 |
| リプログラミング技術による非定型奇形腫様ラブドイド腫瘍のエピゲノム解析と治療開発 | 荒川 芳輝 | 脳神経外科 | 1,690,000 | 補 委 ⊕ 文部科学省 |
| 脳幹部神経膠腫患者を対象としたconvective-enhanced delivery (CED) によるニムスチン塩酸塩投与の多施設共同第I相臨床試験 (医師主導治験) | 荒川 芳輝 | 脳神経外科 | 1,822,220 | 補 ⊕ 国立大学法人東北大学 病院長 |
| 【臨】 TERTを標的とした再発膠芽腫に対するエリプリンの医師主導治験 | 荒川 芳輝 | 脳神経外科 | 2,600,000 | 補 ⊕ 国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長 |
| 希少・難治小児脳幹部神経膠腫に対する塩酸ニムスチン局所投与による新規治療法開発: 多施設共同医師主導治験 | 荒川 芳輝 | 脳神経外科 | 999,752 | 補 ⊕ 国立大学法人東北大学 病院長 |
| 前頭葉内言語線維及び運動線維における相互作用の解明 | 菊池 隆幸 | 脳神経外科 | 910,000 | 補 委 ⊕ 文部科学省 |
| MRI-ASLによる急性脳症の血流異常の評価と治療効果判定 | 武信 洋平 | 脳神経外科 | 1,040,000 | 補 委 ⊕ 文部科学省 |
| 髄芽腫発生と抗腫瘍免疫におけるmiR-33の役割解明と免疫治療へ応用 | 峰晴 陽平 | 脳神経外科 | 1,690,000 | 補 委 ⊕ 文部科学省 |
| 金-白金合金電極を用いた脳機能ネットワークの解明 | 山尾 幸広 | 脳神経外科 | 2,340,000 | 補 委 ⊕ 文部科学省 |
| 高圧処理技術を用いた巨大色素性母斑治療～不活化機序解明と生着率向上 | 森本 尚樹 | 形成外科 | 3,250,000 | 補 委 ⊕ 文部科学省 |
| 乳房再建用人工脂肪の開発～自家脂肪組織の再生を目指して | 森本 尚樹 | 形成外科 | 26,000,000 | 補 ⊕ 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 先天性巨大色素性母斑を母地とした悪性黒色腫に対する予防的低侵襲治療方法の開発～First-in-man臨床研究から先進医療へ | 森本 尚樹 | 形成外科 | 54,041,000 | 補 ⊕ 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 機能的真皮の基礎となるコラーゲンの幾何学構造と変形機構の解明 | 齊藤 晋 | 形成外科 | 910,000 | 補 委 ⊕ 文部科学省 |
| 診断・治療適用のための光超音波3Dイメージングによる革新的画像診断装置の開発/臨床研究 (皮弁術前計画及び乳がん診断応用開発) | 齊藤 晋 | 形成外科 | 23,138,700 | 補 ⊕ 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 乾燥同種培養表皮の基礎研究 利便性の高い皮膚再生医療を目指して | 坂本 道治 | 形成外科 | 1,820,000 | 補 委 ⊕ 文部科学省 |
| 皮膚再建に用いる乾燥同種培養表皮の開発 | 坂本 道治 | 形成外科 | 19,500,000 | 補 ⊕ 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |

小計
18

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|--|--------|------------|------------|----------------------------------|
| リジロオキシダーゼの酵素活性化分子を標的とした線維化抑制治療の開発 | 野田 和男 | 形成外科 | 4,160,000 | 補委 文部科学省 |
| 胎児期におけるヒト顔面骨格の3次元成長発達の解明 | 勝部 元紀 | 形成外科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 細胞死に注目した熱傷治療の新規開発 | 松浦 喜貴 | 形成外科 | 2,210,000 | 補委 文部科学省 |
| (国立循環器病研究センターからの受託研究) 生体弁置換術後心房細動患者の抗血栓療法に関するレジストリー | 湊谷 謙司 | 心臓血管外科 | 518,400 | 補委 国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 理事長 |
| iPS細胞由来人工心臓組織移植による心臓再生医療における免疫拒絶に関する研究 | 湊谷 謙司 | 心臓血管外科 | 3,900,000 | 補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 脱細胞化血管組織へのiPS細胞由来血管細胞播種による自己成長型血管グラフトの開発 | 池田 義 | 心臓血管外科 | 4,940,000 | 補委 文部科学省 |
| イメージング質量分析による心筋症病態進行関連バイオマーカー同定および治療応用研究 | 山崎 和裕 | 心臓血管外科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| ヒトiPS細胞由来心臓組織グラフト-ホスト間の機能的同期法の開発 | 金光 ひでお | 心臓血管外科 | 5,070,000 | 補委 文部科学省 |
| 低体温循環停止における「人工冬眠」併用による効率的な臓器保護法の開発 | 川東 正英 | 心臓血管外科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 変異型p53誘導性上皮間葉転換を起こした肺癌のシグナル経路の解明及び治療法の確立 | 伊達 洋至 | 呼吸器外科 | 2,210,000 | 補委 文部科学省 |
| 水素水の拡散能を利用した心停止ドナー肺障害の修復と肺移植実現を目指した大動物実験 | 伊達 洋至 | 呼吸器外科 | 5,200,000 | 補委 文部科学省 |
| 脱気変形肺に対応した微小結節の術中同定法 | 伊達 洋至 | 呼吸器外科 | 47,450,000 | 補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 肺移植における体外肺灌流保存 (EVL P) を用いたマージナルドナー肺の治療 | 伊達 洋至 | 呼吸器外科 | 7,800,000 | 補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| Arf6活性化による上皮間葉転換 (EMT) を標的とした肺癌特異的な治療法の探索 | 毛受 暁史 | 呼吸器外科 | 910,000 | 補委 文部科学省 |
| 新素材を用いた、肺切除術後の術後癒着予防法の開発 | 濱路 政嗣 | 呼吸器外科 | 1,170,000 | 補委 文部科学省 |
| 体外肺灌流保存中の肝細胞増殖因子による肺移植後虚血再灌流障害の軽減 | 中島 大輔 | 呼吸器外科 | 1,690,000 | 補委 文部科学省 |
| 機能性極細気泡を用いた革新的臓器保存液の開発 | 豊 洋次郎 | 呼吸器外科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| ドナーグラフト内の白血球を標的とした肺移植における新規治療法の開発 | 大角 明宏 | 呼吸器外科 | 1,690,000 | 補委 文部科学省 |
| 抗炎症作用を有する脂質メディエーターの肺移植領域への応用可能性 | 田中 里奈 | 呼吸器外科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 肺移植後急性・慢性拒絶反応を抑制するIL-2複合体の臨床応用に向けた研究 | 山田 義人 | 呼吸器外科 | 1,820,000 | 補委 文部科学省 |
| 【H30年度開始】バイオ3D プリンタにより作製した三次元神経導管 (Bio 3D Conduit) を用いた革新的末梢神経再生法の臨床開発 | 池口 良輔 | リハビリテーション科 | 95,000,000 | 補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| ヒト卵管マスト細胞の卵管異所性妊娠発症への関与 | 上島 千幸 | 病理診断科 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 小児の侵襲性肺炎球菌感染症分離菌の遺伝子解析 | 長尾 美紀 | 検査部 | 2,103,374 | 補委 独立行政法人国立病院機構三重病院 院長 |

小計
23

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|---|-------|---------------|------------|----------|-------------------------------|
| Evolution of Extended-Spectrum Beta-Lactamase-Producing Enterobacteriaceae in the US and Japan Over the Past Two Decades | 長尾 美紀 | 検査部 | 2,407,600 | 補 委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 尿中薬剤耐性菌の迅速遺伝子検査法の開発と検証 | 松村 康史 | 検査部 | 520,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 振戦脳に対する双方向性の融合的アプローチによるメカニズム解明 | 人見 健文 | 検査部 | 910,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 転写因子C/EBP β によるストレス造血制御機構の解明 | 平位 秀世 | 検査部 | 1,560,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| Whole genome sequencing analysis of Streptococcus pneumoniae strains to suggest the mechanism of drug resistances and serotype switch based on recombination events | 中野 哲志 | 検査部 | 2,340,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 造血幹細胞移植後の腸内細菌叢変化に着目した、腸管GVHD発症の新規予防法の開発 | 新井 康之 | 検査部 | 2,080,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 大腸菌で最も拡散している β ラクタマーゼの水平伝播因子の解明 | 野口 太郎 | 検査部 | 1,430,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 治る認知症：自己免疫性辺縁系脳炎のバイオマーカー開発 | 本多 正幸 | 検査部 | 1,560,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| チオ硫酸のICU-AWIに対する予防効果の検討 | 甲斐 慎一 | 手術部 | 1,170,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 前立腺がん治療の最適化に向けた革新的なPET画像診断システムの構築 | 中本 裕士 | 放射線部 | 7,227,792 | 補 委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 前立腺がん治療の最適化に向けた革新的なPET画像診断システムの構築 | 中本 裕士 | 放射線部 | 23,790,000 | 補 委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 乳房超高速ダイナミック造影MRIを用いた新たな腫瘍血流・腫瘍血管解析法の確立 | 片岡 正子 | 放射線部 | 1,170,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 肺移植後遠隔期における身体活動性とその他臨床指標との関連 | 大島 洋平 | リハビリテーション部 | 460,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 子宮頸部上皮内腫瘍（CIN）治療薬に関する研究開発 | 濱西 潤三 | 周産母子診療部 | 52,000,000 | 補 委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 敗血症時の脊髄における急性炎症変化とその臨床的意義 | 田中 具治 | 集中治療部 | 1,300,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| オピオイドへの耐性形成に関与するオピオイド受容体制御機構の解明 | 清水 覚司 | 集中治療部 | 1,690,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| ヒト脱落膜マスト細胞のKIR2DL4を介した妊娠成立への関与 | 片岡 竜貴 | 臓器移植医療部 | 1,560,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 最適な移植環境を構築する新規臍島移植免疫抑制法の開発：MEK阻害剤の応用可能性 | 穴澤 貴行 | 臓器移植医療部 | 1,690,000 | 補 委 | 文部科学省 |
| 細胞移植用免疫寛容空間構築デバイスの開発 | 穴澤 貴行 | 臓器移植医療部 | 16,248,000 | 補 委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| PD-1経路阻害薬耐性メカニズムの解明と新規治療開発～がん性腹水再利用への挑戦 | 濱西 潤三 | 総合周産期母子医療センター | 1,950,000 | 補 委 | 文部科学省 |

小計
20

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|---|--------|---------------|-------------|---------------------------------------|
| 統合型ゲノム解析によるトランスレーショナルリサーチを用いた、高異型度卵巣癌患者を対象としたオラパリブ維持療法に関する多施設共同第ⅠⅠ相臨床試験 | 濱西 潤三 | 総合周産期母子医療センター | 500,000 | 補 ⊗ 国立大学法人東京大学 |
| 腹膜に着目した子宮内膜症発症機序の解明 | 谷 洋彦 | 総合周産期母子医療センター | 1,690,000 | 補 委 文部科学省 |
| 中枢神経の低酸素領域に存在する白血病細胞を標的とした新規治療法の開発 | 加藤 格 | 総合周産期母子医療センター | 1,040,000 | 補 委 文部科学省 |
| 高度腎機能低下患者におけるフッ化ピリミジン系抗がん薬の適正使用に関する研究 | 松原 和夫 | 薬剤部 | 1,430,000 | 補 委 文部科学省 |
| がん化学療法誘発末梢神経障害の発症機構解析と予防/治療薬の探索 | 中川 貴之 | 薬剤部 | 5,460,000 | 補 委 文部科学省 |
| 末梢神経障害に伴う末梢温調節機構の破綻と異常感覚発生の機構解明 | 中川 貴之 | 薬剤部 | 5,070,000 | 補 委 文部科学省 |
| 神経/シュワン細胞相互作用に着目した抗がん剤誘発末梢神経障害の機序・治療法の探索 | 今井 哲司 | 薬剤部 | 1,560,000 | 補 委 文部科学省 |
| 薬物誘発性腎線維化に対する治療法の探索 | 中川 俊作 | 薬剤部 | 1,690,000 | 補 委 文部科学省 |
| PBPKモデルを用いた生体肝移植患者におけるエベロリムスの最適投与計画の構築 | 糸原 光太郎 | 薬剤部 | 480,000 | 補 委 文部科学省 |
| 肺移植後の真菌感染マーカーとしてのミコフェノール酸及び免疫グロブリンの有用性検証 | 片田 佳希 | 薬剤部 | 440,000 | 補 委 文部科学省 |
| 分子シャペロンAPG-2による非アルコール性脂肪性肝疾患の制御と、その機序に基づく疾患予後評価法、治療法の開発 | 伊藤 克彦 | 医療安全管理部 | 6,000,000 | 補 ⊗ 京都府公立大学法人理事長 |
| 価値共有の認知による信頼関係に基づく人由来検体・情報のガバナンス体制の構築 | 佐藤 恵子 | 医療安全管理部 | 1,820,000 | 補 委 文部科学省 |
| 全国的レジストリーによる脳卒中および循環器疾患の実態把握の確立と両疾患合併に関する包括的診療実態解明に関する研究 | 黒田 知宏 | 医療情報企画部 | 500,000 | 補 ⊗ 国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 理事長 |
| 次世代眼科医療を目指す、ICT/人工知能を活用した画像等データベースの基盤構築 | 黒田 知宏 | 医療情報企画部 | 116,100,000 | 補 ⊗ 筑波大学 |
| レセプトデータベース(NDB)の利用を容易にするための包括的支援システムの開発 | 加藤 源太 | 医療情報企画部 | 7,540,000 | 補 委 文部科学省 |
| 医療・介護のデータの利活用の推進のための、NDB・介護DBの連結可能性および活用可能性の評価に関する研究 | 加藤 源太 | 医療情報企画部 | 35,446,000 | 補 委 厚生労働省 |
| NDB データから患者調査各項目及びOECD 医療の質指標を導くためのアルゴリズム開発にかかる研究 | 加藤 源太 | 医療情報企画部 | 5,530,000 | 補 委 厚生労働省 |
| 各種の診療諸記録を利用した効果的な診療録提示環境の構築 | 岡本 和也 | 医療情報企画部 | 1,430,000 | 補 委 文部科学省 |
| 競争と連携が病院の経営と医療の質に与える効果に関する研究 | 大坪 徹也 | 医療情報企画部 | 1,300,000 | 補 委 文部科学省 |
| 植物共生微生物の活性を高める有機資材の開発 | 山本 豪志朗 | 医療情報企画部 | 100,000 | 補 ⊗ 国立研究開発法人 科学技術振興機構 分任研究契約担当者 |
| 介護保険施設の評価指標に関するデータ分析 | 大坪 徹也 | 医療情報企画部 | 650,000 | 補 ⊗ 公立大学法人横浜市立大学 理事長 |

小計
21

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|--|-------|------------------|------------|-----------------------------------|
| 大規模データを用いた高齢者リハビリテーションにおけるエビデンス診療ギャップの解明 | 大寺 祥佑 | 医療情報企画部 | 1,300,000 | 補委 文部科学省 |
| 代用貨幣を用いた医療機関における分散的意思決定の実証研究 | 平木 秀輔 | 医療情報企画部 | 1,690,000 | 補委 文部科学省 |
| 老化関連メタボライト探索によるWell-Ageing達成の挑戦的研究 | 近藤 祥司 | 地域ネットワーク医療部 | 1,950,000 | 補委 文部科学省 |
| 老化の多様性を生み出す代謝恒常性の変容破綻の解明とその制御 | 近藤 祥司 | 地域ネットワーク医療部 | 3,770,000 | 補委 文部科学省 |
| ヘルスリテラシー向上に向けた健康教育による予防理学療法の確立と介護予防効果の検証 | 紙谷 司 | 総合臨床教育・研修センター | 627,000 | 補委 公立大学法人富山県立大学 理事長 |
| 生体由来3次元スキャフォールドを用いた再生肝臓による生存率改善とECM解析 | 福光 剣 | 診療報酬センター | 1,560,000 | 補委 文部科学省 |
| CD4T細胞から分化誘導される新規制御性T細胞の機能解析 | 清水 章 | 臨床研究総合センター | 5,590,000 | 補委 文部科学省 |
| 京都大学大学院における臨床統計家育成のための教育カリキュラムの標準化のための研究開発 | 森田 智視 | 臨床研究総合センター | 7,351,500 | 補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 肉腫への革新的医薬実用化を目指した独自開発の増殖制御型アデノウイルスの医師主導治験：治験体制整備・事務・実用化の支援 | 清水 章 | 臨床研究総合センター | 4,550,000 | 補委 国立大学法人鹿児島大学 契約担当役 産学・地域共創センター長 |
| EPRAPを標的とした炎症性疾患に対する新規医療の開発 | 南 学 | 臨床研究総合センター | 910,000 | 補委 文部科学省 |
| 再生医療における免疫抑制剤の適切な投与方策 | 角 栄里子 | 臨床研究総合センター | 780,000 | 補委 文部科学省 |
| 【臨】網膜色素変性に対するBranched chain amino acidsを用いた新規神経保護治療法の開発 | 池田 華子 | 臨床研究総合センター | 57,590,000 | 補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 欧州の研究公正の制度的研究と日本の研究公正の環境構築 | 伊藤 達也 | 臨床研究総合センター | 1,560,000 | 補委 文部科学省 |
| 生存時間解析における例数設計方法の開発と臨床研究への応用 | 魚住 龍史 | 臨床研究総合センター | 910,000 | 補委 文部科学省 |
| 乳癌個別化治療に直結する新たな拡散強調MRI画像診断法の確立 | 飯間 麻美 | 臨床研究総合センター | 1,040,000 | 補委 文部科学省 |
| 消費者・商品・時間を考慮したNMF技術開発と購買行動・心理関係メカニズムの把握 | 阿部 寛康 | 臨床研究総合センター | 1,170,000 | 補委 文部科学省 |
| 拡散MRIを用いた革新的な腫瘍診断技術の構築 | 飯間 麻美 | 臨床研究総合センター | 7,773,988 | 補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 腸管内分泌K細胞GIP合成分泌における細胞内シグナル伝達機構の解明 | 鈴木 和代 | 先制医療・生活習慣病研究センター | 1,560,000 | 補委 文部科学省 |
| 生体内におけるインクレチンGIPの骨代謝に及ぼす影響について | 桑原 智子 | 先制医療・生活習慣病研究センター | 1,690,000 | 補委 文部科学省 |
| 大腸癌の抗癌剤耐性機序に関わるCDKN3を標的とした新規薬剤及び治療法開発 | 松原 淳一 | クリニカルバイオリソースセンター | 1,690,000 | 補委 文部科学省 |
| 側坐核による運動機能回復における神経回路再編機構の解明 | 尾上 浩隆 | 脳機能総合研究センター | 7,540,000 | 補委 文部科学省 |

小計
21

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|---|-------|-----------------|------------|-----------------------------------|
| 生活習慣を改善する意欲を形成する客観的画像指標の創成 | 岡田 知久 | 脳機能総合研究センター | 1,690,000 | 補委 文部科学省 |
| 圧縮センシングと深層学習の融合による新たなMRI画像再構成法の開発 | 藤本 晃司 | 脳機能総合研究センター | 1,690,000 | 補委 文部科学省 |
| パラレル送信を用いない7T-MRI用B1均一化頭部RFコイルシステムの開発 | 浦山 慎一 | 脳機能総合研究センター | 7,280,000 | 補委 文部科学省 |
| 高インピーダンスコイル技術を用いた霊長類MR画像の信号ノイズ比向上 | 浦山 慎一 | 脳機能総合研究センター | 2,730,000 | 補委 文部科学省 |
| 気道疾患進行と睡眠障害合併時に対する統合的オミックス解析とバイオマーカーの探索 | 陳 和夫 | 呼吸管理睡眠制御学講座 | 4,290,000 | 補委 文部科学省 |
| 持続陽圧 (CPAP, ASV) 治療管理開始時からの治療状況確認と自己学習を含めた患者・医療機関相互方向の遠隔医療の試み | 陳 和夫 | 呼吸管理睡眠制御学講座 | 12,304,000 | 補委 厚生労働省 |
| 客観的な資料に基づく活動性及び各種睡眠障害が心血管・代謝障害に与える影響とその病態生理解明の開発研究 | 陳 和夫 | 呼吸管理睡眠制御学講座 | 6,487,000 | 補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 契約担当職 理事長 |
| 脳電気刺激の新たな挑戦：微小電流による記憶ニューロモデュレーション法の開発 | 武山 博文 | 呼吸管理睡眠制御学講座 | 1,690,000 | 補委 文部科学省 |
| 睡眠時無呼吸重症度と糖尿病遺伝リスクを統合した糖尿病発症・増悪の予測モデルの構築 | 村瀬 公彦 | 呼吸管理睡眠制御学講座 | 1,690,000 | 補委 文部科学省 |
| 2型自然リンパ球におけるRegnase-1を標的とした特発性肺線維症新規治療戦略 | 中塚 賀也 | 呼吸管理睡眠制御学講座 | 1,430,000 | 補委 文部科学省 |
| 関節リウマチ滑膜の上皮間葉移行の新規制御分子DIP2Cの解析と治療作用点の検討 | 田中 真生 | リウマチ性疾患先進医療学講座 | 1,560,000 | 補委 文部科学省 |
| 低酸素下での破骨細胞分化促進機構の解明と関節リウマチの新たな骨破壊治療法の開発 | 村田 浩一 | リウマチ性疾患先進医療学講座 | 6,500,000 | 補委 文部科学省 |
| 植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発／高生産性微生物創製に資する情報解析システムの開発 | 荒木 通啓 | 臨床システム腫瘍学講座 | 39,583,000 | 補委 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 理事長 |
| バイオポリマー マテリアルズ・インフォマティクス研究開発コンソーシアム「革新的バイオ素材・高機能品等の開発を加速するインフォマティクス基盤技術の開発」 | 荒木 通啓 | 臨床システム腫瘍学講座 | 7,500,000 | 補委 国立研究開発法人理化学研究所 外部資金室長 |
| 肺動脈性肺高血圧症に対する新規治療標的としてのTRPC6, CNP経路の研究 | 木下 秀之 | 地域医療システム学講座 | 1,560,000 | 補委 文部科学省 |
| DNA相同組み替え修復遺伝子異常を有する膵癌をターゲットとした個別化医療の開発 | 金井 雅史 | 臨床腫瘍薬理学・緩和医療学講座 | 520,000 | 補委 文部科学省 |
| (国立がん研究センターからの受託研究) ALK遺伝子異常を有する希少がんに対するアレクチニブの医師主導治験 | 金井 雅史 | 臨床腫瘍薬理学・緩和医療学講座 | 400,000 | 補委 国立がん研究センター 理事長 |
| (国立がん研究センターからの受託研究) 希少がんに対するニボルマブ単剤療法の医師主導治験 | 金井 雅史 | 臨床腫瘍薬理学・緩和医療学講座 | 800,000 | 補委 国立がん研究センター 理事長 |
| 死別が遺族に与える肯定的影響に関する質的検討 | 嶋田 和貴 | 臨床腫瘍薬理学・緩和医療学講座 | 390,000 | 補委 文部科学省 |
| ヒトiPS/ES細胞からの副腎性腺原基の同定とその分化制御機構の解明 | 曾根 正勝 | 代謝制御学講座 | 1,170,000 | 補委 文部科学省 |
| 無症候性褐色細胞腫の臨床的特徴と診断法の確立と褐色細胞腫全般のスクリーニングのための定量的検査法の確立 | 曾根 正勝 | 代謝制御学講座 | 1,400,000 | 補委 国立研究開発法人国立国際医療研究センター 理事長 |

小計

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|--|--------|--------------------|------------|----------|--|
| 特発性肺線維症の末梢血テロメア長に関する多施設共同研究 | 半田 知宏 | 呼吸不全先進医療講座 | 1,560,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 閉塞性換気障害と動脈硬化進行に関与する新たなバイオマーカーの探索 | 濱田 哲 | 呼吸不全先進医療講座 | 2,470,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 異分野先端技術融合による薬剤抵抗性を標的とした革新的複合治療戦略の開発 | 井上 正宏 | クリニカルバイオリソース研究開発講座 | 22,100,000 | 補委 | 国立大学法人東京大学 総長 代理人 医科学 研究所 事務部長 |
| ヒトへの外挿性を向上させた培養細胞資源開発と供給体制整備 | 井上 正宏 | クリニカルバイオリソース研究開発講座 | 7,600,000 | 補委 | 国立研究開発法人 医 薬基盤・健康・栄養研 究所 契約担当役 理 事長 |
| ヒト脳発振現象の直接記録 | 池田 昭夫 | てんかん・運動異常生理学講座 | 20,410,000 | 補委 | 文部科学省 |
| グリアとニューロンによるヒト脳の包括的てんかんネットワークの統合的解析 | 池田 昭夫 | てんかん・運動異常生理学講座 | 9,230,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 包括的機能マッピングによる漢字・仮名読みの脳内神経基盤の解明 | 下竹 昭寛 | てんかん・運動異常生理学講座 | 1,950,000 | 補委 | 文部科学省 |
| ヒト脳内神経活動の有向ネットワークの変容と生理・病態との関連 | 宇佐美 清英 | てんかん・運動異常生理学講座 | 1,300,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 乳癌患者におけるFES-PETの診断能と臨床的有意性 | 三宅 可奈江 | 高度医用画像学講座 | 910,000 | 補委 | 文部科学省 |
| 中枢神経系多様性獲得機構からみた神経変性疾患における選択的脆弱性及び進行性の解明 | 田邊 康人 | 認知症制御学講座 | 1,560,000 | 補委 | 文部科学省 |
| | | | | | 小計 10 |
| | | | | | 合計 473 |

注 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、

高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|--|---------------------------|---|---|---------------------|
| 1 | Nishikori M. | 血液内科 | [III.Diagnosis and Treatment of Hodgkin Lymphoma] | Gan To Kagaku Ryoho. 2019 May; 46(5):874-877 | Original Article |
| 2 | Arai Y, Kondo T, Fuse K et al. | 血液内科 | Using a machine learning algorithm to predict acute graft-versus-host disease following allogeneic transplantation | Blood Adv. 2019 Nov; 3(22):3626-3634 | Original Article |
| 3 | Nagano S, Maeda T, Ichise H et al. | 血液内科 | High Frequency Production of T Cell-Derived iPSC Clones Capable of Generating Potent Cytotoxic T Cells | Mol Ther Methods Clin Dev. 2019 Dec; 16:126- 135 | Original Article |
| 4 | Kanda J, Hayashi H, Ruggeri A et al. | 血液内科 | Prognostic factors for adult single cord blood transplantation among European and Japanese populations: the Eurocord/ALWP-EBMT and JSHCT/JDCHCT collaborative study | Leukemia. 2020 Jan; 34(1):128-137 | Original Article |
| 5 | Izumi K, Kanda J, Nishikori M et al. | 血液内科 | Outcomes of allogeneic stem cell transplantation for DLBCL: a multi-center study from the Kyoto Stem Cell Transplantation Group | Ann Hematol. 2019 Dec; 98(12):2815-2823 | Original Article |
| 6 | Watanabe M, Kanda J, Hishizawa M et al. | 血液内科 | Impact of cumulative steroid dose on infectious diseases after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation | Transpl Infect Dis. 2019 Apr; 21(2):e13049 | Original Article |
| 7 | Kanda J, Kawase T, Tanaka H et al. | 血液内科 | Effects of Haplotype Matching on Outcomes after Adult Single-Cord Blood Transplantation | Biol Blood Marrow Transplant. 2020 Mar; 26(3):509-518 | Original Article |
| 8 | Kanda J. | 血液内科 | Guest Editorial: Are "alternative" stem cell sources still alternative in the new era? | Int J Hematol. 2019 Jul; 110(1):20-21 | Original Article |
| 9 | Yamazaki H, Shirakawa K, Matsumoto T et al. | 血液内科 | Endogenous APOBEC3B Overexpression Constitutively Generates DNA Substitutions and Deletions in Myeloma Cells | Sci Rep. 2019 May; 9(1):7122 | Original Article |
| 10 | Tatsumi G, Kawahara M, Yamamoto R et al. | 血液内科 | LSD1-mediated repression of GF11 super-enhancer plays an essential role in erythroleukemia | Leukemia. 2020 Mar; 34(3):746-758 | Original Article |

小計 10

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|--|---------------------------|---|--|------------------|
| 11 | Iemura T, Kondo T, Hishizawa M et al. | 血液内科 | NK-cell post-transplant lymphoproliferative disease with chronic active Epstein-Barr virus infection-like clinical findings | Int J Infect Dis. 2019 Nov;88:31-33 | Original Article |
| 12 | Kawabata H, Usuki K, Shindo-Ueda M et al. | 血液内科 | Serum ferritin levels at diagnosis predict prognosis in patients with low blast count myelodysplastic syndromes | Int J Hematol. 2019 Nov; 110(5):533-542 | Original Article |
| 13 | Yamamoto K, Kitawaki T, Sugimoto N et al. | 血液内科 | Anti-inflammatory modulation of human myeloid-derived dendritic cell subsets by lenalidomide | Immunol Lett. 2019 Jul; 211:41-48 | Original Article |
| 14 | Matsumoto T, Shirakawa K, Yokoyama M et al. | 血液内科 | Protein kinase A inhibits tumor mutator APOBEC3B through phosphorylation | Sci Rep. 2019 Jun; 9(1):8307 | Original Article |
| 15 | Yoshinaga N, Shindo K, Matsui Y et al. | 血液内科 | A screening for DNA damage response molecules that affect HIV-1 infection | Biochem Biophys Res Commun. 2019 May; 513(1):93-98 | Original Article |
| 16 | Yamamoto R, Xu Y, Ikeda S et al. | 血液内科 | Thymic Development of a Unique Bone Marrow-Resident Innate-like T Cell Subset with a Potent Innate Immune Function | J Immunol. 2019 Jul; 203(1):167-177 | Original Article |
| 17 | Yamazaki H, Shirakawa K, Matsumoto T et al. | 血液内科 | APOBEC3B reporter myeloma cell lines identify DNA damage response pathways leading to APOBEC3B expression | PLoS One. 2020 Jan; 15(1):e0223463 | Original Article |
| 18 | Usui R, Yabe D, Fauzi M et al. | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | GPR40 activation initiates store-operated Ca(2+) entry and potentiates insulin secretion via the IP3R1/STIM1/Orai1 pathway in pancreatic β -cells | Sci Rep. 2019 Oct; 9(1):15562 | Original Article |
| 19 | Ueda Y, Yasoda A, Hirota K et al. | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | Exogenous C-type natriuretic peptide therapy for impaired skeletal growth in a murine model of glucocorticoid treatment | Sci Rep. 2019 Jun; 9(1):8547 | Original Article |
| 20 | Yamashita T, Fujii T, Yamauchi I et al. | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | C-Type Natriuretic Peptide Restores Growth Impairment Under Enzyme Replacement in Mice With Mucopolysaccharidosis VII | Endocrinology. 2020 Feb; 161(2):bqaa008 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|--|---------------------------|--|--|---------------------|
| 21 | Nakamura T, Fujikura J, Anazawa T et al. | 糖尿病・内分泌・ 栄養内科 | Long-term outcome of islet transplantation on insulin-dependent diabetes mellitus: An observational cohort study | J Diabetes Investig. 2020 Mar;11(2):363-372 | Original Article |
| 22 | Suminaga K, Murakami T, Yabe D et al. | 糖尿病・内分泌・ 栄養内科 | Factory-calibrated continuous glucose monitoring and capillary blood glucose monitoring in a case with insulinoma: usefulness and possible pitfall under chronic hyperinsulinemic hypoglycemia | Endocr J. 2020 Mar; 67(3):361-366 | Original Article |
| 23 | Minamino H, Katsushima M, Yoshida T et al. | 糖尿病・内分泌・ 栄養内科 | Increased circulating adiponectin is an independent disease activity marker in patients with rheumatoid arthritis: A cross-sectional study using the KURAMA database | PLoS One. 2020 Mar; 15(3):e0229998 | Original Article |
| 24 | Mano F, Ikeda K, Uchida Y et al. | 糖尿病・内分泌・ 栄養内科 | Novel psychosocial factor involved in diabetes self-care in the Japanese cultural context | J Diabetes Investig. 2019 Jul;10(4):1102-1107 | Original Article |
| 25 | Shirako S, Kojima Y, Tomari N et al. | 糖尿病・内分泌・ 栄養内科 | Pyroglutamyl leucine, a peptide in fermented foods, attenuates dysbiosis by increasing host antimicrobial peptide | NPJ Sci Food. 2019 Oct; 3:18 | Original Article |
| 26 | Liu Y, Harashima SI, Wang Y et al. | 糖尿病・内分泌・ 栄養内科 | Sphingosine kinase 1-interacting protein is a dual regulator of insulin and incretin secretion | FASEB J. 2019 May; 33(5):6239-6253 | Original Article |
| 27 | Fujita Y, Inagaki N. | 糖尿病・内分泌・ 栄養内科 | Update on the efficacy and safety of sodium-glucose cotransporter 2 inhibitors in Asians and non-Asians | J Diabetes Investig. 2019 Nov;10(6):1408-1410 | Original Article |
| 28 | Yoshikawa Y, Yamashita Y, Morimoto T et al. | 循環器内科 | Sex Differences in Clinical Characteristics and Outcomes of Patients With Venous Thromboembolism - From the COMMAND VTE Registry | Circ J. 2019 Jun; 83(7):1581-1589 | Original Article |
| 29 | Yamashita Y, Morimoto T, Amano H et al. | 循環器内科 | Deep vein thrombosis in upper extremities: Clinical characteristics, management strategies and long-term outcomes from the COMMAND VTE Registry | Thromb Res. 2019 May; 177:1-9 | Original Article |
| 30 | Yamashita Y, Morimoto T, Amano H et al. | 循環器内科 | Usefulness of Simplified Pulmonary Embolism Severity Index Score for Identification of Patients With Low-Risk Pulmonary Embolism and Active Cancer: From the COMMAND VTE Registry | Chest. 2020 Mar; 157(3):636-644 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|--|---------------------------|---|--|------------------|
| 31 | Kato T, Yaku H, Morimoto T et al. | 循環器内科 | Association with Controlling Nutritional Status (CONUT) Score and In-hospital Mortality and Infection in Acute Heart Failure | Sci Rep. 2020 Feb; 10(1):3320 | Original Article |
| 32 | Kato T, Uemura Y, Naya M et al. | 循環器内科 | Impact of renal dysfunction on the choice of diagnostic imaging, treatment strategy, and outcomes in patients with stable angina | Sci Rep. 2019 May; 9(1):7882 | Original Article |
| 33 | Yaku H, Kato T, Morimoto T et al. | 循環器内科 | Risk factors and clinical outcomes of functional decline during hospitalisation in very old patients with acute decompensated heart failure: an observational study | BMJ Open. 2020 Feb; 10(2):e032674 | Original Article |
| 34 | Kato T, Okano M, Haruna Y et al. | 循環器内科 | Association between abnormal myocardial scintigraphy findings and long-term outcomes for elderly patients 85 years or older: a retrospective cohort study | BMC Cardiovasc Disord. 2019 Nov; 19(1):246 | Original Article |
| 35 | Yaku H, Kato T, Morimoto T et al. | 循環器内科 | Association of Mineralocorticoid Receptor Antagonist Use With All-Cause Mortality and Hospital Readmission in Older Adults With Acute Decompensated Heart Failure | JAMA Netw Open. 2019 Jun; 2(6):e195892 | Original Article |
| 36 | Seko Y, Kato T, Shiba M et al. | 循環器内科 | Staging Cardiac Damage in Patients With Hypertension | Hypertension. 2019 Dec; 74(6):1357-1365 | Original Article |
| 37 | Minamino-Muta E, Kato T, Morimoto T et al. | 循環器内科 | Decline in Left Ventricular Ejection Fraction During Follow-Up in Patients With Severe Aortic Stenosis | JACC Cardiovasc Interv. 2019 Dec; 12(24):2499-2511 | Original Article |
| 38 | Seko Y, Kato T, Shiba M et al. | 循環器内科 | Association of the low e' and high E/e' with long-term outcomes in patients with normal ejection fraction: a hospital population-based observational cohort study | BMJ Open. 2019 Nov; 9(11):e032663 | Original Article |
| 39 | Takeji Y, Shiomi H, Morimoto T et al. | 循環器内科 | Diabetes Mellitus and Long-Term Risk for Heart Failure After Coronary Revascularization | Circ J. 2020 Feb; 84(3):471-478 | Original Article |
| 40 | Kato ET, Sabatine MS, Wiviott SD. | 循環器内科 | Response by Kato et al to Letter Regarding Article, "Effect of Dapagliflozin on Heart Failure and Mortality in Type 2 Diabetes Mellitus" | Circulation. 2019 Oct; 140(18):e740-e741 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|--|---------------------------|---|--|---------------------|
| 41 | Kato ET, Silverman MG, Mosenzon O et al. | 循環器内科 | Effect of Dapagliflozin on Heart Failure and Mortality in Type 2 Diabetes Mellitus | Circulation. 2019 May; 139(22):2528-2536 | Original Article |
| 42 | Ide Y, Horie T, Saito N et al. | 循環器内科 | Cardioprotective Effects of VCP Modulator KUS121 in Murine and Porcine Models of Myocardial Infarction | JACC Basic Transl Sci. 2019 Oct;4(6):701-714 | Original Article |
| 43 | Imai M, Tazaki J, Kimura T et al. | 循環器内科 | Pathological findings of late total occlusion after Zilver PTX stent implantation in restenosis lesion of bare-metal nitinol stent for superficial femoral artery | Cardiovasc Interv Ther. 2019 Jul;34(3):288-289 | Original Article |
| 44 | Watanabe H, Kimura T. | 循環器内科 | 1 vs 12 Months of Dual Antiplatelet Therapy for Patients After Percutaneous Coronary Intervention-Reply | JAMA. 2019 Nov; 322(17):1715-1716 | Original Article |
| 45 | Watanabe H, Domei T, Morimoto T et al. | 循環器内科 | Effect of 1-Month Dual Antiplatelet Therapy Followed by Clopidogrel vs 12-Month Dual Antiplatelet Therapy on Cardiovascular and Bleeding Events in Patients Receiving PCI: The STOPDAPT-2 Randomized Clinical Trial | JAMA. 2019 Jun; 321(24):2414-2427 | Original Article |
| 46 | Watanabe H, Domei T, Morimoto T et al. | 循環器内科 | Very Short Dual Antiplatelet Therapy After Drug-Eluting Stent Implantation in Patients With High Bleeding Risk: Insight From the STOPDAPT-2 Trial | Circulation. 2019 Dec; 140(23):1957-1959 | Original Article |
| 47 | Yamamoto K, Shiomi H, Morimoto T et al. | 循環器内科 | Effect of Renal Dysfunction on the Risks for Ischemic and Bleeding Events in Patients With Atrial Fibrillation Receiving Percutaneous Coronary Intervention | Am J Cardiol. 2020 Feb; 125(3):399-408 | Original Article |
| 48 | Matsumura- Nakano Y, Kawaji T, Shiomi H et al. | 循環器内科 | Optimal Cutoff Value of Fractional Flow Reserve Derived From Coronary Computed Tomography Angiography for Predicting Hemodynamically Significant Coronary Artery Disease | Circ Cardiovasc Imaging. 2019 Aug;12(8):e008905 | Original Article |
| 49 | Yamashita Y, Yoshikawa Y, Morimoto T et al. | 循環器内科 | The association of recurrence and bleeding events with mortality after venous thromboembolism: From the COMMAND VTE Registry | Int J Cardiol. 2019 Oct; 292:198-204 | Original Article |
| 50 | Yamashita Y, Murata K, Morimoto T et al. | 循環器内科 | Clinical outcomes of patients with pulmonary embolism versus deep vein thrombosis: From the COMMAND VTE Registry | Thromb Res. 2019 Dec; 184:50-57 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|--|---------------------------|---|---|---------------------|
| 51 | Yoshikawa Y, Yamashita Y, Morimoto T et al. | 循環器内科 | Effect of Statins on Recurrent Venous Thromboembolism (from the COMMAND VTE Registry) | Am J Cardiol. 2020 Jan; 125(2):189-197 | Original Article |
| 52 | Koyama S, Horie T, Nishino T et al. | 循環器内科 | Identification of Differential Roles of MicroRNA-33a and -33b During Atherosclerosis Progression With Genetically Modified Mice | J Am Heart Assoc. 2019 Jul;8(13):e012609 | Original Article |
| 53 | Ihdayhid AR, Norgaard BL, Gaur S et al. | 循環器内科 | Prognostic Value and Risk Continuum of Noninvasive Fractional Flow Reserve Derived from Coronary CT Angiography | Radiology. 2019 Aug; 292(2):343-351 | Original Article |
| 54 | Yoshikawa Y, Shiomi H, Kuwahara K et al. | 循環器内科 | Utility of copeptin for predicting long-term clinical outcomes in patients with heart failure | J Cardiol. 2019 May; 73(5):379-385 | Original Article |
| 55 | Kawaji T, Shizuta S, Yamagami S et al. | 循環器内科 | Early choice for catheter ablation reduced readmission in management of atrial fibrillation: Impact of diagnosis-to-ablation time | Int J Cardiol. 2019 Sep; 291:69-76 | Original Article |
| 56 | Kim SK, Takeda H, Takai A et al. | 消化器内科 | Comprehensive analysis of genetic aberrations linked to tumorigenesis in regenerative nodules of liver cirrhosis | J Gastroenterol. 2019 Jul;54(7):628-640 | Original Article |
| 57 | Nakamura T, Shiokawa M, Nakai Y. | 消化器内科 | Successful Hemostasis of Bleeding From Biliary Varices | Clin Gastroenterol Hepatol. 2019 Oct; 17(11):e130 | Original Article |
| 58 | Kakiuchi N, Yoshida K, Uchino M et al. | 消化器内科 | Frequent mutations that converge on the NFKBIZ pathway in ulcerative colitis | Nature. 2020 Jan; 577(7789):260-265 | Original Article |
| 59 | Utsumi T, Yamada A, Sakurai T et al. | 消化器内科 | Rectal Submucosal Tumor Mimicking a Neuroendocrine Tumor | Intern Med. 2019 May; 58(10):1521-1522 | Original Article |
| 60 | Matsumoto Y, Nakanishi Y, Yoshioka T et al. | 消化器内科 | Epithelial EP4 plays an essential role in maintaining homeostasis in colon | Sci Rep. 2019 Oct; 9(1):15244 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|---|---------------------------|---|---|---------------------|
| 61 | Yoshikawa T, Kadokawa Y, Ohana M et al. | 消化器内科 | A Rare Case of Lymph Node Metastasis from Early Gastric Cancer | Clin Endosc. 2019 Jul; 52(4):369-372 | Original Article |
| 62 | Goto N, Fukuda A, Yamaga Y et al. | 消化器内科 | Lineage tracing and targeting of IL17RB(+) tuft cell-like human colorectal cancer stem cells | Proc Natl Acad Sci U S A. 2019 Jun; 116(26):12996-13005 | Original Article |
| 63 | Sono M, Fukuda A, Seno H et al. | 消化器内科 | Paraplegia as an initial manifestation of pancreatic cancer | JGH Open. 2019 May; 3(4):353-354 | Original Article |
| 64 | Yoshioka T, Fukuda A, Araki O et al. | 消化器内科 | Bmi1 marks gastric stem cells located in the isthmus in mice | J Pathol. 2019 Jun; 248(2):179-190 | Original Article |
| 65 | Ikuta K, Fukuda A, Ogawa S et al. | 消化器内科 | Nardilysin inhibits pancreatitis and suppresses pancreatic ductal adenocarcinoma initiation in mice | Gut. 2019 May; 68(5):882-892 | Original Article |
| 66 | Sono M, Fukuda A, Seno H et al. | 消化器内科 | Gastric Cancer from a Hyperplastic Polyp on an Endoscopic Submucosal Dissection Scar | Intern Med. 2019 Apr; 58(8):1179-1180 | Original Article |
| 67 | Chen R, Sugiyama A, Kataoka N et al. | 消化器内科 | Promoter-Level Transcriptome Identifies Stemness Associated With Relatively High Proliferation in Pancreatic Cancer Cells | Front Oncol. 2020 Mar; 10:316 | Original Article |
| 68 | Nishikawa Y, Kodama Y, Shiokawa M et al. | 消化器内科 | Hes1 plays an essential role in Kras-driven pancreatic tumorigenesis | Oncogene. 2019 May; 38(22):4283-4296 | Original Article |
| 69 | Nakano S, Eso Y, Okada H et al. | 消化器内科 | Recent Advances in Immunotherapy for Hepatocellular Carcinoma | Cancers (Basel). 2020 Mar;12(4):775 | Original Article |
| 70 | Eso Y, Shimizu T, Takeda H et al. | 消化器内科 | Microsatellite instability and immune checkpoint inhibitors: toward precision medicine against gastrointestinal and hepatobiliary cancers | J Gastroenterol. 2020 Jan;55(1):15-26 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|---|---------------------------|--|--|------------------|
| 71 | Eso Y, Kou T, Nagai H et al. | 消化器内科 | Utility of ultrasound-guided liver tumor biopsy for next-generation sequencing-based clinical sequencing | Hepato Res. 2019 May; 49(5):579-589 | Original Article |
| 72 | Eso Y, Nakano S, Mishima M et al. | 消化器内科 | Dose Intensity/Body Surface Area Ratio is a Novel Marker Useful for Predicting Response to Lenvatinib against Hepatocellular Carcinoma | Cancers (Basel). 2019 Dec; 12(1):49 | Original Article |
| 73 | Tanabe N, Sato S, Oguma T et al. | 呼吸器内科 | Associations of airway tree to lung volume ratio on computed tomography with lung function and symptoms in chronic obstructive pulmonary disease | Respir Res. 2019 Apr; 20(1):77 | Original Article |
| 74 | Tanabe N, Sato S, Muro S et al. | 呼吸器内科 | Regional lung deflation with increased airway volume underlies the functional response to bronchodilators in chronic obstructive pulmonary disease | Physiol Rep. 2019 Dec; 7(24):e14330 | Original Article |
| 75 | Funazo TY, Nomizo T, Ozasa H et al. | 呼吸器内科 | Clinical impact of low serum free T4 in patients with non-small cell lung cancer treated with nivolumab | Sci Rep. 2019 Nov; 9(1):17085 | Original Article |
| 76 | Tsuji T, Ozasa H, Aoki W et al. | 呼吸器内科 | YAP1 mediates survival of ALK-rearranged lung cancer cells treated with alectinib via pro-apoptotic protein regulation | Nat Commun. 2020 Jan; 11(1):74 | Original Article |
| 77 | Yamazoe M, Ozasa H, Kim YH. | 呼吸器内科 | Effectiveness of Nivolumab on Sarcomatoid Malignant Pleural Mesothelioma With Eosinophilia and Eosinophilic Pleural Effusion | J Thorac Oncol. 2019 Nov; 14(11):e251-e253 | Original Article |
| 78 | Yasuda Y, Ozasa H, Kim YH et al. | 呼吸器内科 | MCL1 inhibition is effective against a subset of small-cell lung cancer with high MCL1 and low BCL-X(L) expression | Cell Death Dis. 2020 Mar; 11(3):177 | Original Article |
| 79 | Sunadome H, Matsumoto H, Izuhara Y et al. | 呼吸器内科 | Correlation between eosinophil count, its genetic background and body mass index: The Nagahama Study | Allergol Int. 2020 Jan; 69(1):46-52 | Original Article |
| 80 | Sato R, Handa T, Matsumoto H et al. | 呼吸器内科 | Clinical significance of self-reported cough intensity and frequency in patients with interstitial lung disease: a cross-sectional study | BMC Pulm Med. 2019 Dec; 19(1):247 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|--|---------------------------|--|--|---------------------|
| 81 | Nagasaki T, Sato K, Kume N et al. | 呼吸器内科 | The prevalence and disease burden of severe eosinophilic asthma in Japan | J Asthma. 2019 Nov; 56(11):1147-1158 | Original Article |
| 82 | Cui S, Ito I, Nakaji H et al. | 呼吸器内科 | Induction of airway remodeling and persistent cough by repeated citric acid exposure in a guinea pig cough model | Respir Physiol Neurobiol. 2019 May;263:1-8 | Original Article |
| 83 | Konishi S, Yano T, Tanaka H et al. | 呼吸器内科 | Vinculin is critical for the robustness of the epithelial cell sheet paracellular barrier for ions | Life Sci Alliance. 2019 Aug;2(4):e201900414 | Original Article |
| 84 | Matsumoto H. | 呼吸器内科 | Our obligation to find treatable and untreatable traits in patients with chronic airway diseases | Respir Investig. 2019 Jul; 57(4):293-294 | Original Article |
| 85 | Matsumoto T, Tabara Y, Murase K et al. | 呼吸器内科 | Association between sleep disturbance and nocturnal blood pressure profiles by a linear mixed model analysis: the Nagahama study | Sleep Med. 2019 Sep; 61:104-109 | Original Article |
| 86 | Tanabe N, Shima H, Sato S et al. | 呼吸器内科 | Direct evaluation of peripheral airways using ultra-high-resolution CT in chronic obstructive pulmonary disease | Eur J Radiol. 2019 Nov; 120:108687 | Original Article |
| 87 | Tsuji H, Nakashima R, Hosono Y et al. | 免疫・膠原病内 科 | Multicenter Prospective Study of the Efficacy and Safety of Combined Immunosuppressive Therapy With High-Dose Glucocorticoid, Tacrolimus, and Cyclophosphamide in Interstitial Lung Diseases Accompanied by Anti-Melanoma Differentiation-Associated Gene 5-Positive Dermatomyositis | Arthritis Rheumatol. 2020 Mar;72(3):488-498 | Original Article |
| 88 | Matsuo T, Hashimoto M, Sakaguchi S et al. | 免疫・膠原病内 科 | Strain-Specific Manifestation of Lupus-like Systemic Autoimmunity Caused by Zap70 Mutation | J Immunol. 2019 Jun; 202(11):3161-3172 | Original Article |
| 89 | Nakabo S, Ohmura K, Akizuki S et al. | 免疫・膠原病内 科 | Activated neutrophil carbamylates albumin via the release of myeloperoxidase and reactive oxygen species regardless of NETosis | Mod Rheumatol. 2020 Mar;30(2):345-349 | Original Article |
| 90 | Murakami K, Sekiguchi M, Hirata S et al. | 免疫・膠原病内 科 | Predictive factors for structural remission using abatacept: Results from the ABROAD study | Mod Rheumatol. 2019 May;29(3):406-412 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|--|---------------------------|--|---|---------------------|
| 91 | Murakami I, Murakami K, Hashimoto M et al. | 免疫・膠原病内 科 | Intake frequency of vegetables or seafoods negatively correlates with disease activity of rheumatoid arthritis | PLoS One. 2020 Feb; 15(2):e0228852 | Original Article |
| 92 | Wang TH, Jingami N, Okada T et al. | 初期診療・救急 科 | Anterior Choroidal Artery Infarction Evaluated with (123)I-Imp Single-Photon Emission Computed Tomography and 7 Tesla Magnetic Resonance Imaging | J Stroke Cerebrovasc Dis. 2019 May; 28(5):e51-e52 | Original Article |
| 93 | Yasuda K, Ayaki T, Kawabata Y et al. | 脳神経内科 | [An autopsy case after endovascular thrombectomy for cardioembolic stroke due to nonbacterial thrombotic endocarditis] | Rinsho Shinkeigaku. 2019 Apr;59(4):195-199 | Original Article |
| 94 | Okunomiya T, Hioki H, Nishimura C et al. | 脳神経内科 | Generation of a MOR-CreER knock-in mouse line to study cells and neural circuits involved in mu opioid receptor signaling | Genesis. 2020 Jan; 58(1):e23341 | Original Article |
| 95 | Neshige S, Kobayashi K, Matsuhashi M et al. | 脳神経内科 | A score to map the lateral nonprimary motor area: Multispectrum intrinsic brain activity versus cortical stimulation | Epilepsia. 2019 Nov; 60(11):2294-2305 | Original Article |
| 96 | Henmi N, Neshige S, Shimotake A et al. | 脳神経内科 | [Clinical presentations of Ross syndrome have changed in their lateralities following the anterotemporal lobectomy for refractory focal epilepsy] | Rinsho Shinkeigaku. 2019 Oct;59(10):646-651 | Original Article |
| 97 | Oi K, Neshige S, Hitomi T et al. | 脳神経内科 | Low-dose perampanel improves refractory cortical myoclonus by the dispersed and suppressed paroxysmal depolarization shifts in the sensorimotor cortex | Clin Neurophysiol. 2019 Oct;130(10):1804-1812 | Original Article |
| 98 | Neshige S, Matsumoto R, Inouchi M et al. | 脳神経内科 | Absence of an Autonomic Sign Assists in the Diagnosis of Extratemporal Lobe Epilepsy Manifesting Generalized Convulsion with Retained Awareness | Intern Med. 2019 Apr; 58(8):1151-1155 | Original Article |
| 99 | Egawa N, Chung KK, Takahashi R et al. | 脳神経内科 | Brief review: Can modulating DNA methylation state help the clinical application of oligodendrocyte precursor cells as a source of stem cell therapy? | Brain Res. 2019 Nov; 1723:146386 | Original Article |
| 100 | Kaji S, Maki T, Ishimoto T et al. | 脳神経内科 | Insights into the pathogenesis of multiple system atrophy: focus on glial cytoplasmic inclusions | Transl Neurodegener. 2020 Feb;9:7 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|--|---------------------------|--|--|------------------|
| 101 | Minamiyama S, Ueda S, Nakashima R et al. | 脳神経内科 | Thigh muscle MRI findings in myopathy associated with anti-mitochondrial antibody | Muscle Nerve. 2020 Jan; 61(1):81-87 | Original Article |
| 102 | Taguchi T, Ikuno M, Yamakado H et al. | 脳神経内科 | Animal Model for Prodromal Parkinson's Disease | Int J Mol Sci. 2020 Mar; 21(6):1961 | Original Article |
| 103 | Uemura N, Yagi H, Uemura MT et al. | 脳神経内科 | Limited spread of pathology within the brainstem of α -synuclein BAC transgenic mice inoculated with preformed fibrils into the gastrointestinal tract | Neurosci Lett. 2020 Jan; 716:134651 | Original Article |
| 104 | Taguchi T, Ikuno M, Hondo M et al. | 脳神経内科 | α -Synuclein BAC transgenic mice exhibit RBD-like behaviour and hyposmia: a prodromal Parkinson's disease model | Brain. 2020 Jan; 143(1):249-265 | Original Article |
| 105 | Uemura N, Yagi H, Uemura MT et al. | 脳神経内科 | Correction to: Inoculation of α -synuclein preformed fibrils into the mouse gastrointestinal tract induces Lewy body-like aggregates in the brainstem via the vagus nerve | Mol Neurodegener. 2019 Jul; 14(1):31 | Original Article |
| 106 | Ishimoto T, Yamakado H. | 脳神経内科 | TPPP/p25 α Is an old and new therapeutic target in multiple system atrophy | Mov Disord. 2019 Dec; 34(12):1817 | Original Article |
| 107 | Murai T, Hitomi T, Matsuhashi M et al. | 脳神経内科 | Scalp EEG Could Record Both Ictal Direct Current Shift and High-Frequency Oscillation Together Even With a Time Constant of 2 Seconds | J Clin Neurophysiol. 2020 Mar; 37(2):191-194 | Original Article |
| 108 | Sawamura M, Kaji S, Takahashi R. | 脳神経内科 | Unilateral Hypoglossal Nerve Palsy: A Hidden Tumor | Intern Med. 2020 Feb; 59(4):587-588 | Original Article |
| 109 | Ikuno M, Yamakado H, Akiyama H et al. | 脳神経内科 | GBA haploinsufficiency accelerates alpha-synuclein pathology with altered lipid metabolism in a prodromal model of Parkinson's disease | Hum Mol Genet. 2019 Jun; 28(11):1894-1904 | Original Article |
| 110 | Nakaoku Y, Saito S, Yamamoto Y et al. | 脳神経内科 | The Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitor Linagliptin Ameliorates High-fat Induced Cognitive Decline in Tauopathy Model Mice | Int J Mol Sci. 2019 May; 20(10):2539 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|---|---------------------------|---|---|---------------------|
| 111 | Yasuda K, Maki T, Takata M et al. | 脳神経内科 | Bilateral oculomotor nerve palsy in a case of anti-aquaporin-4 antibody-positive neuromyelitis optica spectrum disorder | J Clin Neurosci. 2019 Aug;66:271-272 | Original Article |
| 112 | Kinoshita H, Ayaki T, Maki T et al. | 脳神経内科 | Non-aneurysmal Subarachnoid Hemorrhaging: A Rare Cause of Death in a Patient with Multiple System Atrophy | Intern Med. 2019 Jun; 58(11):1643-1644 | Original Article |
| 113 | Tsukamoto T, Miyata M, Hirata N et al. | 腎臓内科 | Modification of the Dialysate Port of Plasma Separators for Safe Blood Purification in Japan | Ther Apher Dial. 2019 Oct;23(5):396-403 | Original Article |
| 114 | Sato N, Kakuta M, Hasegawa T et al. | 腎臓内科 | Metagenomic analysis of bacterial species in tongue microbiome of current and never smokers | NPJ Biofilms Microbiomes. 2020 Mar; 6(1):11 | Original Article |
| 115 | Sato Y, Takahashi M, Yanagita M. | 腎臓内科 | Pathophysiology of AKI to CKD progression | Semin Nephrol. 2020 Mar;40(2):206-215 | Original Article |
| 116 | Sato Y, Yanagita M. | 腎臓内科 | Immunology of the ageing kidney | Nat Rev Nephrol. 2019 Oct;15(10):625-640 | Original Article |
| 117 | Hirano K, Kobayashi D, Kohtani N et al. | 腎臓内科 | Optimal follow-up intervals for different stages of chronic kidney disease: a prospective observational study | Clin Exp Nephrol. 2019 May;23(5):613-620 | Original Article |
| 118 | Muro K, Kobayashi T, Yanagita M. | 腎臓内科 | The cortical rim sign in graft renal infarction | Clin Exp Nephrol. 2019 Sep;23(9):1169-1170 | Original Article |
| 119 | Magaribuchi T, Kobayashi T, Kamo N et al. | 腎臓内科 | [Kidney Auto-Transplantation for Intraoperative Right Renal Artery Injury in a Single Kidney Patient : A Case Report] | Hinyokika Kiyo. 2019 Nov;65(11):455-458 | Case report |
| 120 | Nishikawa Y, Horimatsu T, Nishizaki D et al. | 腫瘍内科 | Qualitative and Quantitative Analysis of Posttreatment Strategy After Endoscopic Resection for Patients with T1 Colorectal Cancer at High Risk of Lymph Node Metastasis | J Gastrointest Cancer. 2020 Mar;51(1):242-249 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|---|---------------------------|--|--|---------------------|
| 121 | Funakoshi T, Miyamoto S, Kakiuchi N et al. | 腫瘍内科 | Genetic analysis of a case of Helicobacter pylori-uninfected intramucosal gastric cancer in a family with hereditary diffuse gastric cancer | Gastric Cancer. 2019 Jul;22(4):892-898 | Original Article |
| 122 | Mizumoto A, Ohashi S, Kamada M et al. | 腫瘍内科 | Combination treatment with highly bioavailable curcumin and NQO1 inhibitor exhibits potent antitumor effects on esophageal squamous cell carcinoma | J Gastroenterol. 2019 Aug;54(8):687-698 | Original Article |
| 123 | Baba K, Nomura M, Ohashi S et al. | 腫瘍内科 | Experimental model for the irradiation-mediated abscopal effect and factors influencing this effect | Am J Cancer Res. 2020 Feb;10(2):440-453 | Original Article |
| 124 | Quy PN, Kanai M, Fukuyama K et al. | 腫瘍内科 | Association Between Preanalytical Factors and Tumor Mutational Burden Estimated by Next-Generation Sequencing-Based Multiplex Gene Panel Assay | Oncologist. 2019 Dec; 24(12):e1401-e1408 | Original Article |
| 125 | Kondo T, Matsumoto S, Doi K et al. | 腫瘍内科 | Femoral placement of a totally implantable venous access port with spontaneous catheter fracture: case report | CVIR Endovasc. 2020 Jan;3(1):2 | Case report |
| 126 | Yamamoto Y, Kanai M, Kou T et al. | 腫瘍内科 | Clinical significance of TP53 variants as possible secondary findings in tumor-only next-generation sequencing | J Hum Genet. 2020 Jan; 65(2):125-132 | Original Article |
| 127 | Uneno Y, Sato K, Morita T et al. | 腫瘍内科 | Current status of integrating oncology and palliative care in Japan: a nationwide survey | BMC Palliat Care. 2020 Jan;19(1):12 | Original Article |
| 128 | Itatani Y, Okada T, Kawada K et al. | 消化管外科 | Robot-assisted low anterior resection after aluminum potassium sulfate and tannic acid sclerosing therapy for internal hemorrhoids | Surg Case Rep. 2019 Oct;5(1):160 | Original Article |
| 129 | Okada T, Hasegawa S, Nakamura T et al. | 消化管外科 | Precise Three-Dimensional Morphology of the Male Anterior Anorectum Reconstructed From Large Serial Histologic Sections: A Cadaveric Study | Dis Colon Rectum. 2019 Oct;62(10):1238-1247 | Original Article |
| 130 | Itatani Y, Kawada K, Hida K et al. | 消化管外科 | Simultaneous robotic surgery with low anterior resection and prostatectomy/hysterectomy | Int Cancer Conf J. 2019 Jun;8(4):141-145 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|--|---------------------------|---|---|---------------------|
| 131 | Nishiuchi A, Hisamori S, Sakaguchi M et al. | 消化管外科 | MicroRNA-9-5p-CDX2 Axis: A Useful Prognostic Biomarker for Patients with Stage II/III Colorectal Cancer | Cancers (Basel). 2019 Nov;11(12):1891 | Original Article |
| 132 | Okabe H, Hata H, Hosogi H et al. | 消化管外科 | A Phase 2 Study of Induction Chemotherapy Using Docetaxel, Cisplatin, and S-1 for Gastric Cancer with Peritoneal Metastasis (KUGC06) | Ann Surg Oncol. 2019 Jun;26(6):1779-1786 | Original Article |
| 133 | Honma S, Hisamori S, Nishiuchi A et al. | 消化管外科 | F-Box/WD Repeat Domain-Containing 7 Induces Chemotherapy Resistance in Colorectal Cancer Stem Cells | Cancers (Basel). 2019 May;11(5):635 | Original Article |
| 134 | Nakamura T, Shinohara H, Okada T et al. | 消化管外科 | Revisiting the infracardiac bursa using multimodal methods: topographic anatomy for surgery of the esophagogastric junction | J Anat. 2019 Jul; 235(1):88-95 | Original Article |
| 135 | Ogawa R, Yamamoto T, Hirai H et al. | 消化管外科 | Loss of SMAD4 Promotes Colorectal Cancer Progression by Recruiting Tumor-Associated Neutrophils via the CXCL1/8-CXCR2 Axis | Clin Cancer Res. 2019 May;25(9):2887-2899 | Original Article |
| 136 | Goto S, Hida K, Hoshino N et al. | 消化管外科 | Laparoscopic rectal tumor surgery after administration of a new sclerosing therapy (aluminum potassium sulfate and tannic acid injection) for internal hemorrhoids: A report of three cases | Asian J Endosc Surg. 2019 Oct;12(4):473-477 | Original Article |
| 137 | Hoshino N, Sakamoto T, Hida K et al. | 消化管外科 | Robotic versus laparoscopic surgery for rectal cancer: an overview of systematic reviews with quality assessment of current evidence | Surg Today. 2019 Jul; 49(7):556-570 | Original Article |
| 138 | Yamamoto T, Kawada K, Hida K et al. | 消化管外科 | Optimal treatment strategy for rectal cancer based on the risk factors for recurrence patterns | Int J Clin Oncol. 2019 Jun;24(6):677-685 | Original Article |
| 139 | Inamoto S, Kawada K, Okamura R et al. | 消化管外科 | Prognostic impact of the combination of neutrophil-to-lymphocyte ratio and Glasgow prognostic score in colorectal cancer: a retrospective cohort study | Int J Colorectal Dis. 2019 Jul;34(7):1303-1315 | Original Article |
| 140 | Sakai Y, Hida K. | 消化管外科 | Real-World Situation of Lateral Lymph Node Dissection for Rectal Cancer in Japan | Dis Colon Rectum. 2019 Jun;62(6):e29 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|--|---------------------------|---|---|---------------------|
| 141 | Suzuki E, Sugimoto M, Kawaguchi K et al. | 乳腺外科 | Gene expression profile of peripheral blood mononuclear cells may contribute to the identification and immunological classification of breast cancer patients | Breast Cancer. 2019 May;26(3):282-289 | Original Article |
| 142 | Kawashima M, Tokiwa M, Nishimura T et al. | 乳腺外科 | High-resolution imaging mass spectrometry combined with transcriptomic analysis identified a link between fatty acid composition of phosphatidylinositols and the immune checkpoint pathway at the primary tumour site of breast cancer | Br J Cancer. 2020 Jan; 122(2):245-257 | Original Article |
| 143 | Takada M, Toi M. | 乳腺外科 | Cryosurgery for primary breast cancers, its biological impact, and clinical outcomes | Int J Clin Oncol. 2019 Jun;24(6):608-613 | Original Article |
| 144 | Macshut M, Kaido T, Yao S et al. | 肝胆膵・移植外科 | Older Donor Age Is a Risk Factor for Negative Outcomes After Adult Living Donor Liver Transplantation Using Small-for-Size Grafts | Liver Transpl. 2019 Oct; 25(10):1524-1532 | Original Article |
| 145 | Kobayashi A, Kaido T, Hamaguchi Y et al. | 肝胆膵・移植外科 | Impact of Sarcopenic Obesity on Outcomes in Patients Undergoing Hepatectomy for Hepatocellular Carcinoma | Ann Surg. 2019 May; 269(5):924-931 | Original Article |
| 146 | Yao S, Kaido T, Yagi S et al. | 肝胆膵・移植外科 | Impact of imbalanced graft-to-spleen volume ratio on outcomes following living donor liver transplantation in an era when simultaneous splenectomy is not typically indicated | Am J Transplant. 2019 Oct;19(10):2783-2794 | Original Article |
| 147 | Yao S, Kaido T, Okumura S et al. | 肝胆膵・移植外科 | Bone mineral density correlates with survival after resection of extrahepatic biliary malignancies | Clin Nutr. 2019 Dec; 38(6):2770-2777 | Original Article |
| 148 | Uchida Y, Masui T, Nakano K et al. | 肝胆膵・移植外科 | Combination of postoperative C-reactive protein value and computed tomography imaging can predict severe pancreatic fistula after pancreatoduodenectomy | HPB (Oxford). 2020 Feb; 22(2):282-288 | Original Article |
| 149 | Yamamoto G, Taura K, Ikai I et al. | 肝胆膵・移植外科 | ALPlat criterion for the resection of hepatocellular carcinoma based on a predictive model of posthepatectomy liver failure | Surgery. 2020 Feb; 167(2):410-416 | Original Article |
| 150 | Ataka R, Ito T, Masui T et al. | 肝胆膵・移植外科 | Cholangiocarcinoma after flow diversion surgery for congenital biliary dilatation: A case report and review of literature | World J Hepatol. 2019 Nov;11(11):743-751 | Case report |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|--|---------------------------|---|--|---------------------|
| 151 | Kusakabe J, Yagi S, Okamura Y et al. | 肝胆膵・移植外科 | Anatomical Pitfall in Right Posterior Sector Graft Procurement in Living Donor Liver Transplantation | Liver Transpl. 2020 Feb; 26(2):299-303 | Original Article |
| 152 | Yoshikawa J, Hata K, Nakamura K et al. | 肝胆膵・移植外科 | The Impact of Biliary Reconstruction Methods on Small Partial Liver Grafts | Transplant Direct. 2020 Jan;6(2):e523 | Original Article |
| 153 | Iwaki K, Yagi S, Morita S et al. | 肝胆膵・移植外科 | Impact of Graft Quality and Fluid Overload on Postoperative Massive Ascites After Living Donor Liver Transplantation | Transplant Proc. 2019 Jul-Aug;51(6):1779-1784 | Original Article |
| 154 | Yoh T, Seo S, Morino K et al. | 肝胆膵・移植外科 | Reappraisal of Prognostic Impact of Tumor SUVmax by (18)F-FDG-PET/CT in Intrahepatic Cholangiocarcinoma | World J Surg. 2019 May; 43(5):1323-1331 | Original Article |
| 155 | Ogiso S, Seo S, Okumura S et al. | 肝胆膵・移植外科 | Laparoscopic Left Lateral Sectionectomy Using the Extrahepatic Glissonean Approach: A Secure Option for Achieving a Negative Margin for Lesions with Ductal Extension | Ann Surg Oncol. 2019 Jun;26(6):1858 | Original Article |
| 156 | Horiguchi M, Yoshida M, Hirata K et al. | 肝胆膵・移植外科 | Senescence caused by inactivation of the homeodomain transcription factor Pdx1 in adult pancreatic acinar cells in mice | FEBS Lett. 2019 Aug; 593(16):2226-2234 | Original Article |
| 157 | Masui T, Sato A, Nakano K et al. | 肝胆膵・移植外科 | Predictive value of the Ki67 index for lymph node metastasis of small non-functioning pancreatic neuroendocrine neoplasms | Surg Today. 2019 Jul; 49(7):593-600 | Original Article |
| 158 | Fuji H, Seo S, Toda R et al. | 肝胆膵・移植外科 | Optimal introduction of laparoscopic liver resection for Child-Pugh B | Asian J Endosc Surg. 2019 Jul;12(3):287-293 | Original Article |
| 159 | Ataka R, Yagi S, Taura K et al. | 肝胆膵・移植外科 | Right hepatectomy with en-bloc resection of bilateral hepatic arteries for Bismuth type IIIa hilar cholangiocarcinoma: A case report | Asian J Surg. 2019 Dec; 42(12):1021-1023 | Case report |
| 160 | Tajima T, Hata K, Okajima H et al. | 肝胆膵・移植外科 | Bortezomib Against Refractory Antibody-Mediated Rejection After ABO-Incompatible Living-Donor Liver Transplantation: Dramatic Effect in Acute-Phase? | Transplant Direct. 2019 Sep;5(10):e491 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|--|---------------------------|---|--|---------------------|
| 161 | Gunadi, Kaneshiro M, Okamoto T et al. | 小児外科 | Outcomes of liver transplantation for Alagille syndrome after Kasai portoenterostomy: Alagille Syndrome with agenesis of extrahepatic bile ducts at porta hepatis | J Pediatr Surg. 2019 Nov;54(11):2387-2391 | Original Article |
| 162 | Yamashita T, Hamaji M, Nakanobo R et al. | 呼吸器外科 | Ex Vivo Sleeve Lobectomy and Autotransplantation After Chemoradiation | Ann Thorac Surg. 2019 May;107(5):e341-e343 | Original Article |
| 163 | Kayawake H, Chen- Yoshikawa TF, Hamaji M et al. | 呼吸器外科 | Acquired recipient pulmonary function is better than lost donor pulmonary function in living-donor lobar lung transplantation | J Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Dec; 158(6):1710-1716 | Original Article |
| 164 | Nakajima D, Oda H, Chen- Yoshikawa TF et al. | 呼吸器外科 | Emergent surgical treatment for acute thrombosis caused by pulmonary artery kinking after left upper sleeve lobectomy | Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2019 Sep; 29(3):481-483 | Original Article |
| 165 | Kayawake H, Chen- Yoshikawa TF, Tanaka S et al. | 呼吸器外科 | Variations and surgical management of pulmonary vein in living-donor lobectomy | Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2020 Jan; 30(1):24-29 | Original Article |
| 166 | Kayawake H, Aoyama A, Kinoshita H et al. | 呼吸器外科 | Diameter of the dilated main pulmonary artery in patients with pulmonary hypertension decreases after lung transplantation | Surg Today. 2020 Mar; 50(3):275-283 | Original Article |
| 167 | Saito M, Chen- Yoshikawa TF, Suetsugu K et al. | 呼吸器外科 | Pirfenidone alleviates lung ischemia-reperfusion injury in a rat model | J Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Jul; 158(1):289-296 | Original Article |
| 168 | Hamaji M, Chen- Yoshikawa TF, Date H. | 呼吸器外科 | Completion pneumonectomy and auto-transplantation for bronchopleural fistula | J Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Sep; 158(3):e121-e123 | Original Article |
| 169 | Oda H, Hamaji M, Motoyama H et al. | 呼吸器外科 | Use of a Three-Dimensional Model in Lung Transplantation for a Patient With Giant Pulmonary Aneurysm | Ann Thorac Surg. 2020 Mar;109(3):e183-e185 | Original Article |
| 170 | Yamanashi K, Chen- Yoshikawa TF, Hamaji M et al. | 呼吸器外科 | Outcomes of combination therapy including rituximab for antibody-mediated rejection after lung transplantation | Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2020 Feb; 68(2):142-149 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|--|---------------------------|--|---|------------------|
| 171 | Sonobe M, Yutaka Y, Nakajima D et al. | 呼吸器外科 | Salvage Surgery After Chemotherapy or Chemoradiotherapy for Initially Unresectable Lung Carcinoma | Ann Thorac Surg. 2019 Dec;108(6):1664-1670 | Original Article |
| 172 | Hamaji M, Matsuo Y, Chen- Yoshikawa TF et al. | 呼吸器外科 | Surgery and stereotactic body radiotherapy for early stage non-small cell lung cancer: review of meta-analyses | J Thorac Dis. 2019 Aug; 11(Suppl 13):S1646-S1652 | Original Article |
| 173 | Hijiya K, Chen- Yoshikawa TF, Motoyama H et al. | 呼吸器外科 | Long agonal period deteriorates cardiac death donor lung function in a rat EVLP model | Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2019 May; 67(5):457-463 | Original Article |
| 174 | Hamaji M, Yamaguchi K, Koyasu S et al. | 呼吸器外科 | Thoracoscopic Resection of Fluorodeoxyglucose-Avid Mediastinal Lymph Nodes Associated with Advanced Ovarian Carcinoma | Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Dec;67(8):692-696 | Original Article |
| 175 | Miyakoshi A, Funaki T, Takahashi JC et al. | 脳神経外科 | Restoration of periventricular vasculature after direct bypass for moyamoya disease: intra-individual comparison | Acta Neurochir (Wien). 2019 May; 161(5):947-954 | Original Article |
| 176 | Kishida N, Maki T, Takagi Y et al. | 脳神経外科 | Role of Perivascular Oligodendrocyte Precursor Cells in Angiogenesis After Brain Ischemia | J Am Heart Assoc. 2019 May; 8(9):e011824 | Original Article |
| 177 | Funaki T, Kataoka H, Yoshida K et al. | 脳神経外科 | The Targeted Bypass Strategy for Preventing Hemorrhage in Moyamoya Disease: Technical Note | Neurol Med Chir (Tokyo). 2019 Dec; 59(12):517-522 | Original Article |
| 178 | Sasagasako T, Funaki T, Tanji M et al. | 脳神経外科 | Intractable Medial Anastomotic Branches from the Lenticulostriate Artery Causing Recurrent Hemorrhages in Moyamoya Disease | World Neurosurg. 2019 Jul; 127:279-283 | Original Article |
| 179 | Nishida S, Aso T, Takaya S et al. | 脳神経外科 | Resting-state Functional Magnetic Resonance Imaging Identifies Cerebrovascular Reactivity Impairment in Patients With Arterial Occlusive Diseases: A Pilot Study | Neurosurgery. 2019 Nov; 85(5):680-688 | Original Article |
| 180 | Yamao Y, Takahashi JC, Funaki T et al. | 脳神経外科 | Revascularization Surgery in Childhood Associated with a Low Incidence of Microbleeds in Adult Patients with Moyamoya | World Neurosurg. 2020 Jan; 133:e716-e721 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|--|---------------------------|---|---|------------------|
| 181 | Munemitsu T, Ishii A, Okada E et al. | 脳神経外科 | Ex Vivo Assessment of Various Histological Differentiation in Human Carotid Plaque with Near-infrared Spectroscopy Using Multiple Wavelengths | Neurol Med Chir (Tokyo). 2019 May;59(5):163-171 | Original Article |
| 182 | Ikedo T, Kataoka H, Minami M et al. | 脳神経外科 | Sequential Inward Bending of Arterial Bifurcations is Associated with Intracranial Aneurysm Formation | World Neurosurg. 2019 Sep;129:e361-e366 | Original Article |
| 183 | Oshima S, Fushimi Y, Okada T et al. | 脳神経外科 | Brain MRI with Quantitative Susceptibility Mapping: Relationship to CT Attenuation Values | Radiology. 2020 Mar;294(3):600-609 | Original Article |
| 184 | Hermanto Y, Maki T, Takagi Y et al. | 脳神経外科 | Xeno-free culture for generation of forebrain oligodendrocyte precursor cells from human pluripotent stem cells | J Neurosci Res. 2019 Jul;97(7):828-845 | Original Article |
| 185 | Ikeda HO, Muraoka Y, Hata M et al. | 眼科 | Safety and effectiveness of a novel neuroprotectant, KUS121, in patients with non-arteritic central retinal artery occlusion: An open-label, non-randomized, first-in-humans, phase 1/2 trial | PLoS One. 2020 Feb;15(2):e0229068 | Original Article |
| 186 | Hosoda Y, Yamashiro K, Miyake M et al. | 眼科 | Predictive Genes for the Prognosis of Central Serous Chorioretinopathy | Ophthalmol Retina. 2019 Nov;3(11):985-992 | Original Article |
| 187 | Oishi A, Miyata M, Numa S et al. | 眼科 | Wide-field fundus autofluorescence imaging in patients with hereditary retinal degeneration: a literature review | Int J Retina Vitreous. 2019 Dec;5(Suppl 1):23 | Original Article |
| 188 | Hata M, Tagawa M, Oishi A et al. | 眼科 | Efficacy of Photodynamic Therapy for Polypoidal Choroidal Vasculopathy Associated with and without Pachychoroid Phenotypes | Ophthalmol Retina. 2019 Dec;3(12):1016-1025 | Original Article |
| 189 | Yamamoto A, Miyata M, Suda K. | 眼科 | Conjunctival and Episcleral Blood Flow Restoration After Strabismus Surgery on Swept-Source Optical Coherence Tomography Angiography | JAMA Ophthalmol. 2019 Dec;137(12):e190043 | Original Article |
| 190 | Iida-Miwa Y, Muraoka Y, Iida Y et al. | 眼科 | Branch Retinal Vein Occlusion: Treatment Outcomes According to the Retinal Nonperfusion Area, Clinical Subtype, and Crossing Pattern | Sci Rep. 2019 Apr;9(1):6569 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|---|---------------------------|---|--|------------------|
| 191 | Akagi T, Fujimoto M, Ikeda HO. | 眼科 | Anterior Segment Optical Coherence Tomography Angiography of Iris Neovascularization After Intravitreal Ranibizumab and Panretinal Photocoagulation | JAMA Ophthalmol. 2020 Feb;138(2):e190318 | Original Article |
| 192 | Hasegawa T, Ikeda HO, Gotoh N et al. | 眼科 | Effect of VCP modulators on gene expression profiles of retinal ganglion cells in an acute injury mouse model | Sci Rep. 2020 Mar; 10(1):4251 | Original Article |
| 193 | Otsuka Y, Oishi A, Suda K et al. | 眼科 | Multiple subretinal fluid blebs after pars plana vitrectomy for rhegmatogenous retinal detachment repair | Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2019 May; 257(5):921-929 | Original Article |
| 194 | Yoshitake T, Murakami T, Suzuma K et al. | 眼科 | Predictor of Early Remission of Diabetic Macular Edema under As-Needed Intravitreal Ranibizumab | Sci Rep. 2019 May; 9(1):7599 | Original Article |
| 195 | Akagi T, Uji A, Okamoto Y et al. | 眼科 | Anterior Segment Optical Coherence Tomography Angiography Imaging of Conjunctiva and Intrasclera in Treated Primary Open-Angle Glaucoma | Am J Ophthalmol. 2019 Dec;208:313-322 | Original Article |
| 196 | Kadomoto S, Uji A, Muraoka Y et al. | 眼科 | A novel strategy for quantification of panoramic en face optical coherence tomography angiography scan field | Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2019 Jun; 257(6):1199-1206 | Original Article |
| 197 | Kanazawa Y, Kikuchi M, Imai Y et al. | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | Successful Treatment of a Mixed Neuroendocrine-Nonneuroendocrine Neoplasm of the Colon with Metastases to the Thyroid Gland and Liver | Case Rep Otolaryngol. 2020 Feb;2020:5927610 | Original Article |
| 198 | Tona R, Chen W, Nakano Y et al. | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | The phenotypic landscape of a Tbc1d24 mutant mouse includes convulsive seizures resembling human early infantile epileptic encephalopathy | Hum Mol Genet. 2019 May;28(9):1530-1547 | Original Article |
| 199 | Katsuno T, Belyantseva IA, Cartagena-Rivera AX et al. | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | TRIOBP-5 sculpts stereocilia rootlets and stiffens supporting cells enabling hearing | JCI Insight. 2019 Jun; 4(12):e128561 | Original Article |
| 200 | Mizuno K, Takeuchi M, Kanazawa Y et al. | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | Recurrent laryngeal nerve paralysis after thyroid cancer surgery and intraoperative nerve monitoring | Laryngoscope. 2019 Aug; 129(8):1954-1960 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|---|---------------------------|--|--|---------------------|
| 201 | Kishimoto Y, Kishimoto AO, Yamada Y et al. | 耳鼻咽喉科・頭 頸部外科 | Dedifferentiated liposarcoma of the thyroid gland: A case report | Mol Clin Oncol. 2019 Sep;11(3):219-224 | Case report |
| 202 | Nakamura R, Katsuno T, Kitamura M et al. | 耳鼻咽喉科・頭 頸部外科 | Collagen sponge scaffolds containing growth factors for the functional regeneration of tracheal epithelium | J Tissue Eng Regen Med. 2019 May; 13(5):835-845 | Original Article |
| 203 | Okuyama H, Ohnishi H, Nakamura R et al. | 耳鼻咽喉科・頭 頸部外科 | Transplantation of multiciliated airway cells derived from human iPSC cells using an artificial tracheal patch into rat trachea | J Tissue Eng Regen Med. 2019 Jun; 13(6):1019- 1030 | Original Article |
| 204 | Kiso H, Takahashi K, Mishima S et al. | 歯科口腔外科 | Third Dentition Is the Main Cause of Premolar Supernumerary Tooth Formation | J Dent Res. 2019 Aug; 98(9):968-974 | Original Article |
| 205 | Imamura M, Goto K, Kawata T et al. | 整形外科 | Titania-containing bioactive bone cement for total hip arthroplasty in dogs | J Biomed Mater Res B Appl Biomater. 2019 May; 107(4):1238-1245 | Original Article |
| 206 | Kawai T, Kuroda Y, Goto K et al. | 整形外科 | Does Prophylactic Administration of Edoxaban Increase D-Dimer Levels after Total Hip Arthroplasty? | J Clin Med. 2019 May; 8(5):678 | Original Article |
| 207 | Goto K, Kuroda Y, Kawai T et al. | 整形外科 | The use of a bioactive bone cement containing apatite-wollastonite glass-ceramic filler and bisphenol-a-glycidyl methacrylate resin for acetabular fixation in total hip arthroplasty: long-term follow-up results of a clinical trial | Bone Joint J. 2019 Jul; 101-B(7):787-792 | Original Article |
| 208 | Kuroda Y, Kawai T, Goto K et al. | 整形外科 | Clinical application of injectable growth factor for bone regeneration: a systematic review | Inflamm Regen. 2019 Oct;39:20 | Original Article |
| 209 | Kuroda Y, Tanaka T, Miyagawa T et al. | 整形外科 | Classification of osteonecrosis of the femoral head: Who should have surgery? | Bone Joint Res. 2019 Nov;8(10):451-458 | Original Article |
| 210 | Okutani Y, Goto K, Kuroda Y et al. | 整形外科 | Long-term outcome of cemented total hip arthroplasty with the Charnley-type femoral stem made of titanium alloy | J Orthop Sci. 2019 Nov; 24(6):1047-1052 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|---|---------------------------|---|---|---------------------|
| 211 | Masamoto K, Fujibayashi S, Otsuki B et al. | 整形外科 | Utility of Thoracolumbar Low-Dose CT With Model-Based Iterative Reconstruction for Measuring Pedicle Diameter Using a Radiation Dose Less Than a One-Time Lumbar X-Ray | Spine (Phila Pa 1976). 2020 Jan; 45(1):38-47 | Original Article |
| 212 | Tomizawa T, Ito H, Murata K et al. | 整形外科 | Distinct biomarkers for different bones in osteoporosis with rheumatoid arthritis | Arthritis Res Ther. 2019 Jul; 21(1):174 | Original Article |
| 213 | Mitsuzawa S, Ikeguchi R, Aoyama T et al. | 整形外科 | The Efficacy of a Scaffold-free Bio 3D Conduit Developed from Autologous Dermal Fibroblasts on Peripheral Nerve Regeneration in a Canine Ulnar Nerve Injury Model: A Preclinical Proof-of-Concept Study | Cell Transplant. 2019 Sep-Oct; 28(9-10):1231- 1241 | Original Article |
| 214 | Oda H, Ikeguchi R, Aoyama T et al. | 整形外科 | Relative antigenicity of components in vascularized composite allotransplants: An experimental study of microRNAs expression in rat hind limb transplantation model | Microsurgery. 2019 May; 39(4):340-348 | Original Article |
| 215 | Katsube M, Yamada S, Yamaguchi Y et al. | 形成外科 | Critical Growth Processes for the Midfacial Morphogenesis in the Early Prenatal Period | Cleft Palate Craniofac J. 2019 Sep; 56(8):1026- 1037 | Original Article |
| 216 | Tsuge I, Saito S, Yamamoto G et al. | 形成外科 | Preoperative vascular mapping for anterolateral thigh flap surgeries: A clinical trial of photoacoustic tomography imaging | Microsurgery. 2020 Mar; 40(3):324-330 | Original Article |
| 217 | Tsuge I, Saito S. | 形成外科 | Anterior Middle Chest Wall Reconstruction Using a Free Anterolateral Thigh Flap Resulted in Flail Chest: A Case Report | Plast Reconstr Surg Glob Open. 2019 Aug; 7(8):e2386 | Case report |
| 218 | Ueda M, Saito S, Murata T et al. | 形成外科 | Combined multiphoton imaging and biaxial tissue extension for quantitative analysis of geometric fiber organization in human reticular dermis | Sci Rep. 2019 Jul; 9(1):10644 | Original Article |
| 219 | Sato M, Kondoh E, Iwao T et al. | 産科婦人科 | Nationwide survey of severe postpartum hemorrhage in Japan: an exploratory study using the national database of health insurance claims | J Matern Fetal Neonatal Med. 2019 Nov; 32(21):3537-3542 | Original Article |
| 220 | Ueda M, Sato Y, Horie A et al. | 産科婦人科 | Endovascular trophoblast expresses CD59 to evade complement-dependent cytotoxicity | Mol Cell Endocrinol. 2019 Jun; 490:57-67 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|---|---------------------------|---|---|------------------|
| 221 | Kondoh E, Ueda A. | 産科婦人科 | Reply: The Kyoto balloon system for postpartum hemorrhage: A hard balloon shaft offers an easier and surer way to apply direct pressure on bleeding sites | Acta Obstet Gynecol Scand. 2020 Feb; 99(2):292-293 | Original Article |
| 222 | Helou S, Abou-Khalil V, Yamamoto G et al. | 産科婦人科 | Understanding the Situated Roles of Electronic Medical Record Systems to Enable Redesign: Mixed Methods Study | JMIR Hum Factors. 2019 Jul;6(3):e13812 | Original Article |
| 223 | Kiyokawa H, Mogami H, Ueda Y et al. | 産科婦人科 | Maternal Glucocorticoids Make the Fetal Membrane Thinner: Involvement of Amniotic Macrophages | Endocrinology. 2019 Apr;160(4):925-937 | Original Article |
| 224 | Sasagasaki N, Tani H, Chigusa Y et al. | 産科婦人科 | Placenta Accreta in a Woman with Childhood Uterine Irradiation: A Case Report and Literature Review | Case Rep Obstet Gynecol. 2019 Nov; 2019:2452975 | Case report |
| 225 | Helou S, Abou-Khalil V, Yamamoto G et al. | 産科婦人科 | Prioritizing Features to Redesign in an EMR System | Stud Health Technol Inform. 2019 Aug; 264:1213-1217 | Original Article |
| 226 | Kondoh E, Chigusa Y, Ueda A et al. | 産科婦人科 | Novel intrauterine balloon tamponade systems for postpartum hemorrhage | Acta Obstet Gynecol Scand. 2019 Dec; 98(12):1612-1617 | Original Article |
| 227 | Moriuchi K, Chigusa Y, Kondoh E et al. | 産科婦人科 | Enoxaparin administration within 24 hours of caesarean section: a 6-year single-centre experience and patient outcomes | J Obstet Gynaecol. 2019 May;39(4):451-454 | Original Article |
| 228 | Miyamoto T, Abiko K, Murakami R et al. | 産科婦人科 | Hysteroscopic morphological pattern reflects histological grade of endometrial cancer | J Obstet Gynaecol Res. 2019 Aug;45(8):1479-1487 | Original Article |
| 229 | Zeng X, Baba T, Hamanishi J et al. | 産科婦人科 | Phosphorylation of STAT1 serine 727 enhances platinum resistance in uterine serous carcinoma | Int J Cancer. 2019 Sep; 145(6):1635-1647 | Original Article |
| 230 | Yamanoi K, Baba T, Abiko K et al. | 産科婦人科 | Acquisition of a side population fraction augments malignant phenotype in ovarian cancer | Sci Rep. 2019 Oct; 9(1):14215 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|---|---------------------------|--|--|------------------|
| 231 | So M, Miyamoto T, Murakami R et al. | 産科婦人科 | The efficacy of secondary cytoreductive surgery for recurrent ovarian, tubal, or peritoneal cancer in Tian-model low-risk patients | J Gynecol Oncol. 2019 Nov;30(6):e100 | Original Article |
| 232 | Horikawa N, Abiko K, Matsumura N et al. | 産科婦人科 | Anti-VEGF therapy resistance in ovarian cancer is caused by GM-CSF-induced myeloid-derived suppressor cell recruitment | Br J Cancer. 2020 Mar; 122(6):778-788 | Original Article |
| 233 | Li X, Nakayama K, Goto T et al. | 泌尿器科 | Comparative evaluation of the extraction and analysis of urinary phospholipids and lysophospholipids using MALDI-TOF/MS | Chem Phys Lipids. 2019 Sep;223:104787 | Original Article |
| 234 | Hattahara K, Yamasaki T, Sawada A et al. | 泌尿器科 | [A Case of Late Onset Nivolumab-Induced Interstitial Nephritis in a Patient with Metastatic Renal Cell Carcinoma] | Hinyokika Kiyo. 2019 May;65(5):157-161 | Original Article |
| 235 | Fujiwara M, Akamatsu S, Sumiyoshi T et al. | 泌尿器科 | Efficacy and Safety of Carboplatin Plus Paclitaxel as the First-, Second-, and Third-line Chemotherapy in Men With Castration-resistant Prostate Cancer | Clin Genitourin Cancer. 2019 Oct;17(5):e923-e929 | Original Article |
| 236 | Miyazaki Y, Teramoto Y, Shibuya S et al. | 泌尿器科 | Consecutive Prostate Cancer Specimens Revealed Increased Aldo-Keto Reductase Family 1 Member C3 Expression with Progression to Castration-Resistant Prostate Cancer | J Clin Med. 2019 May; 8(5):601 | Original Article |
| 237 | Akamatsu S, Kubota M, Uozumi R et al. | 泌尿器科 | Development and Validation of a Novel Prognostic Model for Predicting Overall Survival in Treatment-naïve Castration-sensitive Metastatic Prostate Cancer | Eur Urol Oncol. 2019 May;2(3):320-328 | Original Article |
| 238 | Uegaki M, Kita Y, Shirakawa R et al. | 泌尿器科 | Downregulation of RalGTPase-activating protein promotes invasion of prostatic epithelial cells and progression from intraepithelial neoplasia to cancer during prostate carcinogenesis | Carcinogenesis. 2019 Dec;40(12):1535-1544 | Original Article |
| 239 | Li X, Nakayama K, Goto T et al. | 泌尿器科 | Data processing on a comparative evaluation of the extraction and analysis procedures for urinary phospholipid and lysophospholipid using MALDI-TOF/MS | Data Brief. 2019 Jul; 25:104275 | Original Article |
| 240 | Matsukawa S, Kai S, Mizota T. | 麻酔科 | Near-infrared spectroscopy underestimates cerebral oxygenation in hemodialysis patients | J Anesth. 2019 Jun; 33(3):478-481 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|--|---------------------------|--|---|---------------------|
| 241 | Matsukawa S, Kai S, Mizota T. | 麻酔科 | Response to letter to the editor | J Anesth. 2020 Feb; 34(1):157 | Original Article |
| 242 | Takeda C, Takeuchi M, Kawasaki Y et al. | 麻酔科 | Correction to: Prophylactic sivelestat for esophagectomy and in-hospital mortality: a propensity score-matched analysis of claims database | J Anesth. 2020 Feb; 34(1):161-162 | Original Article |
| 243 | Yoshinaga D, Baba S, Hirata T et al. | 小児科 | Living-donor lung transplantation after surgical repair of transposition of the great arteries | Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Jul; 67(7):640-643 | Original Article |
| 244 | Saida S, Zhen T, Kim E et al. | 小児科 | Gata2 deficiency delays leukemogenesis while contributing to aggressive leukemia phenotype in Cbfb-MYH11 knockin mice | Leukemia. 2020 Mar; 34(3):759-770 | Original Article |
| 245 | Shiba T, Tanaka T, Ida H et al. | 小児科 | Functional evaluation of the pathological significance of MEFV variants using induced pluripotent stem cell-derived macrophages | J Allergy Clin Immunol. 2019 Nov;144(5):1438- 1441 | Original Article |
| 246 | Yoshida T, Jonouchi T, Osafune K et al. | 小児科 | A Liver Model of Infantile-Onset Pompe Disease Using Patient-Specific Induced Pluripotent Stem Cells | Front Cell Dev Biol. 2019 Nov;7:316 | Original Article |
| 247 | Yoshinaga D, Baba S, Makiyama T et al. | 小児科 | Phenotype-Based High-Throughput Classification of Long QT Syndrome Subtypes Using Human Induced Pluripotent Stem Cells | Stem Cell Reports. 2019 Aug;13(2):394-404 | Original Article |
| 248 | Matsushita N, Nakamura M, Sasaki M et al. | 放射線治療科 | Analyses of integrated EPID images for on-treatment quality assurance to account for interfractional variations in volumetric modulated arc therapy | J Appl Clin Med Phys. 2020 Jan;21(1):110-116 | Original Article |
| 249 | Ono Y, Yoshimura M, Hirata K et al. | 放射線治療科 | The impact of age on the risk of ipsilateral breast tumor recurrence after breast-conserving therapy in breast cancer patients with a >5 mm margin treated without boost irradiation | Radiat Oncol. 2019 Jul; 14(1):121 | Original Article |
| 250 | Sakanaka K, Ishida Y, Mizowaki T. | 放射線治療科 | A Case Report of Locally Advanced Anal Cancer with Solitary Cutaneous Nodular Metastasis in the Ipsilateral Labia Majora Treated with Definitive Chemoradiotherapy | Case Rep Oncol. 2019 Sep;12(3):721-727 | Case report |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|---|---------------------------|--|--|------------------|
| 251 | Ishida Y, Sakanaka K, Fujii K et al. | 放射線治療科 | Intensity-modulated radiotherapy for cervical esophageal squamous cell carcinoma without hypopharyngeal invasion: dose distribution and clinical outcome | J Radiat Res. 2019 Jul; 60(4):517-526 | Original Article |
| 252 | Sakanaka K, Fujii K, Mizowaki T. | 放射線治療科 | Adaptive radiotherapy in locally advanced esophageal cancer with atelectasis: a case report | BMC Cancer. 2020 Jan; 20(1):21 | Case report |
| 253 | Sakanaka K, Mizowaki T. | 放射線治療科 | A Case Report of a Solitary Pelvic Mass Proven to Be a Lymph Nodal Metastasis from Anal Cancer | Case Rep Oncol. 2020 Feb;13(1):164-169 | Case report |
| 254 | Matsuo Y. | 放射線治療科 | Stereotactic body radiotherapy as an alternative to metastasectomy for pulmonary oligometastasis | J Thorac Dis. 2019 May; 11(Suppl 9):S1420-S1422 | Original Article |
| 255 | Iizuka Y, Nakamura M, Kozawa S et al. | 放射線治療科 | Tumour volume comparison between 16-row multi-detector computed tomography and 320-row area-detector computed tomography in patients with small lung tumours treated with stereotactic body radiotherapy: Effect of respiratory motion | Eur J Radiol. 2019 Aug; 117:120-125 | Original Article |
| 256 | Aizawa R, Takayama K, Nakamura K et al. | 放射線治療科 | Ten-year outcomes of high-dose intensity-modulated radiation therapy for nonmetastatic prostate cancer with unfavorable risk: early initiation of salvage therapy may replace long-term adjuvant androgen deprivation | Int J Clin Oncol. 2019 Oct;24(10):1247-1255 | Original Article |
| 257 | Iizuka Y, Katagiri T, Ogura K et al. | 放射線治療科 | Comparison between the different doses of radioactive iodine ablation prescribed in patients with intermediate-to-high-risk differentiated thyroid cancer | Ann Nucl Med. 2019 Jul; 33(7):495-501 | Original Article |
| 258 | Hirashima H, Nakamura M, Miyabe Y et al. | 放射線治療科 | Quality assurance of non-coplanar, volumetric-modulated arc therapy employing a C-arm linear accelerator, featuring continuous patient couch rotation | Radiat Oncol. 2019 Apr; 14(1):62 | Original Article |
| 259 | Kakino R, Nakamura M, Mitsuyoshi T et al. | 放射線治療科 | Comparison of radiomic features in diagnostic CT images with and without contrast enhancement in the delayed phase for NSCLC patients | Phys Med. 2020 Jan; 69:176-182 | Original Article |
| 260 | Nakamura M, Nakao M, Hirashima H et al. | 放射線治療科 | Performance evaluation of a newly developed three-dimensional model-based global-to-local registration in prostate cancer | J Radiat Res. 2019 Oct; 60(5):595-602 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|--|---------------------------|---|--|---------------------|
| 261 | Ono T, Hirashima H, Iramina H et al. | 放射線治療科 | Prediction of dosimetric accuracy for VMAT plans using plan complexity parameters via machine learning | Med Phys. 2019 Sep; 46(9):3823-3832 | Original Article |
| 262 | Ziegler M, Nakamura M, Hirashima H et al. | 放射線治療科 | Accumulation of the delivered treatment dose in volumetric modulated arc therapy with breath-hold for pancreatic cancer patients based on daily cone beam computed tomography images with limited field-of-view | Med Phys. 2019 Jul; 46(7):2969-2977 | Original Article |
| 263 | Uto M, Ogura K, Mukumoto N et al. | 放射線治療科 | Single-isocenter volumetric-modulated Dynamic WaveArc therapy for two brain metastases | Jpn J Radiol. 2019 Aug; 37(8):619-625 | Original Article |
| 264 | Shintani T, Nakamura M, Matsuo Y et al. | 放射線治療科 | Investigation of 4D dose in volumetric modulated arc therapy-based stereotactic body radiation therapy: does fractional dose or number of arcs matter? | J Radiat Res. 2020 Mar; 61(2):325-334 | Original Article |
| 265 | Sasaki M, Nakamura M, Mukumoto N et al. | 放射線治療科 | Variation in accumulated dose of volumetric-modulated arc therapy for pancreatic cancer due to different beam starting phases | J Appl Clin Med Phys. 2019 Oct;20(10):118- 126 | Original Article |
| 266 | Onoue K, Nishio M, Yakami M et al. | 放射線診断科 | Temporal subtraction of computed tomography images improves detectability of bone metastases by radiology residents | Eur Radiol. 2019 Dec; 29(12):6439-6442 | Original Article |
| 267 | Onoue K, Nishio M, Yakami M et al. | 放射線診断科 | CT temporal subtraction improves early detection of bone metastases compared to SPECT | Eur Radiol. 2019 Oct; 29(10):5673-5681 | Original Article |
| 268 | Tokunaga K, Furuta A, Yoshimura M et al. | 放射線診断科 | Superior Mesenteric Artery Stent-Graft Migration into the Duodenum | J Vasc Interv Radiol. 2019 Oct;30(10):1614 | Original Article |
| 269 | Sakaguchi R, Kataoka M, Kanao S et al. | 放射線診断科 | Distribution pattern of FDG uptake using ring-type dedicated breast PET in comparison to whole-body PET/CT scanning in invasive breast cancer | Ann Nucl Med. 2019 Aug;33(8):570-578 | Original Article |
| 270 | Nishio M, Akasaka T, Sakamoto R et al. | 放射線診断科 | Bayesian Statistical Model of Item Response Theory in Observer Studies of Radiologists | Acad Radiol. 2020 Mar; 27(3):e45-e54 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|--|---------------------------|--|---|---------------------|
| 271 | Iima M, Yamamoto A, Kataoka M et al. | 放射線診断科 | Time-dependent diffusion MRI to distinguish malignant from benign head and neck tumors | J Magn Reson Imaging. 2019 Jul;50(1):88-95 | Original Article |
| 272 | Otani T, Hosono M, Kanagaki M et al. | 放射線診断科 | Evaluation and Optimization of a New PET Reconstruction Algorithm, Bayesian Penalized Likelihood Reconstruction, for Lung Cancer Assessment According to Lesion Size | AJR Am J Roentgenol. 2019 Aug;213(2):W50- W56 | Original Article |
| 273 | Kurata Y, Nishio M, Kido A et al. | 放射線診断科 | Automatic segmentation of the uterus on MRI using a convolutional neural network | Comput Biol Med. 2019 Nov;114:103438 | Original Article |
| 274 | Fukutomi H, Glasser MF, Murata K et al. | 放射線診断科 | Diffusion Tensor Model links to Neurite Orientation Dispersion and Density Imaging at high b-value in Cerebral Cortical Gray Matter | Sci Rep. 2019 Aug; 9(1):12246 | Original Article |
| 275 | Honda M, Kataoka M, Onishi N et al. | 放射線診断科 | New parameters of ultrafast dynamic contrast-enhanced breast MRI using compressed sensing | J Magn Reson Imaging. 2020 Jan;51(1):164-174 | Original Article |
| 276 | Ohashi A, Kataoka M, Kanao S et al. | 放射線診断科 | Diagnostic performance of maximum slope: A kinetic parameter obtained from ultrafast dynamic contrast-enhanced magnetic resonance imaging of the breast using k-space weighted image contrast (KWIC) | Eur J Radiol. 2019 Sep; 118:285-292 | Original Article |
| 277 | Okuchi S, Fushimi Y, Okada T et al. | 放射線診断科 | Visualization of carotid vessel wall and atherosclerotic plaque: T1-SPACE vs. compressed sensing T1-SPACE | Eur Radiol. 2019 Aug; 29(8):4114-4122 | Original Article |
| 278 | Sagawa H, Kataoka M, Kanao S et al. | 放射線診断科 | Impact of the Number of Iterations in Compressed Sensing Reconstruction on Ultrafast Dynamic Contrast-enhanced Breast MR Imaging | Magn Reson Med Sci. 2019 Jul;18(3):200-207 | Original Article |
| 279 | Watanabe M, Nakamoto Y, Ishimori T et al. | 放射線診断科 | Prognostic utility of FDG PET/CT in advanced ovarian, fallopian and primary peritoneal high-grade serous cancer patients before and after neoadjuvant chemotherapy | Ann Nucl Med. 2020 Feb;34(2):128-135 | Original Article |
| 280 | Nomura T, Sumi E, Egawa G et al. | 皮膚科 | The efficacy of a cyclin dependent kinase 9 (CDK9) inhibitor, FIT039, on verruca vulgaris: study protocol for a randomized controlled trial | Trials. 2019 Aug; 20(1):489 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|---|---------------------------|---|--|------------------|
| 281 | Honda T, Kabashima K. | 皮膚科 | Current understanding of the role of dietary lipids in the pathophysiology of psoriasis | J Dermatol Sci. 2019 Jun;94(3):314-320 | Original Article |
| 282 | Hata A, Egawa G, Nomura T et al. | 皮膚科 | Chronological changes of skin eruptions in an infantile case of annular pustular psoriasis | J Dermatol. 2019 Oct; 46(10):e372-e373 | Original Article |
| 283 | Adachi E, Egawa G, Kabashima K. | 皮膚科 | Case of capecitabine-induced severe erosional radiation recall dermatitis in a patient with breast cancer | J Dermatol. 2019 Oct; 46(10):e354-e355 | Original Article |
| 284 | Dainichi T, Nakano Y, Wakae K et al. | 皮膚科 | APOBEC3 regulates keratinocyte differentiation and expression of Notch3 | Exp Dermatol. 2019 Nov; 28(11):1341-1347 | Original Article |
| 285 | Ono S, Egawa G, Nomura T et al. | 皮膚科 | Abl family tyrosine kinases govern IgG extravasation in the skin in a murine pemphigus model | Nat Commun. 2019 Sep; 10(1):4432 | Original Article |
| 286 | Urata Y, Honda T, Kaku Y et al. | 皮膚科 | Chilblain lupus during treatment with golimumab for rheumatoid arthritis | J Dermatol. 2019 Sep; 46(9):e314-e315 | Original Article |
| 287 | Irie H, Dainichi T, Kaku Y et al. | 皮膚科 | Progressive Erythroderma without Malignancy in the Skin: A Quiz | Acta Derm Venereol. 2019 Jul;99(9):841-843 | Original Article |
| 288 | Iga N, Otsuka A, Hirata M et al. | 皮膚科 | Variable indoleamine 2,3-dioxygenase expression in acral/mucosal melanoma and its possible link to immunotherapy | Cancer Sci. 2019 Nov; 110(11):3434-3441 | Original Article |
| 289 | Kogame T, Takegami T, Sakai TR et al. | 皮膚科 | Immunohistochemical analysis of class-switched subtype of primary cutaneous marginal zone lymphoma in terms of inducible skin-associated lymphoid tissue | J Eur Acad Dermatol Venereol. 2019 Nov; 33(11):e401-e403 | Original Article |
| 290 | Tajika A, Furukawa TA, Inagaki M et al. | 精神科神経科 | Trajectory of criterion symptoms of major depression under newly started antidepressant treatment: sleep disturbances and anergia linger on while suicidal ideas and psychomotor symptoms disappear early | Acta Psychiatr Scand. 2019 Dec;140(6):532-540 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|--|---------------------------|---|---|---------------------|
| 291 | Otsuka S, Murai T. | 精神科神経科 | The multidimensionality of Japanese kanji abilities | Sci Rep. 2020 Feb; 10(1):3039 | Original Article |
| 292 | Tsurumi K, Aso T, Kawada R et al. | 精神科神経科 | A positive shift in resting-state functional connectivity between the insula and default mode network regions reflects the duration of illness in gambling disorder patients without lifetime substance abuse | Psychiatry Res Neuroimaging. 2020 Jan; 295:111018 | Original Article |
| 293 | Ogawa Y, Takeshima N, Hayasaka Y et al. | 精神科神経科 | Antidepressants plus benzodiazepines for adults with major depression | Cochrane Database Syst Rev. 2019 Jun; 6(6):CD001026 | Original Article |
| 294 | Imai H, Takeshima N, Hayasaka Y et al. | 精神科神経科 | Association between patients' feedback comments and depressive mood, satisfaction, homework conducted, and dropouts during self-guided smartphone cognitive behavioral therapy | Psychiatry Clin Neurosci. 2019 Jun;73(6):349-350 | Original Article |
| 295 | Oshima A, Nishimura A, Chen- Yoshikawa TF et al. | リハビリテーショ ン科 | Nutrition-related factors associated with waiting list mortality in patients with interstitial lung disease: A retrospective cohort study | Clin Transplant. 2019 Jun;33(6):e13566 | Original Article |
| 296 | Tanaka H, Nankaku M, Nishikawa T et al. | リハビリテーショ ン科 | Spatiotemporal gait characteristic changes with gait training using the hybrid assistive limb for chronic stroke patients | Gait Posture. 2019 Jun; 71:205-210 | Original Article |
| 297 | Okabayshi M, Kataoka TR, Oji M et al. | 病理診断科 | IGF2BP3 (IMP3) expression in angiosarcoma, epithelioid hemangioendothelioma, and benign vascular lesions | Diagn Pathol. 2020 Mar; 15(1):26 | Original Article |
| 298 | Kataoka TR, Ueshima C, Hirata M et al. | 病理診断科 | Killer Immunoglobulin-Like Receptor 2DL4 (CD158d) Regulates Human Mast Cells both Positively and Negatively: Possible Roles in Pregnancy and Cancer Metastasis | Int J Mol Sci. 2020 Jan; 21(3):954 | Original Article |
| 299 | Masano Y, Yagi S, Miyachi Y et al. | 病理診断科 | Auxiliary xenotransplantation as an in vivo bioreactor-Development of a transplantable liver graft from a tiny partial liver | Xenotransplantation. 2019 Nov;26(6):e12545 | Original Article |
| 300 | Tsuzuki S, Kataoka TR, Ito H et al. | 病理診断科 | A case of renal cell carcinoma unclassified with medullary phenotype without detectable gene deletion | Pathol Int. 2019 Dec; 69(12):710-714 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|---|---------------------------|---|--|---------------------|
| 301 | Sugimoto A, Kataoka TR, Ito H et al. | 病理診断科 | SLAM family member 8 is expressed in and enhances the growth of anaplastic large cell lymphoma | Sci Rep. 2020 Feb; 10(1):2505 | Original Article |
| 302 | Tsuchido Y, Tanaka M, Nakano S et al. | 検査部 | Prospective multicenter surveillance of clinically isolated Aspergillus species revealed azole-resistant Aspergillus fumigatus isolates with TR34/L98H mutation in the Kyoto and Shiga regions of Japan | Med Mycol. 2019 Nov; 57(8):997-1003 | Original Article |
| 303 | Matsumura Y, Tsuchido Y, Yamamoto M et al. | 検査部 | Development of a fully automated PCR assay for the detection of Pneumocystis jirovecii using the GENECUBE system | Med Mycol. 2019 Oct; 57(7):841-847 | Original Article |
| 304 | Nakano S, Fujiwara T, Ito Y et al. | 検査部 | Whole-Genome Sequencing Analysis of Multidrug-Resistant Serotype 15A Streptococcus pneumoniae in Japan and the Emergence of a Highly Resistant Serotype 15A-ST9084 Clone | Antimicrob Agents Chemother. 2019 Apr; 63(5):e02579-18 | Original Article |
| 305 | Nakano S, Fujiwara T, Ito Y et al. | 検査部 | Penicillin-Binding Protein Typing, Antibiotic Resistance Gene Identification, and Molecular Phylogenetic Analysis of Meropenem-Resistant Streptococcus pneumoniae Serotype 19A-CC3111 Strains in Japan | Antimicrob Agents Chemother. 2019 Aug; 63(9):e00711-19 | Original Article |
| 306 | Nakano S, Fujiwara T, Ito Y et al. | 検査部 | Nationwide surveillance of paediatric invasive and non-invasive pneumococcal disease in Japan after the introduction of the 13-valent conjugated vaccine, 2015-2017 | Vaccine. 2020 Feb; 38(7):1818-1824 | Original Article |
| 307 | Mizota T, Dong L, Takeda C et al. | 手術部 | Invasive Respiratory or Vasopressor Support and/or Death as a Proposed Composite Outcome Measure for Perioperative Care Research | Anesth Analg. 2019 Sep; 129(3):679-685 | Original Article |
| 308 | Mizota T, Kohara J, Goto W et al. | 手術部 | Validation of the Radford Nomogram to Estimate the Minute Volume Required to Attain Normocapnia in Patients Undergoing General Anesthesia: A Single-Center Retrospective Study | Asian J Anesthesiol. 2019 Sep; 57(3):101-108 | Original Article |
| 309 | Kohara J, Dong L, Takeda C et al. | 手術部 | Derivation and validation of an equation to determine the optimal ventilator setting in children undergoing intracranial revascularization surgery: A single-center retrospective study | Paediatr Anaesth. 2020 Jan; 30(1):50-56 | Original Article |
| 310 | Koyasu S, Shimizu Y, Morinibu A et al. | 放射線部 | Increased (14)C-acetate accumulation in IDH-mutated human glioblastoma: implications for detecting IDH-mutated glioblastoma with (11)C-acetate PET imaging | J Neurooncol. 2019 Dec; 145(3):441-447 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|--|---------------------------|--|--|---------------------|
| 311 | Koyasu S, Nishio M, Isoda H et al. | 放射線部 | Usefulness of gradient tree boosting for predicting histological subtype and EGFR mutation status of non-small cell lung cancer on (18)F FDG-PET/CT | Ann Nucl Med. 2020 Jan; 34(1):49-57 | Original Article |
| 312 | Zhang Y, Yonezawa A, Nakagawa S et al. | 薬剤部 | Cisplatin, rather than oxaliplatin, increases paracellular permeability of LLC-PK1 cells via activating protein kinase C | Drug Metab Pharmacokinet. 2020 Feb;35(1):111-116 | Original Article |
| 313 | Itoharu K, Yano I, Tsuzuki T et al. | 薬剤部 | A Minimal Physiologically-Based Pharmacokinetic Model for Tacrolimus in Living-Donor Liver Transplantation: Perspectives Related to Liver Regeneration and the cytochrome P450 3A5 (CYP3A5) Genotype | CPT Pharmacometrics Syst Pharmacol. 2019 Aug;8(8):587-595 | Original Article |
| 314 | Nagai Y, Nishitani N, Yasuda M et al. | 薬剤部 | Identification of neuron-type specific promoters in monkey genome and their functional validation in mice | Biochem Biophys Res Commun. 2019 Oct; 518(4):619-624 | Original Article |
| 315 | Nagai Y, Takayama K, Nishitani N et al. | 薬剤部 | The Role of Dorsal Raphe Serotonin Neurons in the Balance between Reward and Aversion | Int J Mol Sci. 2020 Mar; 21(6):2160 | Original Article |
| 316 | Nagaoka SI, Nakaki F, Miyachi H et al. | 薬剤部 | ZGLP1 is a determinant for the oogenic fate in mice | Science. 2020 Mar; 367(6482):eaaw4115 | Original Article |
| 317 | Sakai Y, Nakamura T, Okamoto I et al. | 薬剤部 | Induction of the germ cell fate from pluripotent stem cells in cynomolgus monkeys† | Biol Reprod. 2020 Mar; 102(3):620-638 | Original Article |
| 318 | Ogihara T, Nakagawa T, Hayashi M et al. | 薬剤部 | Improvement of peripheral vascular impairment by a phosphodiesterase type 5 inhibitor tadalafil prevents oxaliplatin-induced peripheral neuropathy in mice | J Pharmacol Sci. 2019 Dec;141(4):131-138 | Original Article |
| 319 | Fujita K, Sugiyama O, Hiragi S et al. | 医療情報企画 部 | Analysis for the Annual Text Amount of Electronic Medical Records | Stud Health Technol Inform. 2019 Aug; 264:1662-1663 | Original Article |
| 320 | Santos LH, Okamoto K, Hiragi S et al. | 医療情報企画 部 | Pervasive game design to evaluate social interaction effects on levels of physical activity among older adults | J Rehabil Assist Technol Eng. 2019 Jun; 6:2055668319844443 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|--|----------------------------|---|---|---------------------|
| 321 | Santos LHO, Okamoto K, Funghetto SS et al. | 医療情報企画 部 | Effects of Social Interaction Mechanics in Pervasive Games on the Physical Activity Levels of Older Adults: Quasi-Experimental Study | JMIR Serious Games. 2019 Jul;7(3):e13962 | Original Article |
| 322 | Yamasaki Y, Sugiyama O, Hiragi S et al. | 医療情報企画 部 | Early Nephrosis Detection Based on Deep Learning with Clinical Time-Series Data | Stud Health Technol Inform. 2019 Aug; 264:1596-1597 | Original Article |
| 323 | Nishimura T. | 先端医療研究 開発機構 | The Parietal Eye of Lizards (<i>Pogona vitticeps</i>) Needs Light at a Wavelength Lower than 580 nm to Activate Light-Dependent Magnetoreception | Animals (Basel). 2020 Mar;10(3):489 | Original Article |
| 324 | Sumi E, Asada R, Lu Y et al. | 先端医療研究 開発機構 | A Qualitative Study on the Differences Between Trial Populations and the Approved Therapeutic Indications of Antineoplastic Agents by 3 Regulatory Agencies From 2010 to 2018 | Clin Ther. 2020 Feb; 42(2):305-320 | Original Article |
| 325 | Takeyama H, Matsumoto R, Usami K et al. | 呼吸管理睡眠 制御学講座 | Human entorhinal cortex electrical stimulation evoked short-latency potentials in the broad neocortical regions: Evidence from cortico-cortical evoked potential recordings | Brain Behav. 2019 Sep; 9(9):e01366 | Original Article |
| 326 | Tabara Y, Matsumoto T, Murase K et al. | 呼吸管理睡眠 制御学講座 | Frequent nocturnal urination in older men is associated with arterial stiffness: The Nagahama study | Hypertens Res. 2019 Dec;42(12):1996-2001 | Original Article |
| 327 | Tabara Y, Ikezoe T, Matsumoto T et al. | 呼吸管理睡眠 制御学講座 | Association of weak hip abduction strength with nocturia in older women: The Nagahama study | Geriatr Gerontol Int. 2019 Oct;19(10):1010- 1016 | Original Article |
| 328 | Tabara Y, Matsumoto T, Murase K et al. | 呼吸管理睡眠 制御学講座 | Lifestyle habits associated with nocturnal urination frequency: The Nagahama study | Neurourol Urodyn. 2019 Nov;38(8):2359-2367 | Original Article |
| 329 | Murata K, Ito H, Hashimoto M et al. | リウマチ性疾患 先進医療学講 座(寄附) | Elderly onset of early rheumatoid arthritis is a risk factor for bone erosions, refractory to treatment: KURAMA cohort | Int J Rheum Dis. 2019 Jun;22(6):1084-1093 | Original Article |
| 330 | Murata K, Hashimoto M, Yamamoto W et al. | リウマチ性疾患 先進医療学講 座(寄附) | The family history of rheumatoid arthritis in anti-cyclic citrullinated peptide antibody-positive patient is not a predictor of poor clinical presentation and treatment response with modern classification criteria and treatment strategy: the ANSWER cohort study | Rheumatol Int. 2020 Feb; 40(2):217-225 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|--|--------------------------------------|---|---|------------------|
| 331 | Iwamoto N, Takanashi M, Yokoyama K et al. | リウマチ性疾患 先進医療学講 座(寄附) | Multiplexed monitoring of therapeutic antibodies for inflammatory diseases using Fab-selective proteolysis nSMOL coupled with LC-MS | J Immunol Methods. 2019 Sep;472:44-54 | Original Article |
| 332 | Hagihara T, Kondo J, Endo H et al. | クリニカルバイ オリソース研究 開発講座(産学 共同) | Hydrodynamic stress stimulates growth of cell clusters via the ANXA1/PI3K/AKT axis in colorectal cancer | Sci Rep. 2019 Dec; 9(1):20027 | Original Article |
| 333 | Kondo J, Inoue M. | クリニカルバイ オリソース研究 開発講座(産学 共同) | Application of Cancer Organoid Model for Drug Screening and Personalized Therapy | Cells. 2019 May;8(5):470 | Original Article |
| 334 | Usami K, Kinoshita M. | てんかん・運動 異常生理学講 座(産学共同) | Mental activation to overcome electrically induced cortical hyperexcitability | Clin Neurophysiol. 2019 Nov;130(11):2164-2165 | Original Article |
| 335 | Usami K. | てんかん・運動 異常生理学講 座(産学共同) | Does single stimulus elucidate the complex mystery of sleep? | Clin Neurophysiol. 2020 Feb;131(2):463-464 | Original Article |

小計 5

合計 335

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院に おける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|-------|---------------------------|----|---------------|------------------|
| 1 | | | | | Original Article |
| 2 | | | | | Case report |
| 3 | | | | | |
| ～ | | | | | |

計 件

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

| | |
|--|---------|
| ① 倫理審査委員会の設置状況 | 有・無 |
| ② 倫理審査委員会の手順書の整備状況 | 有・無 |
| ・ 手順書の主な内容 「会議録の作成」「手順書、委員名簿、及び会議録概要等の公表」「人を対象とする医学系研究に関する教育研修」「医の倫理委員会委員及び事務局員への教育研修」「人を対象とする医学系研究の年次報告及び中止・終了報告」「人を対象とする医学系研究に関する研究者、研究責任者及び研究機関の長の責務」「人を対象とする医学系研究に関する試料・情報の保管及び他の機関等の試料・情報の利用」「迅速審査に関する手順」「多施設共同研究についての事務手続き及び審査の方針」「人を対象とする医学系研究における重篤な有害事象・安全性情報の報告」「専門小委員会の運用にかかる手順書」「医学系研究に関する不適合に関する報告」「中央倫理審査委員会としての一括審査」「外部機関の倫理委員会への審査依頼」 | |
| ③ 倫理審査委員会の開催状況 | 年 1 1 回 |

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

| | |
|---|---------|
| ① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況 | 有・無 |
| ② 利益相反の管理に関する規定の整備状況 | 有・無 |
| ・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの原則、利益相反審査に係る審議体制・手続き等 | |
| ③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況 | 年 1 2 回 |

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

| | |
|--|-----|
| ① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況 | 年3回 |
| <p>・研修の主な内容</p> <p>前期：「臨床研究法に基づく研究実施の留意点」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針に基づく研究実施の留意点」、「指針不適合 ケースからの学び」、「特定臨床研究の実施に係る疾病等報告・定期報告の手続き」</p> <p>後期：「研究に関するインフォームド・コンセントに係る留意点」、「臨床研究における監査とは」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究の実施に係る留意点等」</p> <p>前期：2回（DVD補講1回含む）、後期：1回</p> | |

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

京大病院では、単に自立して診療ができるだけでなく、将来的にその領域でリーダーシップがとれるような実力のある専門医の養成をめざしている。

こうした専門医になるためには、固定化した医療環境で、漫然と日常診療をこなすだけでは不十分であり、系統的なプログラムにもとづき、優れた指導医のもとで、さまざまな医療環境を経験することが必要となる。

京大病院は、レベルの高い魅力的な第一線の医療機関が関連病院としてリンクしていることで有名であり、活発に人事交流することが実力のある臨床医を育成する原動力になっている。プログラムは、こうしたアクティビティの高い病院での修練が包括されたものとなっている。その中で大学においては若い医師たちが真摯で刺激的なディスカッションを重ねながら、挑戦的で先進的な課題に取り組む環境が形成されており、京大病院の実績と力に結びついている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

| | |
|-------------|----------|
| 上記研修を受けた医師数 | 236.92 人 |
|-------------|----------|

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

| 研修統括者氏名 | 診療科 | 役職等 | 臨床経験年数 | 特記事項 |
|---------|--------------|-----|--------|------|
| 北脇 年雄 | 血液内科 | 助教 | 25年 | |
| 尾野 亘 | 循環器内科 | 准教授 | 30年 | |
| 宇座 徳光 | 消化器内科 | 講師 | 22年 | |
| 平井 豊博 | 呼吸器内科 | 教授 | 20年 | |
| 森信 暁雄 | 免疫・膠原病内科 | 教授 | 32年 | |
| 横井 秀基 | 腎臓内科 | 講師 | 26年 | |
| 小倉 雅仁 | 糖尿病・内分泌・栄養内科 | 助教 | 20年 | |
| 葛谷 聡 | 脳神経内科 | 准教授 | 24年 | |
| 小濱 和貴 | 消化管外科 | 准教授 | 25年 | |
| 鈴木 栄治 | 乳腺外科 | 准教授 | 17年 | |
| 田浦 康二郎 | 肝胆膵・移植外科 | 准教授 | 26年 | |
| 増井 俊彦 | 小児外科 | 准教授 | 26年 | |
| 後藤 公志 | 整形外科 | 准教授 | 26年 | |

| | | | | |
|-------|-------------|-----|-----|--|
| 宮本 享 | 脳神経外科 | 教授 | 39年 | |
| 湊谷 謙司 | 心臓血管外科 | 教授 | 34年 | |
| 森本 尚樹 | 形成外科 | 教授 | 27年 | |
| 伊達 洋至 | 呼吸器外科 | 教授 | 36年 | |
| 赤木 忠道 | 眼科 | 准教授 | 23年 | |
| 堀江 昭史 | 産科婦人科 | 講師 | 21年 | |
| 滝田 順子 | 小児科 | 教授 | 29年 | |
| 椛島 健治 | 皮膚科 | 教授 | 24年 | |
| 小林 恭 | 泌尿器科 | 准教授 | 22年 | |
| 大森 孝一 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 教授 | 36年 | |
| 磯部 昌憲 | 精神科神経科 | 助教 | 15年 | |
| 川本 修司 | 麻酔科 | 助教 | 16年 | |
| 吉村 通央 | 放射線治療科 | 講師 | 23年 | |
| 子安 翔 | 放射線診断科 | 助教 | 12年 | |
| 松村 康史 | 検査部・感染制御部 | 准教授 | 18年 | |
| 羽賀 博典 | 病理診断科 | 教授 | 29年 | |
| 大鶴 繁 | 救急科 | 教授 | 23年 | |
| 金井 雅史 | 腫瘍内科 | 准教授 | 26年 | |
| 別所 和久 | 歯科口腔外科 | 教授 | 37年 | |

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

| ① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意） | |
|----------------------------------|---|
| 1. 研修の主な内容 | 薬剤師を対象に、調剤業務や病棟薬剤師業務についての高度な知識・技術を修得するための講義研修および症例検討会を実施した。 |
| 研修の期間・実施回数 | 2019/4/1～2020/3/31 計29回 |
| 研修の参加人数 | 各15～30人 |
| 2. 研修の主な内容 | 病院薬剤師を対象として、がん薬物療法についての高度な知識・技術を修得するために実務研修及び講義研修を実施した。 |
| 研修の期間・実施回数 | 3か月・1回（2020/1/6～3/18） |
| 研修の参加人数 | 1人 |
| 3. 研修の主な内容 | 保険薬局薬剤師を対象として、地域包括ケアシステムの中で必要ながん薬物療法についての高度な知識・技術を修得するために実務研修及び講義研修を実施した。 |
| 研修の期間・実施回数 | 4週間・2回（2019/11/18～12/13、2020/2/26～3/25（3/13中断）） |
| 研修の参加人数 | 6人 |
| 4. 研修の主な内容 | 「看護部IVナース認定プログラム」に基づき、下記対象者に下記講義と演習・試験を実施した。 ①レベルⅡ（新規入職看護師対象）に薬剤・安全管理・感染管理・CVポート・PICCの管理 ②レベルⅢ（レベルⅡを指導する者対象；インストラクター）に輸液管理・生物学的製剤・UKカテーテル・輸血管理・アナフィラキシー・造影剤・IVインストラクター講習 ③レベルⅣ（レベルⅢ認定者対象）抗がん薬の基礎知識 |
| 研修の期間・実施回数 | 290時間10分、282回（DVD講義を含む） |
| 研修の参加人数 | のべ807人 |
| 5. 研修の主な内容 | 下記の看護師を対象に研修を実施した。4/1採用者研修・中途採用者研修・勤務復帰者研修、新人看護師・卒後2年看護師・卒後3年看護師・卒後4年看護師研修、レベルアップ研修等を行った。 |
| 研修の期間・実施回数 | 898時間35分、208回 |
| 研修の参加人数 | のべ4053人 |
| 6. 研修の主な内容 | 看護師を対象に「透析看護認定研修」として、「腎不全の病態と血液浄化療法」「血液浄化療法の記録」「血液浄化用訪中の看護」「血液浄化療法について」「血液浄化療法の実際」についての講義・演習・試験を実施した。 |
| 研修の期間・実施回数 | 76時間5分、42回（DVD講義を含む） |
| 研修の参加人数 | のべ115人 |

| | |
|---|---|
| <p>7. 研修の主な内容</p> <p>研修の期間・実施回数</p> <p>研修の参加人数</p> | <p>看護師・メディカルスタッフを対象に、外国人の方々に院内案内、検査・治療の説明ができるスキルを身につけることを目的に「Ask Me!ナース研修（英語・中国語コース）」を開催した。</p> <p>28時間30分、19回</p> <p>のべ99人</p> |
| <p>8. 研修の主な内容</p> <p>研修の期間・実施回数</p> <p>研修の参加人数</p> | <p>診療放射線技師を対象に、以下の研修会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIで医療はどう変わるか；米国のRAという職業 ・安全安心を届けるためのノンテクニカルスキル ・医療法施行規則の一部を改正する省令の施行等について ・考えるCT検査(14) <p>各30分、4回（2019/4/18、5/9、5/16、5/23）</p> <p>31人、32人、34人、33人</p> |
| <p>9. 研修の主な内容</p> <p>研修の期間・実施回数</p> <p>研修の参加人数</p> | <p>診療放射線技師を対象に、以下の講演会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国放射線診断専門医制度の近況：最近始まったOnline Longitudinal Assessment (LOA) 試験について（メイヨークリニック医科大学放射線科 教授 川嶋先生） ・Sub-PACS DICOM data Analyses communication :onti 線量管理システム (GEHC) ・"Imaging of precision therapy for lung cancer: Recent advances and updates" ・"Interstitial LungAbnormality: Recognition and Perspectives" ・"Clinical Imaging Research:Higher Evidence, Global Collaboration, Improved Reporting, and Data Sharing are the Grand Challenges"(Herbert Y. Kressel先生、幡生先生、西野先生) <p>各60分（質疑応答含む）、3回（2019/4/10、6/11、7/25）</p> <p>各回30人</p> |
| <p>10. 研修の主な内容</p> <p>研修の期間・実施回数</p> <p>研修の参加人数</p> | <p>診療放射線技師を対象に、以下の人事交流報告会を実施した。</p> <p>国立がん研究センター中央病院、広島大学病院での人事交流成果報告</p> <p>90分、1回（2019/5/30）</p> <p>25人</p> |
| <p>11. 研修の主な内容</p> <p>研修の期間・実施回数</p> <p>研修の参加人数</p> | <p>診療放射線技師を対象に、以下の勉強会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・RALSシミュレーション（放射線治療科） ・放射線治療用電位計について（東洋メディック開発部） ・画像カンファレンス(整形外科：脊椎) ・①大腿骨頭壊死の再生医療 ・②寛骨臼形成不全・股関節唇損傷・大腿骨寛骨臼インピンジメントの撮像方法について（整形外科） ・③人工股関節術前計画と脊椎レントゲン撮影，（整形外科） ・膝関節レクチャー（整形外科） <p>各60分、5回（2019/8/2、8/23、8/30、10/10、12/18）</p> <p>14人、14人、25人、27人、30人</p> |

| | |
|-------------|--|
| 12. 研修の主な内容 | 診療放射線技師を対象に、以下の他大学等との学術交流会を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・京大・東大・がんセンター交流会（人材育成：「バーチャルリアリティX線撮影コーチングシステムの紹介」「学術のすゝめ～東大での1年を振り返る～」） ・京大・京府立医大・滋賀医大交流会（血管造影室に関する線量低減の試み～求められる最適化技術） |
| 研修の期間・実施回数 | 各90分、2回（2019/9/19、11/13） |
| 研修の参加人数 | 2人、20人 |
| 13. 研修の主な内容 | 看護師・臨床工学技士を対象に、人工呼吸器・血液浄化・除細動器・人工心肺装置及び補助循環装置・閉鎖式保育器・新規医療機器の安全な使用方法について実施した。 |
| 研修の期間・実施回数 | 計45回（2019/4/1～2020/3/31）及びe-ラーニング |
| 研修の参加人数 | 1495人 |
| 14. 研修の主な内容 | 理学療法士，作業療法士，言語聴覚士を対象に、手の機能障害に対するリハビリテーション（離床の実施上の留意点等）の研修を実施した。 |
| 研修の期間・実施回数 | 各60分、2回（2019/7/1、22） |
| 研修の参加人数 | 34、36人 |
| 15. 研修の主な内容 | 理学療法士，作業療法士，言語聴覚士を対象に、言語障害のリハビリテーション（高次脳機能障害スクリーニングに関する概論）の研修を実施した。 |
| 研修の期間・実施回数 | 各60分、2回（2019/9/9、30） |
| 研修の参加人数 | 32、33人 |
| 16. 研修の主な内容 | 理学療法士，作業療法士，言語聴覚士を対象に、注意機能障害のリハビリテーション（呼吸リハ介入のポイント等）の研修を実施した。 |
| 研修の期間・実施回数 | 各60分、2回（2019/10/7、21） |
| 研修の参加人数 | 37、38人 |
| 17. 研修の主な内容 | 理学療法士，作業療法士，言語聴覚士を対象に、嚥下障害のリハビリテーション（嚥下リハ介入のポイント等）の研修を実施した。 |
| 研修の期間・実施回数 | 各60分、2回（2019/11/11、25） |
| 研修の参加人数 | 35、37人 |
| 18. 研修の主な内容 | 理学療法士，作業療法士，言語聴覚士を対象に、がん患者の筋力低下に対するリハビリテーション（歩行のポイント等）の研修を実施した。 |
| 研修の期間・実施回数 | 60分、1回（2020/2/3） |
| 研修の参加人数 | 36人 |

| | |
|--|--|
| <p>19. 研修の主な内容</p> <p>研修の期間・実施回数</p> <p>研修の参加人数</p> | <p>検査部の職員を対象に、以下の研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務手続き ・ 業務に必要な基本行動および労働安全衛生 ・ 検査部・接遇・臨床検査・IS015189 ・ 災害対策・BCPについて ・ 情報処理 ・ AEDの取り扱い <p>各1回</p> <p>7名（ただし「業務に必要な基本行動および労働安全衛生」、「AEDの取り扱い」は10名）</p> |
| <p>20. 研修の主な内容</p> <p>研修の期間・実施回数</p> <p>研修の参加人数</p> | <p>検査部の職員を対象に、検査関連の学術的な内容・安全管理・学会の講演会を実施した。</p> <p>年8回</p> <p>各回15～50名</p> |
| <p>21. 研修の主な内容</p> <p>研修の期間・実施回数</p> <p>研修の参加人数</p> | <p>検査部の職員を対象に、以下のISO対象必須トレーニングを実施した。</p> <p>ISO対象必須トレーニングA</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 品質マネジメントシステム ・ 感染予防 ・ 安全衛生 ・ 倫理 ・ 災害対策 <p>ISO対象必須トレーニングB</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 化学物質 ・ 廃棄物管理 ・ 患者守秘義務 <p>A：年1回、B：2年に1回</p> <p>全員（当日不参加はWeb配信で受講）</p> |

| ② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意） | |
|-------------------------------------|--|
| 1. 研修の主な内容 研修の期間・実施回数 研修の参加人数 | 看護師を対象に、管理者研修、実習指導者研修を実施した。 41時間10分、12回（DVD講義を含む） のべ393人 |
| 2. 研修の主な内容 研修の期間・実施回数 研修の参加人数 | 診療放射線技師を対象に、以下の管理業務に関する研修を行った。 ・総務管理 ・医療安全管理 ・感染対策管理 ・情報管理 ・学術法規・災害管理 ・治験・臨床研究管理 ・人材育成管理 9時間、2回（2019/4/1, 2） 各回10人 |
| 3. 研修の主な内容 研修の期間・実施回数 研修の参加人数 | 診療放射線技師を対象に、診療グループにおける管理業務に関する研修を行った。 ・血管撮影 きほんの「ん」～Dramatic?Logic? 小児心カテ～ ・Perfusion CT 撮影してみませんか？ ・今年度にあったインシデント～オーダ間違い気づけますか？～ ・腎臓核医学検査の基礎 ・CT・MR治験紹介&フレキシブルPETについて ・患者固定具とセットアップ ・医療法改正への対応 各30分、7回（2019/6/6、7/4、8/1、9/5、10/3、2020/1/9、2/6） 28人、22人、16人、23人、10人、23人、20人 |
| 4. 研修の主な内容 研修の期間・実施回数 研修の参加人数 | 医療機器における電波の安全性に関する説明会：近畿地域の医療機関における電波利用推進協議会、総務省近畿総合通信局主催 1回（2019/10/29） 1名 |
| 5. 研修の主な内容 研修の期間・実施回数 研修の参加人数 | 疾患栄養治療部職員（他の医療職種も参加可能）を対象に、臨床栄養管理業務実務研修会を実施した。 計8回（2019/4/18、5/16、6/13、7/25、8/22、9/19、10/24、11/21） のべ102人 |

| | |
|--|---|
| <p>6. 研修の主な内容</p> | <p>検査部の職員を対象に、以下の研修を実施した。</p> <p>①各配属検査室のオリエンテーション ②インフルエンザ抗原検査 ③心エコーカンファレンス ④脳波マイク使用時の注意点 ⑤ホルター心電図結果確認 ⑥心電図検査結果 ⑦生理 脳波機器 ⑧生理 脳波精度管理 ⑨生理 インシデント ⑩BCP ⑪医療倫理</p> <p>研修の期間・実施回数 ①1回 ②1回 ③3回 ④1回 ⑤1回 ⑥3回 ⑦5回 ⑧1回 ⑨1回 ⑩1回 ⑪1回</p> <p>研修の参加人数 ①7人 ②35人 ③10人 ④15人 ⑤22人 ⑥22人 ⑦23人 ⑧22人 ⑨23人 ⑩102人 ⑪102人</p> |
| <p>③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容 ・ 研修の期間・実施回数 ・ 研修の参加人数 | |

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

| | | | | |
|---------|----------|-------|----------|-------|
| 計画・現状の別 | 1. 計画 | 2. 現状 | | |
| 管理責任者氏名 | 病院長 宮本 享 | | | |
| 管理担当者氏名 | 薬剤部長 | 中川 貴之 | 総務課長 | 一條 敬一 |
| | 医務課長 | 中村 正次 | 医療安全管理室長 | 松村 由美 |
| | 医療サービス課長 | 山本 誠 | 医療情報企画部長 | 黒田 知宏 |
| | 感染制御部長 | 長尾 美紀 | 医療器材部長 | 万代 昌紀 |

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|------------------|--------------------|--|---------------------|
| 診療に関する諸記録 | 規則第二十二條の三第二項に掲げる事項 | 病院日誌 | 総務課 |
| | | 各科診療日誌 | 医療情報企画部 ・医務課 |
| | | 処方せん | 薬剤部 |
| | | 手術記録 | 医療情報企画部 ・医務課 |
| | | 看護記録 | 医療情報企画部 ・医務課 |
| | | 検査所見記録 | 医療情報企画部 ・医務課 |
| | | エックス線写真 | 医療情報企画部 ・医務課 |
| | | 紹介状 | 医療情報企画部 ・医務課 |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第二十二條の三第三項に掲げる事項 | 従業者数を明らかにする帳簿 | 総務課 |
| | | 高度の医療の提供の実績 | 医務課 |
| | | 高度の医療技術の開発及び評価の実績 | 医務課 |
| | | 高度の医療の研修の実績 | 総務課 |
| | | 閲覧実績 | 総務課 |
| | | 紹介患者に対する医療提供の実績 | 医務課 |
| | 規則第一條の十一第一項に掲げる事項 | 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿 | 医務課・薬剤部 |
| | | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 医療安全管理室・ 医療サービス課 |
| | | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 医療安全管理室・ 医療サービス課 |
| | | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 医療安全管理室・ 医療サービス課 |
| | | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | 医療安全管理室・ 医療サービス課 |

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|------------------|---|---|---------------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項 | 院内感染対策のための指針の策定状況 | 感染制御部 |
| | | 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 感染制御部・医療サービス課 |
| | | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 感染制御部・医療サービス課 |
| | | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | 感染制御部・医療サービス課 |
| | | 医薬品安全管理責任者の配置状況 | 薬剤部 |
| | | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医療機器安全管理責任者の配置状況 | 医療器材部 |
| | | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 医療器材部 |
| | 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | 医療器材部 | |
| | 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 医療器材部 | |

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|---------------------------------|--|--|-----------------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項 | 医療安全管理責任者の配置状況 | 医療安全管理室・医療サービス課 |
| | | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 医療サービス課 |
| | | 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 | 医療サービス課 |
| | | 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況 | 医療サービス課 |
| | | 診療録等の管理に関する責任者の選任状況 | 医務課 |
| | | 医療安全管理部門の設置状況 | 医療安全管理室・医療サービス課 |
| | | 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況 | 医療サービス課 |
| | | 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況 | 医療サービス課 |
| | | 監査委員会の設置状況 | 総務課 |
| | | 入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況 | 医療安全管理室・医療サービス課 |
| | | 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況 | 医療安全管理室・医療サービス課 |
| | | 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 医療安全管理室・医療サービス課 |
| | | 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況 | 総務課 |
| | | 職員研修の実施状況 | 医療サービス課 |
| | | 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況 | 医療サービス課 |
| | | 管理者が有する権限に関する状況 | 総務課 |
| 管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況 | 監査室・医療サービス課 | | |
| 開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況 | 総務課 | | |

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

| | | |
|-------------|------------|-------|
| 計画・現状の別 | 1. 計画 | ②. 現状 |
| 閲覧責任者氏名 | 事務部長 佐々木順三 | |
| 閲覧担当者氏名 | 総務課長 一條 敬一 | |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 総務課内 | |
| 閲覧の手続の概要 | | |
| 1. 閲覧申込 | 総務課 | |
| 2. 承認者 | 事務部長 | |
| 3. 閲覧方法 | 指定した日時総務課内 | |
| 4. 返却方法 | 当日総務課へ返却 | |

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

| | | | |
|-----------|--------|---|----|
| 前年度の総閲覧件数 | 延 | 0 | 件 |
| 閲覧者別 | 医師 | 延 | 0件 |
| | 歯科医師 | 延 | 0件 |
| | 国 | 延 | 0件 |
| | 地方公共団体 | 延 | 0件 |

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-----------|--|-----------|--|------------|----------------------|------------|--------------|------------|--------------|------------|---|------------|-------------------------|------------|------------|------------|------------------------------|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 有・無 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本理念 2. 組織と体制 3. 医療事故収集とサーベイランス 4. 重大事故発生時の報告体制 5. 安全管理に係る研修の実施 6. マニュアル・対応指針等の作成 7. 診療情報等の共有と開示 8. 患者及び家族からの相談等への対応 9. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（ 有・無 ） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 本院における医療事故の防止及び医療の安全性確保に関すること。 2. 本院において重大な問題その他、委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における、速やかな原因究明のための調査及び分析に関すること。 3. 2. の分析の結果を活用した、医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施、並びに職員等への周知に関すること。 4. 3. の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。 5. 医療に係る安全管理のため、職員等の医療の安全に関する意識、他の職員等と相互に連携して業務を行うことについての認識、業務を安全に行うための技能の向上等を目的として、医療に係る安全管理のための基本的な事項及び具体的な方策についての職員等研修に関すること。 6. 医療に関する安全管理指針の策定及び変更に関すること。 7. その他医療安全管理に関すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 年25回 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">2019年4月2日</td> <td>『チーム STEPPS を取り入れた医療安全トレーニング グループワークを通してチームのパフォーマンスが向上するためのスキルを学ぶ』</td> </tr> <tr> <td>2019年4月4日</td> <td>『チーム STEPPS を取り入れた医療安全トレーニング グループワークを通してチームのパフォーマンスが向上するためのスキルを学ぶ』</td> </tr> <tr> <td>2019年4月17日</td> <td>『情報セキュリティ・個人情報保護の心得』</td> </tr> <tr> <td>2019年4月19日</td> <td>『MR 検査の安全管理』</td> </tr> <tr> <td>2019年4月25日</td> <td>『医療放射線の安全利用』</td> </tr> <tr> <td>2019年5月16日</td> <td>『日本専門医機構認定共通講習(会)【医療安全に関する講習会】リスクマネジメント：基本に立ち返って』</td> </tr> <tr> <td>2019年5月20日</td> <td>『〈リハビリテーション部対象〉医療安全の基本』</td> </tr> <tr> <td>2019年5月22日</td> <td>『医療ガスについて』</td> </tr> <tr> <td>2019年5月31日</td> <td>『【DVD講習会】情報セキュリティ・個人情報保護の心得』</td> </tr> </table> | | 2019年4月2日 | 『チーム STEPPS を取り入れた医療安全トレーニング グループワークを通してチームのパフォーマンスが向上するためのスキルを学ぶ』 | 2019年4月4日 | 『チーム STEPPS を取り入れた医療安全トレーニング グループワークを通してチームのパフォーマンスが向上するためのスキルを学ぶ』 | 2019年4月17日 | 『情報セキュリティ・個人情報保護の心得』 | 2019年4月19日 | 『MR 検査の安全管理』 | 2019年4月25日 | 『医療放射線の安全利用』 | 2019年5月16日 | 『日本専門医機構認定共通講習(会)【医療安全に関する講習会】リスクマネジメント：基本に立ち返って』 | 2019年5月20日 | 『〈リハビリテーション部対象〉医療安全の基本』 | 2019年5月22日 | 『医療ガスについて』 | 2019年5月31日 | 『【DVD講習会】情報セキュリティ・個人情報保護の心得』 |
| 2019年4月2日 | 『チーム STEPPS を取り入れた医療安全トレーニング グループワークを通してチームのパフォーマンスが向上するためのスキルを学ぶ』 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2019年4月4日 | 『チーム STEPPS を取り入れた医療安全トレーニング グループワークを通してチームのパフォーマンスが向上するためのスキルを学ぶ』 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2019年4月17日 | 『情報セキュリティ・個人情報保護の心得』 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2019年4月19日 | 『MR 検査の安全管理』 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2019年4月25日 | 『医療放射線の安全利用』 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2019年5月16日 | 『日本専門医機構認定共通講習(会)【医療安全に関する講習会】リスクマネジメント：基本に立ち返って』 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2019年5月20日 | 『〈リハビリテーション部対象〉医療安全の基本』 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2019年5月22日 | 『医療ガスについて』 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2019年5月31日 | 『【DVD講習会】情報セキュリティ・個人情報保護の心得』 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

- 2019年6月3日 『チーム移植医療検討会【安全プログラム】
 ①「同種造血幹細胞移植後の慢性肺GVHD患者に対するリハビリテーション」
 ②「肺移植後の病棟での術後管理について」
 ③「移植医療における輸血細胞治療部の役割-組織適合性検査について」
 ④「移植の周術期に行われるアフェレーシス」』
- 2019年6月4日 『医薬品の安全使用について～インシデント事例から学ぶ～』
- 2019年6月13日 『【DVD講習会】情報セキュリティ・個人情報保護の心得』
- 2019年6月20日 『手術領域における医療の質の評価と改善』
- 2019年7月4日 『入院時全例嚥下スクリーニングの取り組み・この1年の成果』
- 2019年7月9日 『京大病院事業継続計画（BCP）について
 ①京大病院BCPについて
 ②産科（北病棟2階）部署別BCP作成にあたり考慮したこと等の紹介
 ③検査部署別BCP作成にあたり考慮したこと等の紹介
 ④BCPの配布及びHPへの掲載について
 ⑤部署別BCPに関する議論のお願い
 ⑥2019年度BCP策定ロードマップについて』
- 2019年7月23日 『【DVD講習会】情報セキュリティ・個人情報保護の心得』
- 2019年7月29日 『【緊急開催】本院で発生した医療事故とその対策について』
- 2019年8月6日 『死亡診断書の書き方～高齢者が誤嚥で死亡されたら、窒息による外因死？それとも病死？～』
- 2019年9月6日 『世界自殺予防デー（9/10）啓発講演：メンタルヘルスケアの基本的な考え方』
- 2019年10月9日 『日本専門医機構認定共通講習（会）【医療倫理に関する講習会】患者さんに納得してもらうために必要なことー抗がん剤を止める時を例に』
- 2019年11月5日 『ISO9001 医療の質マニュアルの紹介 8章『運用』に関連する医療安全の事例を中心に』
- 2019年11月8日 『欧州一般データ保護規則（GDPR）についてー海外出張・国際共同研究で地雷を踏まないためにー』
- 2019年11月21日 『ケアユニットにおける急性血液浄化療法の安全な医療サービス提供』
- 2019年12月26日 『災害対策に関すること』
- 2020年3月6日 『第33回チーム医療カンファレンス ここが知りたい！高齢者のフレイル～京大病院の取り組み～
 ①リウマチ患者さんのフレイル測定について
 ②フレイルと院内転倒、その対策について考える
 ③フレイル・サルコペニア対策～食事・栄養の面から～
 ④フレイル対策～生活の視点から～』

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 1. 各種安全管理マニュアル・指針等の整備と運用状況のモニター、改訂作業
 2. 安全に関する部門連携・委員会活動
 - ・ 医療安全管理委員会の定期開催
 - ・ リスクマネージャー会議の定期開催
 - ・ 医療安全、医薬品安全管理、医療機器安全管理に関する小委員会の定期開催
 - ・ 多職種間（部門横断的）インシデント検討会の定期開催
 - ・ 各種WG開催
 - ・ 高難度医療・未承認医薬品等管理室との連携
 3. 職員への安全教育
 - ・ 講演会・講習会・DVD上映会・e-learning、院内事例報告会
 - ・ 医療安全ニュース、周知依頼事項の配信

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|------|
| ① 院内感染対策のための指針の策定状況 | 有・無 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策に関する基本方針 ・ 感染対策組織の概要 ・ 関連委員会及び会議の開催 ・ 感染制御部（ICT）の業務内容 教育、サーベイランス等 ・ 感染アウトブレイク（集団発生）時の対応 | |
| ② 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 年68回 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策委員会 1回/月（必要に応じて随時開催） 2. 感染制御部会議 1回/月（必要に応じて随時開催）※ 3. ICT会議 1回/月（必要に応じて随時開催）※ 4. 感染対策業務会議 2回/年（必要に応じて随時開催） 5. リンクナース会議 9回/年（感染対策業務会議含む） 6. 抗菌薬適正使用支援チーム 1回/月（必要に応じて随時開催）※ 7. ICT・ASTカンファレンス 1回/週（必要に応じて随時開催） <p>※2019年11月から「2. 感染制御部会議」「6. 抗菌薬適正使用支援チーム」、2020年1月から「3. ICT会議」について、「7. ICT・ASTカンファレンス」として、一緒に開催することとなった。</p> | |
| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 年14回 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> 2019年4月16日 『抗菌薬の適正使用』 2019年4月23日 『手指衛生(1)』 2019年5月7日 『経路別予防策』 2019年5月13日 『<リハビリテーション部対象> 基本的感染対策』 2019年5月30日 『手指衛生(1)-2』 2019年6月3日 『チーム移植医療検討会【感染プログラム】 <ul style="list-style-type: none"> ①「骨髄から臓器へ：造血幹細胞移植からのレッスン」 ②「固形臓器移植患者の感染管理のポイント」』 2019年6月25日 『日本専門医機構認定共通講習(会)【院内感染対策に関する講習会】手指衛生・薬剤耐性菌の動向と抗菌薬適正使用』 2019年7月11日 『手指衛生(1)-3』 2019年7月19日 『ブツブツ感染症』 2019年8月22日 『【DVD講習会】手指衛生(1)』 2019年12月6日 『休務が必要な感染症』 2020年2月21日 『新型コロナウイルス感染症の感染対策について』 2020年2月27日 『新型コロナウイルス感染症の感染対策について』 2020年2月28日 『新型コロナウイルス感染症の感染対策について』 | |

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 1. 感染対策サーベイランスの実施
 - ・ 薬剤耐性菌サーベイランス
 - ・ カテーテル関連尿路感染 (CAUTI) サーベイランス
 - ・ 中心静脈カテーテル関連血流感染 (CLABSI) サーベイランス
 - ・ カテーテル由来血流感染 (CRBSI) サーベイランス
 - ・ 手術部位感染サーベイランス
 - ・ 抗菌薬サーベイランス
 2. 職業感染防止及び血液体液曝露後の対策
 - ・ 入職時の抗体価検査 (B型肝炎、麻疹、水痘、ムンプス、風疹)
 - ・ ワクチン接種 (B型肝炎、インフルエンザ、麻疹、水痘、風疹、ムンプス)
 - ・ 針刺し防止マニュアル作成・周知、針刺し防止器材の積極的な導入
 - ・ 職業感染曝露後の対応
 - 針刺し、血液・体液曝露 (ワクチン、グロブリン等)
 - 結核 (IGRA: インターフェロン- γ 遊離試験、予防投薬)
 - 小児ウイルス性疾患 (抗体確認、緊急ワクチン接種、休務規定)
 - ・ 結核感染高リスク部署の職員への結核定期検診
 - ・ 透析スタッフへの肝炎検査

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|------------|----------------------|-----------|------|------------------------|-----------|------|--------------|-----------|----|-------------------------|-----------|------------|--|------------|-------------|--|------------|------------|
| ① 医薬品安全管理責任者の配置状況 | 有・無 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 年47回 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>・ 研修の主な内容： 医薬品での事故防止に係る本院職員の意識改革と安全管理、及び薬剤師としての資質向上のため次の通り研修会等を開催した。</p> <p><u>全職種を対象</u> ◆（医薬品安全使用のための研修会） 日時：2019年6月4日 17:30～18:00 参加人数：725名（当日受講：133名、DVD上映：386名、DVD貸出：206名） 演題：『医薬品の安全使用について ～インシデント事例から学ぶ～』 講師：医療安全管理部 山本 崇</p> <p><u>病棟スタッフを対象</u> ◆（医薬品安全使用のための研修会） 医薬品の使用上の注意点等について、病棟毎のニーズに合わせて、看護師・医師を主な対象とした研修会を開催している。病棟担当薬剤師が講師を務めている。年19回</p> <p><u>薬剤師を対象</u> ◆（医薬品安全使用のための研修会：採用医薬品説明会・部員会） 新規採用医薬品の説明会を毎月開催し、新規採用医薬品の説明と位置づけ及び添付文書改訂情報、安全性情報、医薬品の取扱い等についての説明と情報の共有化を図っている。年9回 また、毎月開催する部員会において、警鐘すべきインシデント事例の情報を共有し、再発防止策の検討と注意喚起を行い、業務改善に努めている。年12回</p> <p><u>新採用者を対象</u></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>◆（研修医・医師オリエンテーション講義）</td> <td>2019年4月1日</td> <td>179名</td> </tr> <tr> <td>◆（看護部新規採用者オリエンテーション講義）</td> <td>2019年4月2日</td> <td>174名</td> </tr> <tr> <td>◆（薬剤部新入職員講義）</td> <td>2019年4月1日</td> <td>8名</td> </tr> <tr> <td>◆（看護部静脈注射輸液管理認定プログラム講義）</td> <td>2019年4月5日</td> <td>12名（ビデオ講義）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2019年5月21日</td> <td>77名（LIVE講義）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2019年5月24日</td> <td>84名（ビデオ講義）</td> </tr> </table> | | ◆（研修医・医師オリエンテーション講義） | 2019年4月1日 | 179名 | ◆（看護部新規採用者オリエンテーション講義） | 2019年4月2日 | 174名 | ◆（薬剤部新入職員講義） | 2019年4月1日 | 8名 | ◆（看護部静脈注射輸液管理認定プログラム講義） | 2019年4月5日 | 12名（ビデオ講義） | | 2019年5月21日 | 77名（LIVE講義） | | 2019年5月24日 | 84名（ビデオ講義） |
| ◆（研修医・医師オリエンテーション講義） | 2019年4月1日 | 179名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ◆（看護部新規採用者オリエンテーション講義） | 2019年4月2日 | 174名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ◆（薬剤部新入職員講義） | 2019年4月1日 | 8名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ◆（看護部静脈注射輸液管理認定プログラム講義） | 2019年4月5日 | 12名（ビデオ講義） | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2019年5月21日 | 77名（LIVE講義） | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2019年5月24日 | 84名（ビデオ講義） | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>・ 手順書の作成 （有・無）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用に関すること 2. 医薬品の購入に関すること 3. 薬剤部における医薬品の管理に関すること 4. 病棟・各部門への医薬品の供給に関すること 5. 外来患者への医薬品使用に関すること 6. 病棟・外来・中央診療施設における医薬品の管理に関すること 7. 入院患者への医薬品使用に関すること | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

8. 医薬品の適正使用に関すること
9. 医薬品の安全使用に係る情報に関すること
10. 他施設（医療機関・薬局等）との連携に関すること

以上の業務内容について、手順書に基づく業務の実施状況を調査した。

○医薬品安全管理補助者の指名を受けた薬剤師が、「医薬品安全使用の業務手順書遵守確認票」により確認し、不十分な点は改善指導をした。

- ・ 外来・中央診療棟 各部署半期に1回を目安に実施
- ・ 病棟 2019年12月17日～24日実施
- ・ 薬剤部 2019年12月17日～20日実施

○いずれも最終的に医薬品安全管理責任者が確認をした。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)：
別紙1「未承認等の医薬品の具体的な使用事例」
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 1) 医師からの採用依頼があった新規医薬品に関して、採用開始6ヶ月及び1年後に、採用を申し出た医師に対して「新規採用医薬品副作用予備調査票」を送付・回収することにより、院内で発生した副作用情報を収集している。
 - 2) 副薬剤部長1名が薬剤部リスクマネージャーを兼任し、毎週開催される安全管理ミーティングにて院内の情報を収集、業務改善を協議すると共に、医薬品関連のインシデントレポートをもとに薬剤部内に警鐘事例を周知している。また副薬剤部長間でインシデント情報を共有し、薬剤業務改善の方策を立てることで医薬品安全使用の質的改善を推進している。
 - 3) 処方・注射オーダーリングシステムに対し、インシデントレポートで提議された報告を基に薬剤誤投与防止機能について運用を含めて修正し、医師の業務負担を軽減し、医療事故を未然に防止すると共に、必要なデータベースを構築し、維持・管理している。
 - 4) 全職員を対象に、緊急安全性情報や医薬品・医療機器等安全性情報などの注意喚起情報、医薬品の採用・削除などの医薬品情報をアナウンスメールで発信している。アナウンスメールしたものの中からピックアップして、リスクマネージャー会議で周知依頼するとともに、周知状況を確認している。
 - 5) オーダーリングシステムによる警告(相互作用、過量投与、アレルギー既往歴、妊婦禁忌、等を含む)を通過した処方せんは、調剤時に薬剤師が電子カルテ記載内容を確認し、処方内容に疑義がある場合は医師に照会している。適応外使用や禁忌の使用については「適応外・禁忌・未承認薬データベース」に入力している。
 - 6) 入院患者の持参薬の内容確認を薬剤師が行い、患者と面談して服薬状況等を情報収集するとともに、個々の患者に合わせたより適正な使用となるよう、医師に服薬計画を提案している。
 - 7) 病棟薬剤師が電子カルテ上で指示受けや処方内容評価をする際、用法・用量等のチェックに加えて、未承認薬や適応外使用に該当しないか、禁忌に該当しないかを把握し、該当する場合は医師に必要性を確認している。収集した情報は「適応外・禁忌・未承認薬データベース」に入力している。医薬品安全管理補助者がデータベースの内容を確認してまとめ、医薬品安全管理責任者に報告している。
 - 8) 医師との連携により、院外処方せん交付患者に対して初回投与時の抗がん剤の服薬指導を行い、副作用等の説明及びその対処を指導して、医薬品安全使用を推進している。

- 9) 地域保険薬局との連携の一環として、患者の検査値の一部を院外処方せんに記載している。保険薬局で処方監査時に検査値を参照することで、適正で安全な薬物療法推進につながる。
- 10) 保険薬局にて患者から聴き取った情報のうち、即時性は低いものの「処方医師への提供が望ましい」と判断された内容を服薬情報提供書(トレーシングレポート)で受け付けている。薬剤部にて集約したのち、医師へ情報提供を行い、情報の共有化を図っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|-------|
| ① 医療機器安全管理責任者の配置状況 | 有・無 |
| ② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 年161回 |
| <p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1. 放射線関連機器について</p> <p>○高度管理医療機器の研修として、以下の研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療用高エネルギー放射線発生装置と診療用放射線照射装置に関し以下の研修を実施した。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 2019年11月14日に関連する医療従事者を対象に第1回 診療用高エネルギー放射線発生装置の研修を実施した。(参加者 37名(内研修対象者 36名+外部 1名), 欠席 22名) 2) 2019年11月14日に関連する医療従事者を対象に第1回 診療用放射線照射装置の研修を実施した。(参加者 37名(内研修対象者 36名+外部 1名), 欠席 22名) 3) 2020年2月7日に関連する医療従事者を対象に第2回 診療用高エネルギー放射線発生装置の研修を実施した。(参加者 19名(内研修対象者 18名+外部 1名), 欠席 34名) 4) 2020年2月7日に関連する医療従事者を対象に第2回 診療用放射線照射装置の研修を実施した。(参加者 19名(内研修対象者 18名+外部 1名), 欠席 34名) <ul style="list-style-type: none"> * 欠席者に対しては資料確認により補講を実施 ○新規・更新装置導入時の研修として、以下の研修を実施した。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 手術室移動型X線透視装置 ① Cios Select FD, ② オーソスキャンFD(安全操作説明・緊急時対応)新規導入時研修。2019年4月1日 出席 71名(内研修対象者 70名 欠席1名) 2) 磁気共鳴画像診断装置 Vantage Galan 3T MRT-3020/9J(安全操作説明・緊急時対応)新規導入時研修。2019年7月29日 出席 36名(内研修対象者 19名 欠席3名 外部17名) 3) 移動型X線透視装置 ① MobileDaRtEvolution, ② Sirius Starmobile tiara airy, ③ 移動型X線撮影装置搭載X線平面検出器出力読取式デジタルラジオグラフ(安全操作説明・緊急時対応)新規導入時研修。2019年11月19日 出席 46名(内研修対象者 46名 欠席 17名) 4) 診療用高エネルギー放射線発生装置 Halcyon(安全操作説明・緊急時対応)新規導入時研修。2020年3月13日 出席 15名(内研修対象者 15名) 5) X線CT組合型ポジトロンCT装置: Discovery IQおよびX線CT組合型SPECT装置: NM/CT860, NM/CT 870DR(安全操作説明・緊急時対応)新規導入時研修。2020年3月13日 出席 7名(内研修対象者 7名 欠席1名) <ul style="list-style-type: none"> * 欠席者に対しては資料確認により補講を実施した。 <p>2. ME 関連機器について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 2019年度中に計13回医師・看護師・臨床工学技士を対象として人工呼吸器・血液浄化装置・除細動器・人工心肺装置及び補助循環装置等・閉鎖式保育器の安全な使用方法についての研修を実施した。除細動器及び人工呼吸器に関してはe-ラーニングでの研修を実施している。その他新規医療機器を含め合計138回の研修を実施している。 2) 2019年4月に新人看護師及び研修医を対象とした輸液・シリンジポンプ・人工呼吸器の使用方法について研修を実施した。 | |

③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況

- ・ 医療機器に係る計画の策定 (・ 無)
- ・ 機器ごとの保守点検の主な内容：
 1. 放射線関連機器について
 - ・ 放射線機器等については年度点検実施計画を作成し、各部門担当者を決めて以下の内容について定期的な点検を実施している。
 - 機器の動作状況、設定状況、制御状況、画質の確認・検査・清掃・試験・調整・記録及び医療機器安全管理責任者が確認、押印している。
 - 日々の始業終業点検について、各部門において担当者を決めて点検表にて確認、記録及び医療機器安全管理責任者が確認、押印している。
 - 高度な技術を要する修理、オーバーホールはメーカーに依頼している。
 2. ME 関連機器について
 - ・ 各医療機器の点検周期に沿って、院内での点検とメーカーによる点検を実施している。
 - 臨床工学技士の点検においては、実施可能なバッテリー交換・各種センサー・フィルター等の定期交換を実施している。
 - 高度な技術を要する修理、オーバーホールはメーカーに依頼している。

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (・ 無)
- ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば) :
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 1. 放射線関連機器について
 - ・ 一般撮影、血管造影、CT・透視、MR、RI、放射線治療系の各部門において、多職種 (医師、看護師、技師) での品質管理 (QA) 委員会を、月例または2～3ヶ月に1回程度開催している。
 - ・ 一般撮影+血管造影+CT・透視グループ、MR+RI グループ、放射線治療の3つのグループにおいて、診療放射線技師の定例会議を、月例で開催している。
 2. ME 関連機器について
 - ・ 医療機器に関する安全情報は医療安全管理室と協力して医療従事者に周知する体制をとっている。
 - ・ 医療機器の安全使用を目的として、中央管理機種の一統を推し進めている。
 - ・ 臨床工学技士が随時医療機器の安全な使用状況確認のための巡回を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

| | |
|--|----------|
| ① 医療安全管理責任者の配置状況 | ☑・無 |
| <p>・責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>常勤医師の副病院長（医療安全担当）を医療安全管理責任者として配置している。また、医療安全管理責任者は医療安全管理委員会の委員長であり、医療安全管理委員会のもとに医薬品安全管理小委員会（委員長：医薬品安全管理責任者）、医療機器安全管理小委員会（委員長：医療機器安全管理責任者）を統括している体制となっている。</p> | |
| ② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | ☑（11名）・無 |
| <p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>(1)原則として月1回、薬剤部開発のアプリケーション「医薬品使用状況」、薬剤管理指導支援システムPIGSの薬歴検索機能、薬剤物流システムの薬剤オーダー集計機能などを用い、医薬品の投薬及び注射の状況の把握を行っている。</p> <p>(2)医薬品医療機器情報配信サービス等を利用して、医薬品・医療機器の安全性に関する特に重要な情報を入手している。医薬品製造販売業者、卸売販売業者からの情報収集は、医薬品情報室で一元的に行っている。要対応と判断した事例は、随時、医薬品安全管理責任者に報告している。</p> <p>(3)院内で発生した医薬品の副作用、インシデント等の情報は、病棟薬剤師が随時収集・評価を行っている。また、医薬品の新規採用後6ヶ月、1年を経過した時点で、採用依頼を提出した医師に副作用調査票の提出を委嘱し、医薬品情報管理室で集約している。インシデント報告の情報は薬剤部リスクマネージャーを通して入手している。要対応と判断した事例は、随時、医薬品安全管理責任者に報告している。</p> <p>(4)疑義照会、質疑応答記録、処方内容評価を元にした「適応外・禁忌・未承認薬データベース」より、未承認等の医薬品の使用状況を把握し集計するとともに、月1回、医薬品安全管理責任者に報告している。</p> <p>(5)全職員を対象に、緊急安全性情報や医薬品・医療機器等安全性情報などの注意喚起情報、医薬品添付文書の改訂情報（禁忌の追加・解除など）、インシデント報告から安全使用上周知が必要と思われる医薬品情報などをアナウンスメールで発信している。これらをまとめた「適正な医薬品使用のための情報」を全リスクマネージャー宛に周知依頼し、各部署からの周知完了日等の報告をもって、実施状況を確認している。</p> <p>(6)薬剤使用時の注意点や薬剤に関する情報（インシデント報告を元にした対応を含む）を適宜「DIニュース」等で提供している。病棟薬剤師は資料を担当診療科・病棟にて周知し記録を残している。アナウンスメールでも同時に配信している。</p> <p>(7)病棟薬剤師は、医薬品の使用上の注意点等について、病棟毎のニーズに合わせて、看護師・医師を対象とした説明会を行い、実施の記録を残している。</p> | |

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

- (1) オーダリングシステムによる警告（相互作用、過量投与、アレルギー既往歴、妊婦禁忌を含む）を通過した処方せんは、調剤時に薬剤師が電子カルテ記載内容を確認し、処方内容に疑義がある場合は医師に照会している。禁忌や適応外の処方を変更せず使用する場合は、患者への説明とカルテ記載を依頼し、リスクに応じて、医薬品安全管理小委員会あるいは高難度医療・未承認医薬品等室への申請が必要なことを伝えている。収集した情報は「適応外・禁忌・未承認薬データベース」に入力している。
- (2) 病棟薬剤師が電子カルテ上で指示受けや処方内容評価をする際、用法・用量等のチェックに加えて、未承認薬や適応外使用に該当しないか、禁忌に該当しないかを把握し、該当する場合は医師に必要性を確認している。禁忌や適応外の処方を変更せず使用する場合は、患者への説明とカルテ記載を依頼し、リスクに応じて、医薬品安全管理小委員会あるいは高難度医療・未承認医薬品等管理室への申請が必要なことを伝えている。収集した情報は「適応外・禁忌・未承認薬データベース」に入力している。
- (3) 「適応外・禁忌・未承認薬データベース」に入力された情報は、病棟リーダー（医薬品安全管理補助者）が並行して確認し妥当性を評価している。さらに一覧表形式にまとめて医薬品安全管理責任者に報告し、指示事項があれば、病棟薬剤師を通じて医師にフィードバックしている。
- (4) 薬剤師が把握した未承認等の医薬品の使用に関する情報は「医薬品安全管理小委員会」に報告し情報共有している。

・担当者の指名の有無（・無）

・担当者の所属・職種：別紙2「医薬品安全管理補助者指名書」の通り

（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）
 （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）
 （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）
 （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（・無）

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：

年4回、診療科（部）毎に1か月5例を無作為に選択し、インフォームド・コンセントの過程がわかるように説明内容、説明時反応、同席者が記載されているか等、チェック項目に基づき確認を行っている。適切でない事例が認められた場合は、IC責任者より、上記の評価結果を医療問題対策・臨床倫理委員会へ報告するとともに、病棟医長・看護師長会議や病院協議会等を通じ、院内の各部署へ周知する。また、インフォームド・コンセントを受けた患者に対して、同席者の有無、理解、納得について年3回のアンケート調査を行い、インフォームド・コンセントの質向上に努めている。

| | |
|--|-----|
| ⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況 | 有・無 |
| <p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>責任者の監督下において診療情報管理士による診療録監査を年2回16診療科に実施しており、監査結果は病院長承認後に各診療科へフィードバックを行っている。</p> | |
| ⑥ 医療安全管理部門の設置状況 | 有・無 |
| <p>・所属職員：専従（3）名、専任（1）名、兼任（3）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名</p> <p>うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>うち看護師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（1）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インシデント・アクシデント報告に関すること。 ・医療安全管理対策の調査・分析及び指導に関すること。 ・医療安全管理対策の教育・研修に関すること。 ・定められた手順やルールが実践されているかどうかのモニタリング <p>①画像診断結果報告書の未確認件数（月別、診療科別）</p> <p>（ルール：放射線診断科医が読影診断結果を報告している。オーダー診療科の医師が報告内容を確認後、確認ボタンを押すと、報告書の内容がカルテに転記される。カルテへの転記がない場合、報告内容の確認がされていない可能性があるため、診断結果の見落としエラー対策として作成したルールである。併せて、未読影率をフィードバックする。）</p> <p>②注射薬調製時の確認手順の順守率</p> <p>（ルール：注射薬調製時は、注射指示簿と薬剤・ラベルの照合、ラベルと準備された薬剤を照合する。照合後は直ちに調製する。）</p> <p>③注射薬を患者に投与する直前に、照合端末を用いて、薬剤ラベルと患者リストバンドを照合した率（月別、病棟別）</p> <p>（ルール：注射薬投与時は患者誤認事故をゼロにするため、ひとによる確認+器械による確認を組み合わせる）</p> <p>④抗がん剤の調製確定後の変更件数（月別、診療科別）</p> <p>（ルール：医師が抗がん剤を前日締め切り時刻までにオーダーし、前日締め切り後に薬剤師が監査する。当日10時までに医師は、患者に投与してよいか患者の状態やデータで判断し、調製確定を入力する。薬剤師は確定されたオーダーに基づいて薬剤を調製する）</p> <p>⑤バイタルデータターミナルを用いてバイタルデータを転送している率（月別、病棟別）</p> <p>（ルール：血圧、体温、SpO2、脈拍などのデータは、患者ベッドサイドに設置した端末にかざすことで、当該患者の電子カルテにタイムリーに転送される。今までは、看護師が電子カルテに転記していたため、測定時刻から転記まで時間がかかっていた。また誤記も散見された）</p> <p>⑥患者誤認報告件数</p> <p>（ルール：全ての医療・看護行為を実施する際は、患者自身にフルネームで名乗らせる。名乗れない場合は、リストバンドもしくは診察券で確認をする。）</p> <p>⑦患者受け持ち忘れ報告件数</p> <p>（ルール：受け持ち看護師は、勤務初めに受け持ち登録を実施する。各勤務帯リーダー看護師は、勤務開始後1時間以内に受け持ち患者登録漏れがないかを確認する。</p> | |

- ・ ルールの逸脱（やむを得ない場合も含む）をインシデント報告対象として、逸脱件数を測定する。
 - ①入院患者へのリストバンド未装着（月別、病棟別）
（全員にリストバンドを装着するルールがあるが、皮膚の脆弱性などでやむを得ない場合も含め、未装着は全例報告する）
 - ②高濃度カリウム製剤投与に関する院内規程からの逸脱事例
（医学的理由があっても、ルールから逸脱している場合には報告しておく）
- ・ リスクアセスメント（褥瘡リスク・転倒リスク）のアウトカムを評価するための事故件数のモニタリング
 - ①院内褥瘡発生率
 - ②転倒転落事故発生
- ・ その他医療安全管理対策に関すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 4 件）、及び許可件数（ 4 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：

「京都大学医学部附属病院高難度新規医療技術取扱規程」において、高難度新規医療技術の定義、高難度新規医療技術の提供に係る申請事項（既存の技術との優位性、医療提供体制の整備状況、執刀医等の経験、患者への説明同意の取得方法等）、倫理委員会審査の受審、実施体制の確認及び報告、遵守状況の確認、病院長への報告など、高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合における必要な事項、遵守・確認すべき事項について規定している。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 67 件）、及び許可件数（ 56 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・無 ）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・無 ）
- ・活動の主な内容：

「京都大学医学部附属病院未承認新規医薬品等取扱規程」において、未承認新規医薬品等を用いた医療の定義、未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に係る申請事項（既存の医薬品等との優位性、未承認新規医薬品等の使用条件、有害事象の把握方法、患者への説明同意の取得方法等）、倫理委員会審査の受審、実施体制の確認及び報告、遵守状況の確認、病院長への報告など、未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合における必要な事項、遵守・確認すべき事項について規定している。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・無 ）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ・無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 257 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 148 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

医療サービスに起因し、影響度レベルが重症・重大なものについて、医療安全管理室は、毎月開催の医療安全管理委員会にて報告する。委員会では、これらのうち、調査が必要と判断したものについては、外部委員を含めるか含めないかなども含め、調査方法を決定する。また、影響度レベルが3a以下または未遂であっても、インシデントが潜在的に危険を有しているものがあれば、調査を命じることがある。医療安全管理委員会の審議結果は病院長に報告される。調査結果についても医療安全管理委員会及び病院長に報告される。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（ （病院名：広島大学病院） ・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ （病院名：山梨大学医学部附属病院） ・無）

・技術的助言の実施状況

立入り後に技術的助言を含む報告書として取りまとめ、相手方病院へ送付した。

立入り受入れ後には相手方病院から技術的助言を含む報告書を受け取り院内で周知対応した。

1. オカレンス報告など、合併症事例についての積極的な取り組みの推奨があり、これに対し、報告を促すとともに、M&Mカンファレンスレポートの提出を推進する仕組みを作った。
2. Quality Indicator などについても情報収集するよう助言があり、現在、婦人科手術について現状を分析中である。また、国立大学附属病院医療安全管理協議会 QI プロジェクト WG に本院も参加し、Quality Indicator について意見交換をしている。
3. 一般的な医薬品と抗がん剤で適応外使用は審議する委員会を分けており、運用管理上複雑になるとの指摘を受け、適応外審査の委員会を医薬品安全管理責任者の下に集約した。抗がん剤を審議する委員会は倫理的観点の審査は行われていないとの指摘があり、倫理部門の教員を委員に追加した。
4. 適応外使用の申請が必要か否かの判断はチェックシートを用いて実施されているが、基準が不明確な部分があるとの指摘を受け、申請するか否かの判断は、チェックシートに加え、薬剤師を含む複数の担当者間で協議することとした。
5. 院内の規程では、適応外使用の適否、遵守状況を病院長に報告する旨が記載されているが、可及的速やかに、可能であれば、病院長の承認後に使用することを提案された。院内で検討したが、今後も法の求めの範囲内である高難度医療・未承認医薬品等管理室長が提供の適否を決定し、その内容について病院長に報告する運用を継続することとした。
6. 新規医療機器に関して、ME 等も含めた審議について検討するよう助言があったが、本院では高難度医療・未承認医薬品等管理室に手術部長及び医療機器安全管理責任者が在席しているため、メンバーの追加は行わないこととした。
7. 高難度新規医療技術部門の審議結果について、病院長の承認後に高難度新規医療技術の提供を行うよう推奨があったが、今後も法の求めの範囲内である高難度医療・未承認医薬品等管理室長が提供の適否を決定し、その内容について病院長に報告する運用を継続することとした。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

本院には患者やその家族からの相談、苦情に対して適切な処理を行うことを目的とする患者相談窓口がある。

各診療科（部）は、患者等からの相談内容について、患者相談窓口から対応を要請された場合は、責任をもって協力するものとする。

各診療科（部）に患者支援担当者を置き、患者等からの相談内容について患者相談窓口と連携し、責任をもって対応するものとする。

各診療科（部）のリスクマネージャーが、患者支援担当者として兼務する。

相談内容が医療安全に関する事項については、インシデント報告を行い、医療安全管理部門が把握する。

⑫ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

全職員を対象に集合型講習会の複数回の開催、講習会の院内動画配信、DVDの貸出を実施し、講習会の参加を促している。

また、ISOや医療安全にかかる項目について、いつでも受講可能なe-learningを整備し、受講状況をモニタリングしている。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

| | |
|-------------|-----------------------------------|
| 管理者 | : 特定機能病院管理者研修 (R1. 10. 28、12. 17) |
| 医療安全管理責任者 | : 特定機能病院管理者研修 (R2. 1. 7) |
| 医薬品安全管理責任者 | : 特定機能病院管理者研修 (R2. 1. 7) |
| 医療機器安全管理責任者 | : 特定機能病院管理者研修 (R1. 12. 17-18) |

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

| |
|--|
| <p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療法第10条に規定された病院の管理者として要件を満たす医師であること。 2. 大学附属病院の管理運営に必要な資質・能力を有すること。 3. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有すること。 4. 京都大学医学部附属病院の基本理念を理解し、その実現に向けた強い意思とリーダーシップを有すること。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・ 公表の方法 大学ホームページに掲載 http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/publication/conference/ihoukoku/hospital/rinen.html |
|--|

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

| | | | | |
|---|--|---------------|------|-------|
| 前年度における管理者の選考の実施の有無 | 有・ <input checked="" type="checkbox"/> | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有・無) ・ 公表の方法 | | | | |
| 管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由 | | | | |
| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 選定理由 | 特別の関係 |
| | | | | 有・無 |

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・~~無~~）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容：別紙4のとおり

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ・ 副病院長（診療、労務担当）、副病院長（経営、施設担当）、副病院長（研究担当）、副病院長（医療安全、広報担当）
 - ・ 病院長補佐（病院長が指示した特定の事項について企画立案及び連絡調整）
 - ・ 運営企画室（病院長の指示により病院運営及び経営に関し、情報の収集及び分析を行うとともに必要事項について企画立案し、病院長に提言する。）

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - ・ 次世代の病院執行部を担う人材の育成を目的としたワークショップ「第2回病院経営次世代リーダー養成塾」へメディカルスタッフを派遣。
 - ・ 病院協議会構成員を病院長補佐へ積極的に選任し、週1回開催される執行部会議に出席させることで病院マネジメントを経験させている。
 - ・ 本院が開講する「実践的医療経営プロフェッショナル教育事業プログラム（KUMAHOPE）」を職員に受講させている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

| | |
|---|-----|
| 監査委員会の設置状況 | 有・無 |
| <p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容： 本院における医療安全管理に係る業務執行状況の監査、及び監査結果に基づき、必要に応じて総長や病院長に対し是正措置を講じるよう意見する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 公表の方法：京都大学ホームページに掲載</p> | |

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 選定理由 | 利害関係 | 委員の要件 該当状況 |
|-------|--|---------------|---------------------------------|------|---------------|
| 潮見 佳男 | 京都大学副学 長（法務・コン プライアンス 担当） | | 総長が指名する副 学長 | 有・無 | 3 |
| 平野 哲郎 | 立命館大学 法科大学院教授 | | 法律に関する専門 的知識を有する者 | 有・無 | 1 |
| 佐和 貞治 | 京都府立医科大 学医療安全管理 部部長 | | 医療に係る安全管 理に関する専門的 知識を有する者 | 有・無 | 1 |
| 伊藤 英樹 | 広島大学病院 医療安全管理部 部長 | | 医療に係る安全管 理に関する専門的 知識を有する者 | 有・無 | 1 |
| 山口 育子 | 認定 NPO 法人 ささえあい医療 人権センター COML 理事長 | ○ | 医療を受ける者そ の他の医療従事者 以外の者 | 有・無 | 2 |

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

監査を担当する理事のもとに公正調査監査室を設置しており、同室により本院管理者の業務が法令に適合していることを確保するための監査を行うこととしている。

・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (・ 無)

・ 公表の方法：ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

| 開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況 | | | |
|---|-----------------------------------|---------------|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 以下に掲げる委員7名以上で組織されており、うち過半数は②の委員で構成されている。 ①総長が指名する理事又は副学長 ②本学の役員又は職員以外の者のうちから総長が任命するもの ③その他本学の教職員のうちから総長が必要と認める者 若干名 議長は①の委員のうち、総長が指名するものを充てており、委員の半数以上の出席で会議を開会する。 ・ 会議体の実施状況（ 年1回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（ 年1回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> ） ・ 公表の方法 | | | |
| 病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：京都大学医学部附属病院業務監督会議 | | | |
| 会議体の委員名簿 | | | |
| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 利害関係 |
| 潮見 佳男 | 京都大学副学長（法務・コンプライアンス担当） | ○ | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| 村上 章 | 京都大学理事（財務担当）、副学長 | | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| 黒田 啓史 | 京都市立病院機構 京都市立病院 院長 | | 有・ <input checked="" type="checkbox"/> |
| 田中 一成 | 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院 院長 | | 有・ <input checked="" type="checkbox"/> |
| 邊見 公雄 | 全国自治体病院協議会 名誉会長 | | 有・ <input checked="" type="checkbox"/> |
| 松井 道宣 | 京都府医師会 会長 | | 有・ <input checked="" type="checkbox"/> |
| 山口 育子 | 認定NPO法人 ささえあい医療人権センター COML 理事長 | | 有・ <input checked="" type="checkbox"/> |

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

| 窓口の状況 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 通報件数 (年〇件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 周知の方法 : 院内ホームページに掲載 |

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

| | |
|--|-----|
| ① 病院の機能に関する第三者による評価の有無 | 有・無 |
| ・評価を行った機関名、評価を受けた時期 ビューローベリタスジャパン株式会社 ISO9001:2015, JIS Q 9001:2015 2020年1月27日～29日 | |

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

| | |
|--|-----|
| ① 果たしている役割に関する情報発信の有無 | 有・無 |
| ・情報発信の方法、内容等の概要 病院のホームページ(http://kuhp.kyoto-u.ac.jp)及び広報誌「京大病院広報」(http://kuhp.kyoto-u.ac.jp/outline/publish.html)により、各診療科の紹介、院内活動の報告等を行っている。 | |

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

| | |
|--|-----|
| ① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無 | 有・無 |
| ・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 1) 「集学的がん診療ユニット」と呼ばれる診療科横断的な診療体制を構築している。がん種ごとに専門とする内科医・外科医・放射線治療医、あるいは病理診断医・放射線診断医・各種医療スタッフが、診療科・職種を越えてカンファレンス・診療を行い、迅速かつ最適な治療を提供している。また、がん種ごとに毎週定期カンファレンスを実施することにより、患者の情報および専門性の高い知識を共有することで医療の質を高め、専門医・スタッフの教育の場としても大きな効果を上げている。さらに、分子標的薬やがん免疫チェックポイント阻害薬の普及により、全身管理を必要とする有害事象対策が求められており、非がん領域の様々な診療科との連携体制を構築し、治療を受ける患者の安全対策に万全を期している。 | |

2) 2019年6月より遺伝子パネル検査が保険適応となり、がんゲノム中核拠点病院としてがんゲノム医療を先進的に提供する体制を構築している。全国の17のがんゲノム連携病院と連携し遺伝子パネル検査施行症例に関して、京大をホストに各施設とWeb会議でエキスパートパネルと呼ばれるカンファレンスを開催している。エキスパートパネルでは、各施設から腫瘍内科医、病理医、腫瘍外科医、婦人科医、脳外科医、小児科医、臨床遺伝専門医、遺伝カウンセラーなどの複数の職種が参加して、非常に活発な議論を行い治療方針を提示し、高度な医療を提供している。

未承認等の医薬品の具体的な使用事例

禁忌・未承認・適応外のデータベース集計

2019/04/01～2020/03/31

| 情報入手日 | 分類 | 薬剤分類 | 薬剤名 | 診療科 | 使用目的 |
|------------|-----|------|----------------------------|------------|------------------------------|
| 2019/04/10 | 適応外 | 抗がん剤 | ゲムシタピン、ドセタキセル | 整形外科 | 軟部腫瘍 |
| 2019/04/11 | 適応外 | 抗がん剤 | ゲムシタピン | 腫瘍内科 | 腹壁の脂肪肉腫に使用 |
| 2019/04/12 | 適応外 | 抗がん剤 | フルオロウラシル、オキサリプラチン (FOLFOX) | 腫瘍内科 | 尿管管癌1st line治療 |
| 2019/04/15 | 適応外 | 抗がん剤 | グリベック錠100mg | 皮膚科 | c-kit陽性のメラノーマに対する治療 |
| 2019/04/08 | 適応外 | 要注意薬 | プロポフォール、プレセデックス | 呼吸器内科 | 一般病棟での人工呼吸中の鎮静 |
| 2019/04/09 | 適応外 | 要注意薬 | トルリシティ0.75、グリクラジド錠 | 糖尿病内分泌栄養内科 | 1型糖尿病患者に対するトルリシティ、グリクラジド錠の使用 |
| 2019/04/09 | 適応外 | 要注意薬 | プレセデックス | 肝胆膵移植外科 | 一般病棟入室中だが他薬では鎮静できずやむなく使用 |
| 2019/04/11 | 適応外 | 要注意薬 | クリアクター静注用40万 40万国際単位 | 眼科 | 黄斑下出血に対するt-PAの使用 |
| 2019/04/03 | 適応外 | その他 | アルプロスタジルアルファデクス 500μg | 呼吸器外科 | 肺移植後の血流維持 |
| 2019/04/03 | 適応外 | その他 | ラスリテック点滴静注用1.5mg | 小児科 | がん化学療法に伴う高尿酸血症、2倍量の投与(1日あたり) |
| 2019/04/05 | 適応外 | その他 | シクロスポリンカプセル、ネオールカプセル | 呼吸器内科 | 間質性肺炎 |
| 2019/04/09 | 適応外 | その他 | サムスカ | 呼吸器内科 | SIADHIに対してサムスカ使用 |
| 2019/04/10 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン | 肝胆膵移植外科 | 感染予防のため |
| 2019/04/11 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生風しんワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2019/04/11 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2019/04/12 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2019/04/12 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生風しんワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2019/04/12 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2019/04/12 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生風しんワクチン | 肝胆膵移植外科 | 感染予防のため |

| 情報入手日 | 分類 | 薬剤分類 | 薬剤名 | 診療科 | 使用目的 |
|------------|-----|------|---------------------------|----------------|--|
| 2019/04/17 | 適応外 | 抗がん剤 | パクリタキセル、カルボプラチン | 泌尿器科 | 前立腺癌の化学療法 |
| 2019/04/23 | 適応外 | 抗がん剤 | パクリタキセル+カルボプラチン | 腫瘍内科 | 異所性肝細胞癌 |
| 2019/04/29 | 適応外 | 抗がん剤 | FOLFOX | 腫瘍内科 | 尿管管がんに対するmFOLFOX6 |
| 2019/04/29 | 適応外 | 抗がん剤 | イリノテカン | 腫瘍内科 | 食道NECに対するイリノテカン療法 |
| 2019/04/30 | 適応外 | 抗がん剤 | CPT-11/CBCDA | がん診療部 | NECに対する化学療法 |
| 2019/05/08 | 適応外 | 抗がん剤 | CBCDA/PEM | 呼吸器内科 | 悪性中皮腫 |
| 2019/05/10 | 適応外 | 抗がん剤 | ペメトレキセド+シスプラチン | 腫瘍内科 | 腹膜中皮腫に対する治療(胸膜中皮腫に準じて治療) |
| 2019/05/13 | 適応外 | 抗がん剤 | ABR-W/CBDCA | がん診療部 | 肺大細胞神経内分泌癌 |
| 2019/05/14 | 適応外 | 抗がん剤 | カルセド | がん診療部 | 胸腺癌 |
| 2019/05/15 | 適応外 | 抗がん剤 | ドセタキセル+ゲムシタビン | 腫瘍内科 | 後腹膜脂肪肉腫 |
| 2019/04/17 | 適応外 | 要注意薬 | ミダゾラム | 産婦人科 | 終末期の鎮静 |
| 2019/04/18 | 適応外 | 要注意薬 | デュピクセント | 皮膚科 | アトピー性皮膚炎 |
| 2019/04/19 | 適応外 | 要注意薬 | ミダゾラム注 | 呼吸器内科 | 一般病棟での人工呼吸中の鎮静 |
| 2019/04/22 | 適応外 | 要注意薬 | メトトレキセート2.5mg | 免疫膠原病内科 | 血管炎 |
| 2019/04/22 | 適応外 | 要注意薬 | スロンノンHI注10mg/2mL | 脳神経内科 | BAD疑いの脳梗塞に対してスロンノン60mg 48時間持続投与のあと、40mg 72時間持続投与、20mg 12時間持続投与 |
| 2019/04/23 | 適応外 | 要注意薬 | アクテムラ点滴静注用 | 免疫・膠原病内科 | 再発性多発軟骨炎 |
| 2019/05/07 | 適応外 | 要注意薬 | レベタン注 | 放射線治療科 | 放射線粘膜炎増強 |
| 2019/05/08 | 適応外 | 要注意薬 | ロラゼパム | 放射線治療科 | 持参薬ワイパックス2mg/日 |
| 2019/05/09 | 適応外 | 要注意薬 | ケブサラ皮下注オートインジェクター | 免疫膠原病内科 | 成人スチル病 不明熱 |
| 2019/04/16 | 適応外 | 麻薬 | レミフェンタニル静注用5mg | 産科 | 分娩時の疼痛緩和 |
| 2019/04/17 | 適応外 | 麻薬 | レミフェンタニル静注用5mg | 産科 | 分娩時の疼痛緩和 |
| 2019/04/23 | 適応外 | 麻薬 | レミフェンタニル静注用5mg | 産科 | 分娩時の疼痛緩和 |
| 2019/05/09 | 適応外 | 麻薬 | レミフェンタニル静注用5mg | 産科 | 分娩時の疼痛緩和 |
| 2019/04/16 | 適応外 | その他 | アイピーディカプセル100mg | 眼科 | 間質性膀胱炎に対する治療 |
| 2019/04/17 | 適応外 | その他 | アルプロスタジル アルファアデクス500μg注射用 | 呼吸器外科 | 肺移植後の血流維持 |
| 2019/04/17 | 適応外 | その他 | オクトレオチド注100μg | 耳鼻咽喉科 | リンパ漏に対して |
| 2019/04/18 | 適応外 | その他 | コルヒチン | 免疫膠原病内科 | 結節性多発動脈炎 |
| 2019/04/22 | 適応外 | その他 | アムピゾーム点滴静注用50mg | 呼吸器外科 | 肺移植後の真菌感染治療 |
| 2019/04/23 | 適応外 | その他 | コルヒチン錠0.5mg | 免疫・膠原病内科(眼科入院) | 口腔潰瘍(免疫・膠原病内科) |
| 2019/05/09 | 適応外 | その他 | セルセプト | 血液内科 | 造血幹細胞移植後のGVHD予防 |
| 2019/04/17 | 禁忌 | その他 | スピロラクトン錠 | 肝胆膵移植外科 | 禁忌だがグラセプターと併用中 |
| 2019/04/22 | 禁忌 | その他 | コソプト配合点眼液 | 眼科 | 気管支喘息 |

| 情報入手日 | 分類 | 薬剤分類 | 薬剤名 | 診療科 | 使用目的 |
|------------|-------|------|---------------------------------|---------|--|
| 2019/05/16 | 適応外 | 抗がん剤 | カルボプラチン | 乳腺外科 | 乳がん |
| 2019/05/20 | 適応外 | 抗がん剤 | シスプラチン | 乳腺外科 | 乳癌に対する化学療法 |
| 2019/05/20 | 適応外 | 抗がん剤 | ロイスタチン注 | 血液内科 | ランゲルハンス組織球症 |
| 2019/05/27 | 適応外 | 抗がん剤 | ジオトリフ | 腫瘍内科 | 肺癌 |
| 2019/05/29 | 適応外 | 抗がん剤 | エスワンタイホウ | 腫瘍内科 | 食道癌の治療 |
| 2019/05/31 | 適応外 | 抗がん剤 | ヴオトリエント | 小児科 | 骨肉腫への治療目的 |
| 2019/06/06 | 適応外 | 抗がん剤 | パクリタキセル、カルボプラチン | 泌尿器科 | 前立腺癌の化学療法 |
| 2019/06/07 | 適応外 | 抗がん剤 | シスプラチン | 乳腺外科 | 乳がん |
| 2019/06/10 | 適応外 | 抗がん剤 | オブジーボ | 腫瘍内科 | 食道癌 |
| 2019/06/14 | 適応外 | 抗がん剤 | ドセタキセル | がん診療部 | 胸腺癌に対して |
| 2019/06/14 | 適応外 | 抗がん剤 | アブラキサン点滴静注用 | 呼吸器内科 | 小細胞肺癌に対するABR単剤療法 |
| 2019/05/24 | 適応外 | 要注意薬 | リクシアナ錠60mg | 糖内栄 | IVC filter留置後 filter血栓予防 |
| 2019/05/27 | 適応外 | 要注意薬 | ミダゾラム注 | 腫瘍内科 | 終末期の鎮静 |
| 2019/05/27 | 適応外 | 要注意薬 | ミダゾラム注 | 放射線治療科 | 疼痛増強に対する鎮静 |
| 2019/05/29 | 適応外 | 要注意薬 | バイアスピリン錠100mg | 血液内科 | 本態性血小板血症 |
| 2019/06/04 | 適応外 | 要注意薬 | リウマトレックスカプセル2mg | 眼科 | 神経ベーチェット病 |
| 2019/06/04 | 適応外 | 要注意薬 | ヒュミラ皮下注40mgシリンジ | 眼科 | 神経ベーチェット病 |
| 2019/06/11 | 適応外 | 要注意薬 | プロクラフ注射液2mg 0.4mL | 呼吸器内科 | 間質性肺炎急性増悪 |
| 2019/06/13 | 適応外 | 要注意薬 | セルセプト | 血液内科 | 造血幹細胞移植後のGVHD予防 |
| 2019/06/14 | 適応外 | 要注意薬 | ミダゾラム注 | 呼吸器内科 | 終末期の鎮静 |
| 2019/05/16 | 適応外 | その他 | アタラックス-P注射液(25mg/ml) 2.5%1mL | 消化管外科 | 不眠 |
| 2019/05/27 | 適応外 | その他 | PPSB-HT | 救急科 | リクシアナ内服患者の頭部外傷後脳出血のリバース |
| 2019/06/04 | 適応外 | その他 | コルヒチン錠0.5mg「タカタ」 | 眼科 | 神経ベーチェット病 |
| 2019/06/05 | 適応外 | その他 | クリアクター静注用40万 40万国際単位 | 眼科 | 黄斑下出血に対するt-PAの使用 |
| 2019/05/16 | 禁忌 | その他 | ドプスOD錠200mg | 心臓血管外科 | 透析患者の血圧維持 |
| 2019/05/20 | 禁忌 | その他 | グラセプター、スピロラクトン | 肝胆膵移植外科 | 併用禁忌だが以前より併用中 |
| 2019/05/30 | 禁忌 | その他 | カロナール錠200 200mg | 循環器内科 | 鎮痛 |
| 2019/06/10 | 禁忌 | その他 | カロナール錠200mg | 肝胆膵移植外科 | 脳死肝移植待ち患者。抜歯術後の鎮痛薬で持参薬のカロナール錠200mgを使用することとなった。 |
| 2019/06/12 | 適応外禁忌 | その他 | サイトテック錠 | 産科 | 子宮内胎児死亡に対する陣痛誘発 |

| 情報入手日 | 分類 | 薬剤分類 | 薬剤名 | 診療科 | 使用目的 |
|------------|-----|------|-------------------------|---------|-----------------------------------|
| 2019/06/17 | 適応外 | 抗がん剤 | アブラキサン点滴静注用 | 呼吸器内科 | 小細胞肺癌に対するABR単剤療法 |
| 2019/06/17 | 適応外 | 抗がん剤 | CBCDA/ABR | 呼吸器内科 | 胸腺癌に対する使用 |
| 2019/06/19 | 適応外 | 抗がん剤 | ドセタキセル | 皮膚科 | 乳房外パジェット病再発に対する治療 |
| 2019/06/25 | 適応外 | 抗がん剤 | CBCDA/ABR | 呼吸器内科 | 胸腺癌に対する使用 |
| 2019/07/02 | 適応外 | 抗がん剤 | スニチニブ | 皮膚科 | c-kit陽性imatinib耐性メラノーマ |
| 2019/07/02 | 適応外 | 抗がん剤 | エトポシド | 血内 | 活動性EBV感染症の治療 |
| 2019/07/09 | 適応外 | 抗がん剤 | イマチニブ錠 | 皮膚科 | 自己免疫性水疱症 |
| 2019/06/25 | 適応外 | 要注意薬 | デカドロンエリキシル0.01% | 耳鼻咽喉科 | 口腔慢性GVHDに対して |
| 2019/07/02 | 適応外 | 要注意薬 | メトレキサートカプセル2mg | 糖内 | 心サルコイドーシス |
| 2019/07/09 | 適応外 | 要注意薬 | シクロスポリンカプセル25mg | 皮膚科 | 結節性多発動脈炎 |
| 2019/07/11 | 適応外 | 要注意薬 | アザニン錠50mg | 免疫膠原病内科 | 中枢神経ループス、SLE |
| 2019/07/12 | 適応外 | 要注意薬 | リツキシマブ | 免疫膠原病内科 | TAFRO症候群として |
| 2019/07/12 | 適応外 | 要注意薬 | オランザピン錠 | 消化器内科 | 嘔気に対して(抗がん剤使用は無し) |
| 2019/06/20 | 適応外 | 麻薬 | オプソ5mg、MSコンチン錠10mg | 呼吸器内科 | 呼吸困難感 |
| 2019/06/19 | 適応外 | その他 | コルヒチン錠0.5mg | 循環器内科 | 心膜炎 |
| 2019/06/19 | 適応外 | その他 | セレネース錠0.75mg | 消化器内科 | 制吐 |
| 2019/06/19 | 適応外 | その他 | クリアクター静注用40万 40万国際単位 | 眼科 | 黄斑出血に対するt-PAの使用 |
| 2019/06/27 | 適応外 | その他 | クリアクター静注用40万 40万国際単位 | 眼科 | 黄斑下出に対するt-PAの使用 |
| 2019/07/03 | 適応外 | その他 | コルヒチン錠 | 免疫膠原病内科 | ペーチェット病 |
| 2019/07/03 | 適応外 | その他 | セルセプトカプセル | 血液内科 | 造血幹細胞移植後のGVHD予防 |
| 2019/07/11 | 適応外 | その他 | ウロナーゼ静注用6万単位 | 救急科 | 膿胸治療、肺隔壁融解目的 |
| 2019/07/14 | 適応外 | その他 | ピオスリー配合錠 | 産科 | 腸内細菌叢改善による早産予防 |
| 2019/07/01 | 禁忌 | 抗がん剤 | エスワンタイホウ配合OD錠T20 | 耳鼻咽喉科 | 食道癌術前の補助化学療法 |
| 2019/06/17 | 禁忌 | 要注意薬 | チクロピジン塩酸塩錠100mg | 眼科 | 硝子体出血時におけるチクロピジンの使用 |
| 2019/07/05 | 禁忌 | その他 | レボフロキサシン点滴bag500mg | 心臓血管外科 | stentrophomonas maltophilia感染に対して |

| 情報入手日 | 分類 | 薬剤分類 | 薬剤名 | 診療科 | 使用目的 |
|------------|-----|------|----------------------|---------|--|
| 2019/07/23 | 適応外 | 抗がん剤 | SOX療法(オキサリプラチン注+S-1) | 腫瘍内科 | 原発不明癌に対する治療 |
| 2019/07/29 | 適応外 | 抗がん剤 | ゲムシタピン+パクリタキセル | 泌尿器 | シスプラチン不耐容膀胱癌患者に対する化学療法 |
| 2019/08/05 | 適応外 | 抗がん剤 | メソトレキセート錠2.5mg | 小児 | 高安静脈炎 |
| 2019/08/05 | 適応外 | 抗がん剤 | シスプラチン | 消化器内科 | 肝細胞癌に対する肝動注 |
| 2019/08/07 | 適応外 | 抗がん剤 | S-1+カルボプラチン | 腫瘍内科 | 原発不明癌(扁平上皮癌)の治療 |
| 2019/07/22 | 適応外 | 要注意薬 | ガバペン錠 | 肝胆膵移植外科 | レストレスレッグス症候群に対して |
| 2019/07/24 | 適応外 | 要注意薬 | メトホルミン | 免疫膠原病内科 | 不妊治療 |
| 2019/07/31 | 適応外 | 要注意薬 | ミダゾラム注10mg | 耳鼻咽喉科 | 内服不可時、呼吸機能不安定患者の不眠 |
| 2019/08/02 | 適応外 | 要注意薬 | スロンノンHI注10mg/2mL | 脳神経内科 | 橋梗塞(BAD type)の再梗塞のリスク高い患者に対し、添付文書上限をこえたスロンノン60mg持続投与 |
| 2019/08/05 | 適応外 | 要注意薬 | リツキシマブ | 免疫膠原病内科 | 中枢神経ループス |
| 2019/08/08 | 適応外 | 要注意薬 | ネオラルカプセル | 免疫膠原病内科 | 成人スティル病(若年性関節リウマチ) |
| 2019/08/08 | 適応外 | 要注意薬 | アザニン アザチオプリン | 皮膚科 | 難治性尋常性天疱瘡 |
| 2019/08/09 | 適応外 | 要注意薬 | イムラン錠 | 皮膚科 | 類天疱瘡治療に対して |
| 2019/08/14 | 適応外 | 要注意薬 | ミゾリピン錠50mg | 腎内 | IgA腎症 |
| 2019/07/25 | 適応外 | 麻薬 | MSコンチン10mg | 皮膚科 | 皮膚びらん痛みにたいして |
| 2019/07/22 | 適応外 | その他 | ニコチン酸アミド散10% | 皮膚科 | 水疱性類天疱瘡治療 |
| 2019/07/23 | 適応外 | その他 | ゾピクロン | 腫瘍内科 | 17.5mg/日 |
| 2019/07/25 | 適応外 | その他 | アトロベントエロゾル20μg | 脳神経内科 | パーキンソン病の患者の流涎に対して使用 |
| 2019/07/30 | 適応外 | その他 | ダイアアップ坐剤 4mg | 耳鼻咽喉科 | 不眠時の頓用使用 |
| 2019/07/31 | 適応外 | その他 | アラバ | 免疫膠原病内科 | 成人スティル病 |
| 2019/08/02 | 適応外 | その他 | エクセグラン錠100mg | 脳神経内科 | パーキンソン病患者に対し、適応外使用のエクセグラン錠100mg投与 |
| 2019/08/07 | 適応外 | その他 | エタネルセプト | 血液内科 | 特発性肺炎症候群 |
| 2019/08/07 | 適応外 | その他 | アリセプトD錠3mg | 脳神経内科 | 進行性核上性麻痺疑いの患者の注意障害に対しアリセプト少量(3mg)投与。 |
| 2019/08/14 | 適応外 | その他 | セルセプトカプセル | 血液内科 | 造血幹細胞移植後のGVHD予防 |
| 2019/07/23 | 禁忌 | 要注意薬 | プログラフ スピロラクトン | 肝胆膵移植外科 | 併用禁忌だが4ヶ月前より併用中 |
| 2019/07/16 | 禁忌 | その他 | グラセプター | 肝胆膵移植外科 | 禁忌であるスピロラクトンを併用 |
| 2019/07/25 | 禁忌 | その他 | アデムバス、アドシルカ、レバチオ | 呼吸器外科 | 肺動脈性肺高血圧症 |
| 2019/08/06 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生水痘ワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2019/08/06 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン | 肝胆膵移植外科 | 感染予防のため |
| 2019/08/06 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生麻疹ワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2019/08/06 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生水痘ワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2019/08/09 | 禁忌 | その他 | トリキュラー錠28 | 整形外科 | 術前休薬なしの距骨壊死に対する搔爬骨移植術 |
| 2019/08/15 | 禁忌 | その他 | ルナベル配合錠ULD | 泌尿器科 | 術前休薬なしの尿管結石破砕術 |

| 情報入手日 | 分類 | 薬剤分類 | 薬剤名 | 診療科 | 使用目的 |
|------------|-----|------|-------------------------------------|------------------|---|
| 2019/08/20 | 適応外 | 抗がん剤 | カルボプラチン、パクリタキセル | 泌尿器科 | 前立腺癌に対する化学療法 |
| 2019/08/23 | 適応外 | 抗がん剤 | カルボプラチン注射液50mg | 呼吸器外科 | 癌性心膜炎にて心膜癒着目的 |
| 2019/08/29 | 適応外 | 抗がん剤 | FOLFIRINOX(オキサリプラチン、イリリテカン、レボホリナート) | 腫瘍内科 | 胆管癌に対する先進医療 |
| 2019/08/29 | 適応外 | 抗がん剤 | アブラキサン、カルボプラチン | がん診療部 | 胸腺癌 |
| 2019/08/29 | 適応外 | 抗がん剤 | ドセタキセル注 | 皮膚科 | 頭部血管肉腫 |
| 2019/08/30 | 適応外 | 抗がん剤 | ゲムシタピン、ドセタキセル | 整形外科 | 骨肉腫 |
| 2019/09/06 | 適応外 | 抗がん剤 | ロイケリン散10% | 消化器内科()眼科 入院 | クローン病寛解導入目的 |
| 2019/09/09 | 適応外 | 抗がん剤 | マイトマイシン注用2mg | 眼科 | 緑内障手術 |
| 2019/09/09 | 適応外 | 抗がん剤 | マイトマイシン注用2mg | 眼科 | 緑内障手術 |
| 2019/09/10 | 適応外 | 抗がん剤 | ロイケリン散10% | 消化器内科 | 潰瘍性大腸炎治療 |
| 2019/09/10 | 適応外 | 抗がん剤 | マイトマイシン注用2mg | 眼科 | 緑内障手術 |
| 2019/08/20 | 適応外 | 要注意薬 | リンデロンシロップ0.01% | 歯科口腔外科 | 扁平苔癬やベーチェット病の初発症状の可能性が高い重症口内炎患者に対して、リンデロンシロップ0.01% 49mL+ハリゾンシロップ100mg/mL 1mLを混合したものを1回10mL1日4回合嗽での使用。 |
| 2019/08/20 | 適応外 | 要注意薬 | セルセプトカプセル250 250mg | 皮膚科 | 尋常性天疱瘡 |
| 2019/08/23 | 適応外 | 要注意薬 | レペタン注 | 消化器内科 | 急性膵炎における疼痛 |
| 2019/09/10 | 適応外 | 要注意薬 | アムピゾーム | 血液内科 | 肺アスペルギルス症 |
| 2019/09/12 | 適応外 | 要注意薬 | プレセデックス | 呼吸器内科 | 一般病棟入室中だが他薬では鎮静できずやむなく使用 |
| 2019/09/12 | 適応外 | 要注意薬 | リウマトレックス | 免疫膠原病内科 | 結節性多発動脈炎に使用 |
| 2019/09/13 | 適応外 | 要注意薬 | リクシアナ | 消化器内科 | 門脈血栓治療 |
| 2019/09/11 | 適応外 | 麻薬 | ケタラール静注用200mg | 産婦人科 | 鎮痛 |
| 2019/08/22 | 適応外 | その他 | ミダフレッサ静注0.1% 10mg10mL | 脳神経内科 | 成人のてんかん重積状態に対しミダフレッサ静注0.1%の使用。 |
| 2019/08/22 | 適応外 | その他 | ミダゾラム注10mg | 脳神経内科 | 成人のてんかん重積状態へのミダゾラム注10mgの使用。 |
| 2019/08/26 | 適応外 | その他 | スクラルファート内用液10% | 放射線治療科 | 放射線性直腸炎に対し、注腸にて使用 |
| 2019/08/28 | 適応外 | その他 | オランザピン錠2.5mg | 乳腺外科 | フェントステープに対する嘔気を使用 |
| 2019/08/29 | 適応外 | その他 | ジフルカン静注液50mg | 眼科 | Candisa parapsilosisの除菌目的の点眼 |
| 2019/09/03 | 適応外 | その他 | ガバペン錠200mg | 脳神経内科(眼科入院) | 末梢神経障害 |
| 2019/09/06 | 適応外 | その他 | ザイロリック | 消化器内科(眼科入院) | 相互作用によりロイケリンの血中濃度を上昇させる |
| 2019/09/10 | 適応外 | その他 | コルヒチン錠0.5mg「タカタ」 | 免疫膠原病内科 | ベーチェット病 |
| 2019/09/05 | 禁忌 | 抗がん剤 | パクリタキセル・シスプラチン | 婦人科 | 子宮頸癌合併妊娠に対する化学療法 |
| 2019/08/19 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2019/08/19 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生風しんワクチン | 肝胆膵移植外科 | 感染予防のため |
| 2019/08/19 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン | 肝胆膵移植外科 | 感染予防のため |
| 2019/08/19 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生風しんワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2019/08/19 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2019/08/20 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生風しんワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2019/08/20 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生風しんワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2019/08/20 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2019/08/23 | 禁忌 | その他 | ベサコリン散 | 他院の泌尿器科 | 気管支喘息患者への使用 |
| 2019/08/27 | 禁忌 | その他 | ノリレン錠10mg | 泌尿器科 | 疼痛に対して使用中 |
| 2019/08/29 | 禁忌 | その他 | コソプト配合点眼液 | 眼科 | 喘息既往患者に対するβ受容体遮断薬の使用 |
| 2019/09/10 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生風しんワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2019/09/13 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン | 肝胆膵移植外科 | 感染予防のため |
| 2019/09/13 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生水痘ワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2019/09/13 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生風しんワクチン | 肝胆膵移植外科 | 感染予防のため |
| 2019/09/13 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生風しんワクチン | 肝胆膵移植外科 | 感染予防のため |

| 情報入手日 | 分類 | 薬剤分類 | 薬剤名 | 診療科 | 使用目的 |
|------------|-----|------|-------------------------|---------|---------------------|
| 2019/09/17 | 適応外 | 抗がん剤 | アフィニトール | がん薬物治療科 | 大腸がんに対するアフィニトール使用 |
| 2019/09/18 | 適応外 | 抗がん剤 | マイトマイシン注用2mg | 眼科 | 緑内障手術 |
| 2019/09/18 | 適応外 | 抗がん剤 | マイトマイシン注用2mg | 眼科 | 緑内障手術 |
| 2019/09/19 | 適応外 | 抗がん剤 | シスプラチン | 乳腺外科 | 乳がん |
| 2019/09/20 | 適応外 | 抗がん剤 | マイトマイシン注用2mg | 眼科 | 緑内障手術 |
| 2019/09/25 | 適応外 | 抗がん剤 | マイトマイシン注用2mg | 眼科 | 緑内障手術 |
| 2019/10/02 | 適応外 | 抗がん剤 | マイトマイシン注用2mg | 眼科 | 緑内障手術 |
| 2019/10/03 | 適応外 | 抗がん剤 | ドセタキセル | 腫瘍内科 | 血管肉腫 |
| 2019/10/08 | 適応外 | 抗がん剤 | マイトマイシン注用2mg | 眼科 | 緑内障手術 |
| 2019/10/09 | 適応外 | 抗がん剤 | マイトマイシン注用2mg | 眼科 | 緑内障手術 |
| 2019/10/09 | 適応外 | 抗がん剤 | マイトマイシン注用2mg | 眼科 | 緑内障手術 |
| 2019/10/11 | 適応外 | 抗がん剤 | マイトマイシン注用2mg | 眼科 | 緑内障手術 |
| 2019/10/11 | 適応外 | 抗がん剤 | マイトマイシン注用2mg | 眼科 | 緑内障手術 |
| 2019/10/16 | 適応外 | 抗がん剤 | マイトマイシン注用2mg | 眼科 | 緑内障手術 |
| 2019/10/16 | 適応外 | 抗がん剤 | マイトマイシン注用2mg | 眼科 | 緑内障手術 |
| 2019/10/16 | 適応外 | 抗がん剤 | マイトマイシン注用2mg | 眼科 | 緑内障手術 |
| 2019/10/09 | 適応外 | 要注意薬 | ミダゾラム注10mg | 腫瘍内科 | 苦痛緩和のための鎮静 |
| 2019/10/15 | 適応外 | 要注意薬 | 効ロリス | 免疫膠原病内科 | 成人Still病 |
| 2019/10/03 | 適応外 | その他 | イーケブラドライシロップ50% | 小児科 | 新生児痙攣に対して |
| 2019/10/03 | 適応外 | その他 | イソプロピルウノプロストン(レスキュラ)点眼液 | 眼科 | 黄斑浮腫に対して1日4回使用 |
| 2019/10/16 | 適応外 | その他 | アムビゾーム点滴静注用50mg | 呼吸器外科 | 慢性肺アスペルギルス症 |
| 2019/09/19 | 禁忌 | 抗がん剤 | CDDP | 放射線治療科 | 食道癌に対するCDDP併用放射線療法 |
| 2019/10/02 | 禁忌 | 要注意薬 | アザチオプリンとアロプリノールの併用 | 消化器内科 | 5-ASA不耐患者の潰瘍性大腸炎の治療 |
| 2019/10/08 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生風しんワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2019/10/08 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2019/10/08 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |

| 情報入手日 | 分類 | 薬剤分類 | 薬剤名 | 診療科 | 使用目的 |
|------------|-----|------|-----------------|---------|-------------------------|
| 2019/10/25 | 適応外 | 抗がん剤 | シスプラチン | 乳腺外科 | 乳がん |
| 2019/11/06 | 適応外 | 抗がん剤 | ドセタキセル | 皮膚科 | エクリン汗孔癌 |
| 2019/11/08 | 適応外 | 抗がん剤 | アドセトリス | 血液内科 | びまん性大細胞型B細胞リンパ腫 |
| 2019/11/11 | 適応外 | 抗がん剤 | ロイケリン散 | 消化器内科 | クローン病治療 |
| 2019/11/14 | 適応外 | 抗がん剤 | ロイケリン散 | 消化器内科 | クローン病治療 |
| 2019/11/14 | 適応外 | 抗がん剤 | パクリタキセル | 皮膚科 | 頬部血管肉腫に対する治療 |
| 2019/10/15 | 適応外 | 要注意薬 | タクロリムス | 免疫膠原病内科 | 成人Still病 |
| 2019/10/23 | 適応外 | 要注意薬 | リツキサン | 腎臓内科 | 急速進行性糸球体腎炎 |
| 2019/10/23 | 適応外 | 要注意薬 | オレンシア | 小児科 | CTLA4ハプロ不全症 |
| 2019/11/13 | 適応外 | 要注意薬 | イムラン錠50mg | 皮膚科 | Cronkhite-Canada症候群 |
| 2019/11/18 | 適応外 | 要注意薬 | セルセプト | 血液内科 | 造血幹細胞移植後のGVHD予防 |
| 2019/11/11 | 適応外 | 麻薬 | ケタラール | 腫瘍内科 | 鎮痛 |
| 2019/10/16 | 適応外 | 要注意薬 | アムピゾーム点滴静注用50mg | 呼吸器外科 | 慢性肺アスペルギルス症 |
| 2019/10/25 | 適応外 | その他 | サイトテック錠200 | 産科 | 分娩後子宮収縮・止血 |
| 2019/10/29 | 適応外 | その他 | サイトテック錠200 | 産科 | 分娩後子宮収縮・止血 |
| 2019/11/05 | 適応外 | その他 | タクロリムス軟膏0.1% | 耳鼻咽喉科 | 乾癬 |
| 2019/11/05 | 適応外 | その他 | コルヒチン錠0.5mg | 耳鼻咽喉科 | ベーチェット病 |
| 2019/11/06 | 適応外 | その他 | 無水エタノール注 | 形成外科 | 血管奇形に対する硬化療法 |
| 2019/11/12 | 適応外 | その他 | コルヒチン錠 | 免疫膠原病内科 | 神経ベーチェット病 |
| 2019/11/15 | 適応外 | その他 | エイゾプト懸濁性点眼液1% | 眼科 | 網膜色素変性症に伴う黄斑浮腫 |
| 2019/10/21 | 禁忌 | 要注意薬 | バイアスピリン | 眼科 | 硝子体出血中の抗血栓薬内服 |
| 2019/10/30 | 禁忌 | 要注意薬 | グラセプター | 肝胆膵 | スピロラクトン併用 |
| 2019/11/01 | 禁忌 | 要注意薬 | グラセプター、スピロラクトン | 肝胆膵移植外科 | 併用禁忌だが治療上必要なため以前より併用継続中 |
| 2019/11/14 | 禁忌 | 要注意薬 | バイアスピリン錠100mg | 産科 | 妊娠高血圧症候群の予防 |
| 2019/11/13 | 禁忌 | その他 | リマチル錠 | 泌尿器科 | RA治療(腎機能低下あり) |

| 情報入手日 | 分類 | 薬剤分類 | 薬剤名 | 診療科 | 使用目的 |
|------------|-----------|------|-------------------|---------|--|
| 2019/11/20 | 適応外 | 抗がん剤 | メトトレキサート2.5mg | 免疫膠原病内科 | 慢性進行性神経Behcet病 |
| 2019/11/25 | 適応外 | 抗がん剤 | メトトレキサート点滴静注50mg | 産科婦人科 | 異所性妊娠によるメトトレキサート療法 |
| 2019/11/28 | 適応外 | 抗がん剤 | テモダールカプセル | 皮膚科 | 脳転移再発メラノーマに対する治療 |
| 2019/12/04 | 適応外 | 抗がん剤 | フルダラ | 小児 | T-ALL |
| 2019/12/05 | 適応外 | 抗がん剤 | ピシバニール | 皮膚科 | 難治性潰瘍の離開部分への癒着目的 |
| 2019/12/09 | 適応外 | 抗がん剤 | アブラキサン点滴静注用100mg | がん診療部 | 胸腺癌に対する使用 |
| 2019/12/09 | 適応外 | 抗がん剤 | カルボプラチン注 | 整形外科 | 転移性骨腫瘍に対する脊椎全摘術時の局所散布 |
| 2019/12/10 | 適応外 | 抗がん剤 | シスプラチン | 乳腺外科 | 乳腺 |
| 2019/12/11 | 適応外 | 抗がん剤 | ロイケリン散 | 消化器内科 | 潰瘍性大腸炎の寛解導入・維持 |
| 2019/11/18 | 適応外 | 要注意薬 | セルセプト | 血液内科 | 造血幹細胞移植後のGVHD予防 |
| 2019/11/18 | 適応外 | 要注意薬 | ガバペン錠200mg | 血液内科 | 鎮痛目的 |
| 2019/12/09 | 適応外 | 要注意薬 | ミコフェノール酸モフェチル | 呼吸器内科 | 間質性肺炎 |
| 2019/12/05 | 適応外 禁忌 | その他 | プラケニル錠200mg | 小児科 | 肺胞蛋白症に対して使用 |
| 2019/11/15 | 適応外 | その他 | エイゾプト懸濁性点眼液1% | 眼科 | 網膜色素変性症に伴う黄斑浮腫 |
| 2019/11/19 | 適応外 | その他 | フオイパン錠100mg | 心臓血管外科 | 慢性DIC |
| 2019/12/03 | 適応外 | その他 | シクレスト舌下錠5mg | 婦人科 | 制吐 |
| 2019/12/05 | 適応外 | その他 | コルヒチン錠0.5mg「タカタ」 | 眼科 | ベーチェット病 |
| 2019/12/05 | 適応外 | その他 | セレコックス錠100mg | 産科婦人科 | 切迫早産に対する子宮収縮抑制目的 |
| 2019/12/12 | 適応外 | その他 | ゼンタコートカプセル | 血液内科 | 腸管GVHDに対する治療 |
| 2019/12/13 | 適応外 | その他 | コルヒチン錠0.5mg | 呼吸器外科 | 急性心膜炎の治療 |
| 2019/12/16 | 適応外 | その他 | アルギU配合顆粒 | 脳神経内科 | MELAS(ミトコンドリア脳筋症・乳酸アシドーシス・脳卒中様発作症候群)に対し、タウリン、ノイキノンでコントロール不良の患者。追加内服としてアルギU配合顆粒を選択。 |
| 2019/11/28 | 禁忌 | 要注意薬 | シロスタゾール | 皮膚科 | うっ血性心不全併発しているASO治療目的 |
| 2019/11/21 | 禁忌 | その他 | ミケランLA点眼液 | 肝胆膵移植外科 | 喘息既往あるが持参あり |
| 2019/12/02 | 禁忌 | その他 | ボスミン注 | 整形外科 | α1遮断薬服用中の膝関節周囲カクテル注射 |
| 2019/12/05 | 禁忌 | その他 | プロチゾラムOD錠0.25mg | 眼科 | 不眠症 |
| 2019/12/05 | 禁忌 | その他 | クロチアゼパム錠5mg | 眼科 | 不安症状 |
| 2019/12/13 | 禁忌 | その他 | サイモグロブリン点滴静注用25mg | 肝胆膵移植外科 | 再投与は原則禁忌だが、拒絶あり再投与が必要 |

| 情報入手日 | 分類 | 薬剤分類 | 薬剤名 | 診療科 | 使用目的 |
|------------|-----|------|---------------------|-------------|--|
| 2019/12/17 | 適応外 | 抗がん剤 | ビルルビン注 | 呼吸器内科 | 胸腺がんに対するビルルビン療法 |
| 2019/12/17 | 適応外 | 抗がん剤 | テモダール錠 | 皮膚科 | 難治性再発メラノーマ |
| 2019/12/19 | 適応外 | 抗がん剤 | ベルケイド | 免疫膠原病内科 | M蛋白血症によるγグロブリン血症 |
| 2020/01/07 | 適応外 | 抗がん剤 | ゲムシタビン、ドセタキセル | 整形外科 | 滑膜肉腫 |
| 2019/12/16 | 適応外 | 要注意薬 | アスピリン末 | 脳外科 | もやもや病に対する脳梗塞予防 |
| 2019/12/25 | 適応外 | 要注意薬 | プラケニル(クロロキン) | 消化器内科 | 関節リウマチに対し当院免疫膠原病内科からの処方 |
| 2019/12/26 | 適応外 | 要注意薬 | リクシアナOD錠30mg | 脳内科 | 塞栓源不明の脳梗塞 |
| 2020/01/07 | 適応外 | 要注意薬 | シロスタゾールOD錠50mg | 循環器内科 | 難治性不整脈に対しての投与 |
| 2020/01/08 | 適応外 | 要注意薬 | アザニン、アザチオプリン | 眼科 | 視神経炎 |
| 2020/01/10 | 適応外 | 要注意薬 | アザチオプリン、アザニン錠50mg | 眼科 | 視神経炎 |
| 2020/01/14 | 適応外 | 要注意薬 | プロGRAF注 | 消化器内科 | ステロイド抵抗性UC |
| 2019/12/16 | 適応外 | その他 | アルギU配合顆粒 | 脳神経内科 | MELAS(ミトコンドリア脳筋症・乳酸アシドーシス・脳卒中様発作症候群)に対し、タウリン、ノイキノンでコントロール不良の患者。追加内服としてアルギU配合顆粒を選択。 |
| 2019/12/24 | 適応外 | その他 | レミケード点滴静注用100 100mg | 小児科 | ADA2欠損症 |
| 2019/12/26 | 適応外 | その他 | フィブリノゲンHT | 小児科 | CAR-T療法後のFIB低下に対する補充 |
| 2019/12/27 | 適応外 | その他 | モンテルカスト | 消化器内科 | 蛋白漏出性胃腸症 |
| 2019/12/28 | 適応外 | その他 | フィブリノゲンHT | 心臓血管外科 | 術後のFIBの低下 |
| 2019/12/29 | 適応外 | その他 | ペンタサ顆粒 | 消化器内科(眼科入院) | クロンカイト・カナダ症候群 |
| 2020/01/14 | 適応外 | その他 | アルギニン点滴静注30g | 脳神経内科 | ミトコンドリア脳症に対する治療 |
| 2019/12/18 | 禁忌 | 要注意薬 | ホスカビル | 血内 | HHV-6脳炎 |
| 2019/12/19 | 禁忌 | 要注意薬 | エリキユース錠2.5mg | 循環器内科 | 心房細動患者における血栓塞栓症の予防 |
| 2020/01/10 | 禁忌 | 要注意薬 | メタクト配合錠HD | 泌尿器科 | eGFR18.3mL/minであり、禁忌に該当 |
| 2019/12/23 | 禁忌 | その他 | コソプト配合点眼液 | 眼科 | 喘息既往あるが以前より継続使用中(コソプト配合点眼液による喘息発作は認められない) |
| 2020/01/07 | 禁忌 | その他 | ミノサイクリン | 小児科 | パニツムマブによるぞ瘡予防 |

| 情報入手日 | 分類 | 薬剤分類 | 薬剤名 | 診療科 | 使用目的 |
|------------|-----|------|---------------------------|----------|--|
| 2020/01/16 | 適応外 | 抗がん剤 | イマチニブ錠100mg | 皮膚科 | 水疱性類天疱瘡治療 |
| 2020/01/21 | 適応外 | 抗がん剤 | パクリタキセル注 | 皮膚科 | 頭部血管肉腫に対する治療 |
| 2020/01/22 | 適応外 | 抗がん剤 | カルセド、シスプラチン | 呼吸器内科 | 胸腺腫瘍 |
| 2020/01/27 | 適応外 | 抗がん剤 | ハーセプチン | 皮膚科 | アポクリン腺癌に対する治療 |
| 2020/01/27 | 適応外 | 抗がん剤 | パージェタ | 皮膚科 | アポクリン腺癌に対する治療 |
| 2020/01/27 | 適応外 | 抗がん剤 | ドセタキセル | 皮膚科 | アポクリン腺癌 |
| 2020/01/29 | 適応外 | 抗がん剤 | パクリタキセル | 皮膚科 | 乳房外パジェット病に対する治療 |
| 2020/02/03 | 適応外 | 抗がん剤 | シスプラチン | 乳腺外科 | ホルモン受容体陰性・HER2陰性乳癌、Basal-like乳癌の術前化学療法 |
| 2020/02/03 | 適応外 | 抗がん剤 | カルボプラチン、イリノテカン、テモゾロミド | 小児 | 神経芽腫 |
| 2020/02/05 | 適応外 | 抗がん剤 | パクリタキセル、カルボプラチン | 泌尿器 | 前立腺癌に対する化学療法 |
| 2020/01/23 | 適応外 | 要注意薬 | イムラン50mg | 皮膚科 | 水疱性類天疱瘡治療 |
| 2020/01/30 | 適応外 | 要注意薬 | リスペリドン錠 | 精神神経科 | 強迫性障害に対するリスペリドン錠の使用 |
| 2020/02/03 | 適応外 | 要注意薬 | エリキユース錠5mg | 呼吸器内科 | 心房細動否定的な右房内血栓に対する抗凝固療法 |
| 2020/02/03 | 適応外 | 要注意薬 | アザニン アロプリノール | 消化器内科 | アザニンの作用増強目的 |
| 2020/02/08 | 適応外 | 要注意薬 | アクトテムラ皮下注162mgシリンジ | リウマチセンター | 全身型若年性特発性関節炎に対して |
| 2020/02/13 | 適応外 | 要注意薬 | ホスカビル | 皮膚科 | 類天疱瘡治療のステロイド内服下のCMV予防 |
| 2020/01/16 | 適応外 | その他 | 無水エタノール注 | 皮膚科 | 難治性殿部褥瘡治療 離開部癒着目的 |
| 2020/01/16 | 適応外 | その他 | ウロナーゼ静注用24万単位 | 初期診療・救急科 | 胸膜癒着のため、胸腔内のタンパク融解目的 |
| 2020/01/22 | 適応外 | その他 | レクチゾール錠25mg | 皮膚科 | 皮膚型結節性多発動脈炎 |
| 2020/01/30 | 適応外 | その他 | アクトテムラ | 免疫膠原病内科 | キャッスルマン病 |
| 2020/02/03 | 適応外 | その他 | レミケード点滴静注用100 100mg | リウマチセンター | 若年性特発性関節炎 |
| 2020/02/03 | 適応外 | その他 | 献血ヴェノグロブリンIH | 呼吸器外科 | 抗ドナー抗体陽性肺移植患者の脱感作療法 |
| 2020/02/05 | 適応外 | その他 | プレマリン錠 | 皮膚科 | 性同一性障害への女性ホルモン補充療 |
| 2020/02/07 | 適応外 | その他 | オクトレオチド | NICU | 乳び胸水の治療 |
| 2020/02/13 | 適応外 | その他 | オクソラレン錠10mg、オクソラレンローション1% | 皮膚科 | 成人T細胞性リンパ腫の皮膚症状での光線療法 |
| 2020/01/20 | 禁忌 | 要注意薬 | プログラフ スピロラクトン | 肝胆膵移植外科 | 併用禁忌だが治療上必要のため併用開 |
| 2020/02/05 | 禁忌 | 要注意薬 | プログラフ スピロラクトン | 肝胆膵移植外科 | 肝移植後浮腫強く、スピロラクトン(+フロセミド)が必要となった |
| 2020/01/21 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生水痘ワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2020/01/21 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生麻疹ワクチン | 肝胆膵移植外科 | 感染予防のため |
| 2020/01/21 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生麻疹ワクチン | 肝胆膵移植外科 | 感染予防のため |
| 2020/01/21 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生水痘ワクチン | 肝胆膵移植外科 | 感染予防のため |
| 2020/01/21 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生水痘ワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2020/01/21 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生水痘ワクチン | 肝胆膵移植外科 | 感染予防のため |
| 2020/01/21 | 禁忌 | その他 | グラセフター スピロラクトン | 肝胆膵移植外科 | 併用禁忌だが以前より両剤併用中 |
| 2020/01/28 | 禁忌 | その他 | ベサコリン散5% | 眼科 | 排尿困難 |

| 情報入手日 | 分類 | 薬剤分類 | 薬剤名 | 診療科 | 使用目的 |
|------------|-----|------|-----------------|---------|--|
| 2020/02/19 | 適応外 | 抗がん剤 | イマチニブ | 皮膚科 | 自己免疫性水疱症治療目的 |
| 2020/02/20 | 適応外 | 抗がん剤 | カルボプラチン・パクリタキセル | 泌尿器 | 尿膜管癌 2nd line |
| 2020/03/04 | 適応外 | 抗がん剤 | アブラキサン、カルボプラチン | 呼吸器内科 | 胸腺癌 |
| 2020/03/09 | 適応外 | 抗がん剤 | ピシバニール注射用5KE | 呼吸器外科 | 胸膜癒着術 |
| 2020/03/09 | 適応外 | 抗がん剤 | エトポシド、シスプラチン | 呼吸器内科 | LCNEC |
| 2020/03/13 | 適応外 | 抗がん剤 | テモゾロミド錠 | 脳神経外科 | 下垂体腺腫重症例に対するテモゾロミド150mg/m ² 投与。 |
| 2020/03/17 | 適応外 | 抗がん剤 | ピシバニール注射用5KE | 呼吸器外科 | 胸膜癒着術 |
| 2020/03/04 | 適応外 | 要注意薬 | セルセプトカプセル | 呼吸器内科 | 間質性肺炎 |
| 2020/03/09 | 適応外 | 要注意薬 | ガバペン錠200mg | 精神神経科 | s/o FTLD+PSP。興奮強く、鎮静目的に使用。ガイドライン上推奨されているSSRIなど他剤無効であり開始。 |
| 2020/03/16 | 適応外 | 麻薬 | オプソ内用液 | 呼吸器内科 | 咳嗽 |
| 2020/03/05 | 適応外 | その他 | レキサプロ錠 | 精神神経科 | 前頭側頭葉変性症(FTLD)の行動障害改善のため |
| 2020/02/17 | 適応外 | その他 | レミケード | 消化器内科 | クローン病 |
| 2020/02/19 | 適応外 | その他 | ベセルナクリーム | 皮膚科 | 陰囊EMPDの局所療法 |
| 2020/03/13 | 禁忌 | 要注意薬 | サインバルタカプセル20mg | 泌尿器 | 疼痛コントロール |
| 2020/02/14 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生風しんワクチン | 肝胆膵移植外科 | 感染予防のため |
| 2020/02/14 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生風しんワクチン | 肝胆膵移植外科 | 感染予防のため |
| 2020/02/14 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2020/02/14 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン | 肝胆膵移植外科 | 感染予防のため |
| 2020/02/14 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生水痘ワクチン | 肝胆膵移植外科 | 感染予防のため |
| 2020/03/09 | 禁忌 | その他 | ロスバスタチン | 肝胆膵移植外科 | 肝硬変患者には禁忌 |

| 情報入手日 | 分類 | 薬剤分類 | 薬剤名 | 診療科 | 使用目的 |
|------------|-----|------|--------------------------------------|---------|--------------------|
| 2020/03/17 | 適応外 | 抗がん剤 | ピシパニール注射用5KE | 呼吸器外科 | 胸膜癒着術 |
| 2020/03/26 | 適応外 | 抗がん剤 | シスプラチン | 乳腺外科 | 乳癌 |
| 2020/03/30 | 適応外 | 抗がん剤 | ゲムシタピン ドセタキセル | 整形外科 | 骨肉腫 |
| 2020/03/19 | 適応外 | 要注意薬 | ブレドニン錠 | 泌尿器科 | BCG 萎縮膀胱に対して使用 |
| 2020/03/23 | 適応外 | 要注意薬 | プログラフ | 消化器内科 | 難治性クローン病の寛解導入 |
| 2020/03/25 | 適応外 | 要注意薬 | スロンノンH注10mg/2mL | 脳神経内科 | 脳梗塞 |
| 2020/03/26 | 適応外 | 要注意薬 | バイアスピリン錠100mg | 免疫内科 | DVT |
| 2020/03/30 | 適応外 | 要注意薬 | ウロキナーゼ注 | 脳神経内科 | 膿胸 |
| 2020/03/16 | 適応外 | 麻薬 | オプソ内用液 | 呼吸器内科 | 咳嗽 |
| 2020/03/23 | 適応外 | その他 | ウトロゲスタン腔用カプセル 200mg | 産科 | 絨毛膜下血腫を伴う切迫流産の治療目的 |
| 2020/03/25 | 適応外 | その他 | ノイキノン錠 | 形成外科 | ミトコンドリア脳筋症 |
| 2020/03/25 | 適応外 | その他 | クリアクター静注用40万 40万国際単位 | 眼科 | 黄斑下出血に対するt-PAの使用 |
| 2020/03/25 | 適応外 | その他 | ウトロゲスタン腔用カプセル 200mg | 産科 | 絨毛膜下血腫を伴う切迫流産の治療目的 |
| 2020/03/31 | 適応外 | その他 | アロプリノール錠 | 泌尿器科 | 腫瘍崩壊症候群の予防 |
| 2020/03/31 | 適応外 | その他 | アピガン錠200mg | 腎内 | COVID-19に対する投薬 |
| 2020/03/31 | 適応外 | その他 | オルベスコ200μgインヘラー-56 吸入用 11.2mg3.3g | 腎内 | COVID-19に対する投薬 |
| 2020/03/19 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生水痘ワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2020/03/19 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生水痘ワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2020/03/19 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2020/03/23 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2020/03/23 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2020/03/23 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生風しんワクチン | 肝胆臓移植外科 | 感染予防のため |
| 2020/03/23 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生水痘ワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2020/03/23 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生風しんワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |
| 2020/03/30 | 禁忌 | その他 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン | 小児外科 | 感染予防のため |

令和 2 年 4 月 1 日

京都大学医学部附属病院
医薬品安全管理責任者 中川貴之

医薬品安全管理補助者指名書

医療法施行規則第九条の二十の二* 第一項第三号イ及びロに掲げる措置を適切に実施するため、担当者として下記の者を指名します。

*平成三十年改正省令

記

| 所 属 | 職 名 | 氏 名 | 指 名 日 |
|-----|-------|--------|----------------------|
| 薬剤部 | 副薬剤部長 | 米澤 淳 | 平成 2 8 年 9 月 2 8 日 |
| | 副薬剤部長 | 深津 祥央 | 平成 2 8 年 9 月 2 8 日 |
| | 副薬剤部長 | 池見 泰明 | 平成 2 8 年 9 月 2 8 日 |
| | 副薬剤部長 | 北田 徳昭 | 平成 3 1 年 4 月 1 8 日 |
| | 副薬剤部長 | 今井 哲司 | 平成 3 1 年 4 月 1 8 日 |
| | 薬剤師 | 石塚 良子 | 平成 2 8 年 9 月 2 8 日 |
| | 助教 | 中川 俊作 | 平成 2 9 年 1 0 月 2 日 |
| | 助教 | 糸原 光太郎 | 令和 2 年 4 月 1 日 |
| | 薬剤主任 | 猪熊 容子 | 平成 2 8 年 1 2 月 1 2 日 |
| | 薬剤主任 | 祝 千佳子 | 平成 2 9 年 1 2 月 1 3 日 |
| | 薬剤主任 | 老本名津子 | 平成 2 8 年 9 月 2 8 日 |
| | 薬剤主任 | 岡村みや子 | 平成 3 0 年 9 月 3 日 |
| | 薬剤主任 | 尾崎 淳子 | 平成 2 8 年 9 月 2 8 日 |
| | 薬剤主任 | 山際 岳朗 | 平成 2 8 年 9 月 2 8 日 |

| | | | |
|--|------|-------|-------------|
| | 薬剤主任 | 吉田 優子 | 平成28年9月28日 |
| | 薬剤師 | 朝倉佳代子 | 平成31年4月18日 |
| | 薬剤師 | 石橋 直哉 | 平成28年12月12日 |
| | 薬剤師 | 上杉 美和 | 平成28年9月28日 |
| | 薬剤師 | 大石佳代子 | 令和2年4月1日 |
| | 薬剤師 | 梶原 望渡 | 平成31年4月18日 |
| | 薬剤師 | 川田 将義 | 平成28年12月12日 |
| | 薬剤師 | 北野 治廣 | 平成30年9月3日 |
| | 薬剤師 | 佐藤栄里子 | 平成30年9月3日 |
| | 薬剤師 | 佐藤 裕紀 | 平成30年9月3日 |
| | 薬剤師 | 重面 雄紀 | 平成30年1月4日 |
| | 薬剤師 | 杉本 充弘 | 平成28年9月28日 |
| | 薬剤師 | 都築 徹教 | 平成31年4月18日 |
| | 薬剤師 | 松田 裕也 | 平成28年9月28日 |
| | 薬剤師 | 松村 勝之 | 平成31年4月18日 |
| | 薬剤師 | 丸山志穂子 | 平成28年12月12日 |
| | 薬剤師 | 森田真樹子 | 平成28年12月12日 |
| | 薬剤師 | 森田 洋亮 | 平成28年9月28日 |
| | 薬剤師 | 山嶋 仁実 | 平成31年4月18日 |
| | 薬剤師 | 山本 将太 | 平成28年12月12日 |

病 院 協 議 会

別紙3

2020年10月1日(木)

| | 氏 名 | | 氏 名 |
|----|---------------------------|----|------------------------------------|
| 1 | 宮 本 教 授 (病院長) (脳神経外科) | 28 | 中 本 准教授 (放射線診断科) |
| 2 | 伊 達 教 授 (副病院長) (呼吸器外科) | 29 | 福 田 教 授 (麻酔科) |
| 3 | 高 折 教 授 (副病院長) (血液内科) | 30 | 吉 田 准教授 (脳神経外科) |
| 4 | 松 田 教 授 (副病院長) (整形外科) | 31 | 森 本 教 授 (形成外科) |
| 5 | 平 井 教 授 (副病院長) (呼吸器内科) | 32 | 湊 谷 教 授 (心臓血管外科) |
| 6 | 稲 垣 教 授 (糖尿病・内分泌・栄養内科) | 33 | 羽 賀 教 授 (病理診断科) |
| 7 | 木 村 教 授 (循環器内科) | 34 | 秦 准教授 (臓器移植医療部) |
| 8 | 妹 尾 教 授 (消化器内科) | 35 | 池 田 特定教授 (てんかん・運動異常生理学講座) |
| 9 | 森 信 教 授 (免疫・膠原病内科) | 36 | 河 井 病院教授 (総合周産期母子医療センター) |
| 10 | 大 鶴 教 授 (初期診療・救急科) | 37 | 近 藤 (英) 准教授 (総合周産期母子医療センター) |
| 11 | 高 橋 教 授 (脳神経内科) | 38 | 近 藤 (祥) 准教授 (高齢者医療ユニット) |
| 12 | 柳 田 教 授 (腎臓内科) | 39 | 長 尾 教 授 (検査部) |
| 13 | 武 藤 教 授 (腫瘍内科) | 40 | 松 村 教 授 (医療安全管理部) |
| 14 | 恒 藤 教 授 (緩和医療科) | 41 | 黒 田 教 授 ※医師以外 (医療情報企画部) |
| 15 | 小 濱 准教授 (消化管外科) | 42 | 上 嶋 特定教授 (相談支援センター) |
| 16 | 戸 井 教 授 (乳腺外科) | 43 | 小 杉 教 授 (倫理支援部) |
| 17 | 田 浦 准教授 (肝胆膵・移植外科) | 44 | 大 菊 特任教授 ※医師以外 (医療開発部) |
| 18 | 増 井 准教授 (小児外科) | 45 | 森 田 教 授 ※医師以外 (クリニカルトリアルサイエンス部) |
| 19 | 辻 川 教 授 (眼科) | 46 | 永 井 特定教授 (臨床研究支援部) |
| 20 | 万 代 教 授 (産科婦人科) | 47 | 中 島 教 授 (早期医療開発科) |
| 21 | 滝 田 教 授 (小児科) | 48 | 澤 本 教 授 (人間健康科学系専攻長) |
| 22 | 椛 島 教 授 (皮膚科) | 49 | 陳 特定教授 (呼吸管理睡眠制御学) |
| 23 | 小 川 教 授 (泌尿器科) | 50 | 小 西 (靖) 教 授 (医学教育推進センター) |
| 24 | 大 森 教 授 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科) | 51 | 伊 藤 特定教授 (研修センター) |
| 25 | 村 井 教 授 (精神科神経科) | 52 | 中 川 准教授 ※医師以外 (薬剤部) |
| 26 | 別 所 教 授 (歯科口腔外科) | 53 | 井 川 ※医師以外 看 護 部 長 |
| 27 | 溝 脇 教 授 (放射線治療科) | 54 | 佐々木 ※医師以外 事 務 部 長 |

管理者権限の明確化について

厚生労働省令

- 管理者が有する病院の管理運営に係る権限及び病院の管理運営のために必要となる一定の人事・予算執行権限について明確化することを求める。
- 管理者が有する権限を明確化した内部規程を特定機能病院の承認申請時に提出させるとともに、毎年報告させることで確認する。

病院の管理運営に係る権限

1. 京都大学医学部附属病院規程に次のように定めている。

(略)

第2条 病院に、病院長を置く。

2 病院長は、理事又は医学研究科若しくは病院の専任の教授をもつて充てる。

3 病院長は、病院の院務を掌理する。

(略)

第13条 この規程に定めるもののほか、病院の内部組織については、病院長が定める。

(略)

2. 京都大学医学部病院協議会規程に次のように定めている。病院協議会は、病院運営に関する合議体である。

(略)

第2条 協議会は、副病院長、病院長補佐、診療科の科長、診療部門の各部、室、センター及びユニットの長のうち医学研究科及び医学部附属病院の教授又は准教授、中央施設部門の各部、室及びセンターの長、運営部門の各部、室及びセンターの長のうち医学研究科及び医学部附属病院の教授又は准教授、先端医療研究開発機構の各部、センターの長及び副センター長（院内調整担当）、臨床研究・研修部門の各センター、部及び室の長、看護部長、薬剤部長、医療情報企画部長並びに事務部長をもつて組織する。

2 前項に掲げるもののほか、病院教授の称号を付与された者を協議会組織に加えるものとする。

3 前2項に掲げるもののほか、医学研究科附属医学教育・国際化推進センター専任教授及び医学研究科人間健康科学系専攻長を協議会組織に加えるものとする。

4 前3項に掲げるもののほか、病院長が必要と認めるときは、協議会の議を踏まえて、医学研究科、医学部又は病院の教授、准教授又は講師を加えることができる。

第3条 病院協議会は、毎月1回病院長が招集し、議長となる。ただし、必要があるときは臨時に招集することができる。

(略)

3. 京都大学医学部附属病院執行部内規に次のように定めている。病院執行部は、病院の業務に関し迅速な意思決定を行い、病院執行部会議において企画・実施する。

(設置)

第1条 京都大学医学部附属病院規程第13条の規定に基づき、京都大学医学部附属病院（以下「病院」という。）に、病院の業務に関し迅速な意思決定を行うため、京都大学医学部附属病院執行部（以下「病院執行部」という。）を置く。

(組織)

第2条 病院執行部は、次の各号に掲げる者で組織する。

(1) 病院長

(2) 副病院長

(3) 病院長補佐

(4) その他病院長が必要と認めた者

(業務)

第3条 病院執行部の業務は、次に掲げるとおりとする。

(1) 病院の診療、教育、研究に関する企画及び実施に関すること。

(2) 病院の経営に関する企画及び実施に関すること。

(3) その他重要事項に関すること。

(病院執行部会議)

第4条 前条の業務を企画・実施するため、病院執行部に病院執行部会議（以下「会議」という。）を置く。

(議長)

第5条 病院長は、会議を招集し、その議長となる。

2 議長に事故あるときは、副病院長のうち議長が指名する者がその職務を代理する。

(略)

人事権限

1. 京都大学医学部附属病院規程に次のように定めている。

第6条 病院に、診療部門として、次の部、室、センター及びユニットを置く。

デイ・ケア診療部

臓器移植医療部

遺伝子診療部

心臓血管疾患集中治療部

女性のこころとからだの相談室

脳卒中診療部

がんセンター

リウマチセンター

もやもや病支援センター

高度生殖医療センター

頭蓋底腫瘍センター

てんかん診療支援センター

総合周産期母子医療センター
児童思春期こころの相談センター
黄斑疾患治療センター
高齢者医療ユニット
漢方診療ユニット

2 前項に掲げる各組織に関し必要な事項は、病院長が定める。

各組織の長は、各組織の内規において一定の対象者から病院長が指名すると定めているか、本規定条文にて必要な事項を病院長が定めることとされている。

第7条 病院に、中央施設部門として、次の部、室及びセンターを置く。

検査部
感染制御部
手術部
放射線部
救急部
リハビリテーション部
医療器材部
人工腎臓部
病理部
疾患栄養治療部
集中治療部
内視鏡部
臨床心理室
細胞療法センター
高圧酸素治療室

2 前項に掲げる各組織に関し必要な事項は、病院長が定める。

各組織の長は、各組織の内規において一定の対象者から病院長が指名するあるいは委嘱すると定めている。

第8条 病院に、運営部門として、次の部、センター及び室を置く。

看護部
薬剤部
医療情報企画部
医療安全管理部
病院運営企画室
診療報酬センター
ベッドコントロールセンター
地域ネットワーク医療部
新病院整備推進部
病歴管理室

相談支援センター
患者総合サポートセンター
品質管理室
事業場安全衛生管理室

(略)

12 第2項から前項までに定めるもののほか、第1項に掲げる各組織に関し必要な事項は、病院長が定める。

各組織の長は、各組織の内規において一定の対象者から病院長が指名すると定めているか、本規定条文中にて必要な事項を病院長が定めることとされている。

(ただし、新病院整備推進部長は病院長をもって充てると定めており、看護部長は、候補者選考内規において、選考委員長は病院長をもって充てると定めている。)

第9条 病院に、先端医療研究開発機構を置く。

2 先端医療研究開発機構に、次の部及びセンターを置く。

医療開発部

クリニカルトリアルサイエンス部

臨床研究支援部

次世代医療・iPS細胞治療研究センター

先端医療機器開発・臨床研究センター

先制医療・生活習慣病研究センター

クリニカルバイオリソースセンター

3 前項に定めるもののほか、先端医療研究開発機構に関し必要な事項は、病院長が定める。

各組織の長は、それぞれの内規において、一定の対象者から病院長が指名すると定めている。

(ただし、先制医療・生活習慣病研究センターは、病院長が指名する副病院長又は病院長補佐をもって充てると定めている。)

第10条 病院に、臨床研究・研修部門として、次のセンター、部及び室を置く。

総合臨床教育・研修センター

iPS細胞臨床開発部

看護職キャリアパス支援センター

EHR利用推進センター

レセプト情報等オンサイトリサーチセンター(京都)運用部

倫理支援部

共同機器研究室

2 前項に掲げる各組織に関し必要な事項は、病院長が定める。

各組織の長は、それぞれの内規において、一定の対象者から病院長が指名すると定めている。

(ただし、看護職キャリアパス支援センター長は看護部長、EHR利用推進センター長及びレセプト情報等オンサイトリサーチセンター(京都)運用部長は医療情報企画部長をもって充てると定めている。)

予算執行権限

1. 国立大学法人京都大学予算規則において病院の予算責任者は、病院長と定めている。

(略)

(予算単位と予算責任者)

第3条 会計規程第6条に定める予算単位及び予算責任者は、別表に定めるところによる。

(略)

別表(抜粋)

| | |
|----------------|------------|
| <u>医学部附属病院</u> | <u>病院長</u> |
|----------------|------------|

2. 京都大学医学部附属病院予算委員会規程に次のように定めている。

第1条 京都大学医学部附属病院における予算について審議するため、京都大学医学部附属病院予算委員会(以下「委員会」という。)を置く。

第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 概算要求事項に関すること。
- (2) 予算配分に関すること。
- (3) 予算の執行に関すること。
- (4) その他予算に関し、委員会が必要と認めること。

第3条 委員会は、次に掲げる委員で組織する。

- (1) 病院長
- (2) 内科系教授2名
- (3) 外科系教授2名
- (4) 中央施設部門の部(室)長3名(但し、前各号の委員を兼ねることはできない。)
- (5) 薬剤部長、看護部長及び事務部長
- (6) その他病院長が必要と認める者。

2 前項第1号及び第5号以外の委員は、病院長が委嘱する。

3 第一項第1号及び第5号以外の委員の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第4条 委員会に委員長を置き、病院長をもってあてる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

- 4 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者に委員会への出席を求め、説明又は意見を聞くことができる。

(略)

※以下の内規等は、上述の規程等を補完するもの

病院の管理運営に係る権限

4. 京都大学医学部附属病院運営企画室内規に次のように定めている。

(設置)

第1条 京都大学医学部附属病院（以下「病院」という。）に、病院運営企画室（以下「運営企画室」という。）を置く。

(業務)

第2条 運営企画室は、病院長の指示により病院運営及び経営に関し、情報の収集及び分析を行うとともに必要事項について企画立案し、病院長に提言する。

(略)

5. 外来医長・看護師長会議規程に次のように定めている。

第1条 病院に、外来医長・看護師長会議（以下「会議」という。）を置く。

第2条 会議は、各診療科外来における管理・運営の円滑化をはかるため、病院長の諮問に応じて、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 各診療科外来における診療及び診療事務に関すること。
- (2) 各診療科外来間の連絡及び調整に関すること。
- (3) その他各診療科外来に関すること。

(略)

6. 病棟医長・看護師長会議規程に次のように定めている。

第1条 病院に、病棟医長・看護師長会議（以下「会議」という。）を置く。

第2条 会議は、病棟における管理・運営の円滑化をはかるため、病院長の諮問に応じて、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 病棟における診療及び診療事務に関すること。
- (2) 病棟間の連絡及び調整に関すること。
- (3) その他病棟に関すること。

(略)

7. 京都大学医学部附属病院危機管理会議内規に次のように定めている。構成員は、病院執行部である。

(目的)

第1条 京都大学医学部附属病院（以下「病院」という。）において発生した緊急かつ重大な事案に迅速に対応するため、京都大学医学部附属病院危機管理会議（以下「危機管理会議」という。）を置く。

(業務等)

第2条 危機管理会議は、病院において発生した緊急かつ重大な医療事故、研究活動における不適合事案、院内感染、集団食中毒、天災、人災等に迅速な対応を行う。ただし、医療法に定める特定臨床研究活動及び再生医療等技術を用いる臨床研究活動における不適合事案については、この限りでない。

2 前項における対応のうち、診療行為及び研究活動の継続又は中止の判断については、危機管理会議の議を踏まえて、病院長が行う。

(組織)

第3条 危機管理会議は、次の各号に掲げる者で組織する。

(1) 病院長

(2) 副病院長

(3) 病院長補佐

(4) その他病院長が必要と認める者

(議長)

第4条 病院長は、会議を招集しその議長となる。

(略)

人事権限

5. 外来医長・副医長職務内規に次のように定めている。

第二条 病院各診療科外来に、外来副医長一名を置くことができる。

2 外来副医長は、当該診療科の講師または助教から、当該診療科長の推せんにより病院長が任命する。

6. 病棟医長・副医長職務内規に次のように定めている。

第二条 病院各病棟に、病棟副医長一名を置くことができる。

2 病棟副医長は、当該部局の講師または助教から、当該部局長の推せんにより病院長が任命する。

7. 京都大学医学部附属病院医員等取扱要項に次のように定めている。

1. 医員

第1 (略)

第2 医員の採用は、関係診療科の長・診療部の長（以下「診療科長等」という。）の意見を参考に、病院長が選考のうえ、決定する。

第3 (略)

2～4 (略)

第4 (略)

第5 (略)

2. 医員（研修医）

第6 (略)

第7 医員（研修医）の採用は、別に定める要件を満たした者の中から病院長が決定する。